

決算プレゼンテーション資料

2026年3月期



2026年5月12日

■ 免責事項

本資料の数値のうち、過去の事実以外の当社グループの計画、方針その他の記載にかかわるものは、本資料の発表日現在において入手可能な情報等に基づいて作成したものであります。

しかしながら、当社グループの事業展開上リスクとなる可能性がある要素が複数存在しており、実際の業績等は大きく異なる可能性があります。

■ 本資料における表記

L・C事業	ローン・クレジットカード事業
MUCG	エム・ユー信用保証
yoy	前年同期比または前期比
ytd	前期末比
(E)	見通し
EB、EASY BUY	EASY BUY Public Company Limited
ACF	ACOM CONSUMER FINANCE CORPORATION
ACM	ACOM (M) SDN. BHD.

■ 本資料に関するお問い合わせ

アコム株式会社 広報・IR室

☎ (03)6865-6474

✉ ir@acom.co.jp

01

2026年3月期 決算概要

連結決算概要	4
中核3事業の決算概要	6
資本政策	12
新客数の推移	14
貸倒損失率の推移	15
良質な顧客体験の提供	16
パーセプションの再構築・GeNiEの業務提携先の拡大	17
新規保証提携先の拡大	18
ACF(フィリピン)、ACM(マレーシア)の早期収益化	19
2027年3月期 通期計画	20

02

2026年3月期 決算補足

ローン・クレジットカード事業	24
信用保証事業	30
海外金融事業	34
利息返還の状況	38
貸倒関連費用	40
金融費用	42

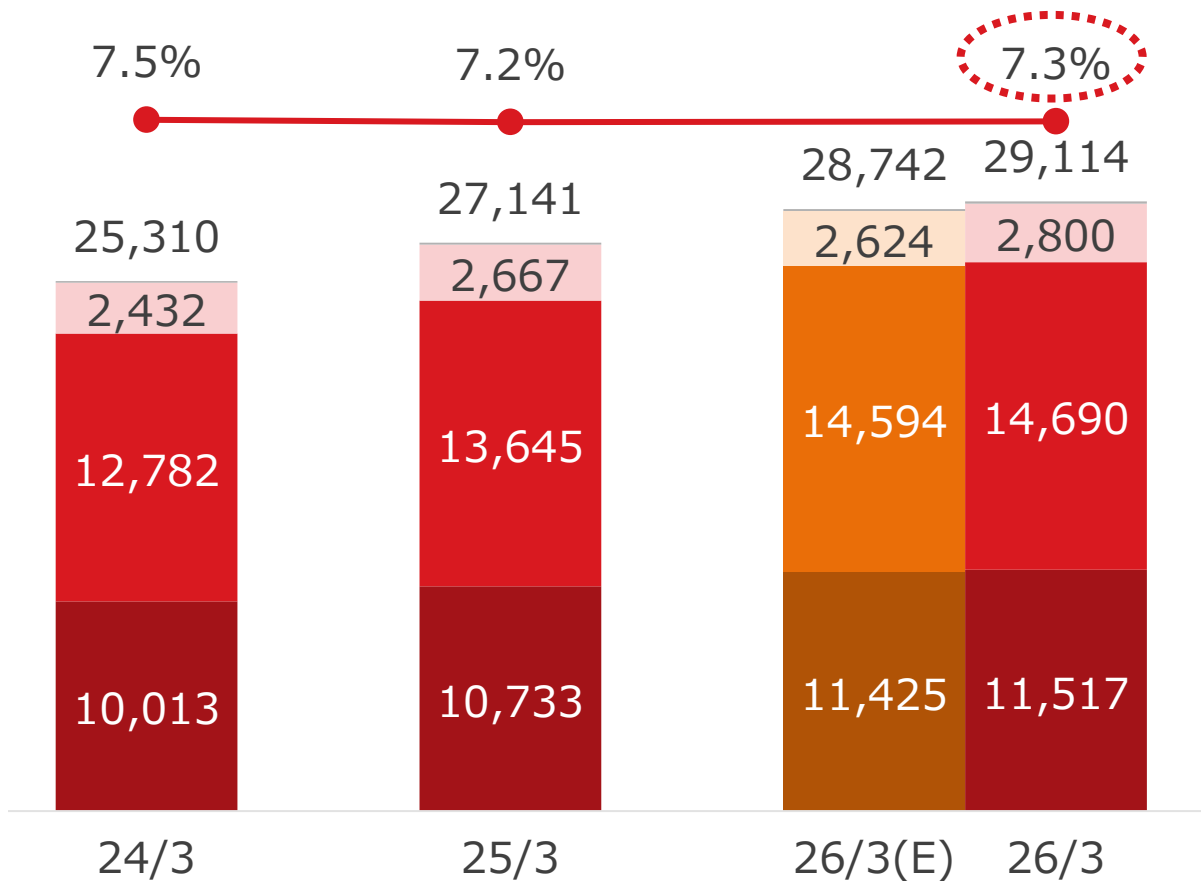
Appendix

市場規模の推移	45
2027年3月期 通期計画	47
利息返還の状況	49
利息返還損失引当金の評価方法	51
事業別営業債権残高営業利益率 (ROA)の目安	52
新客数の推移	53
PBR・ROEの推移	54
企業価値向上ロジックツリー	55
中期経営計画	56

Q 連結決算概要(業容)

- 国内事業の追加利用が好調だったことや、円安パーツ高の為替影響により、順調に業容拡大
- 連結営業債権残高は、前期比+7.3%の2兆9,114億円で着地

■ L・C事業 ■ 信用保証事業 ■ 海外金融事業 ■ その他 ● yoy (億円)



連結
営業債権残高

2兆9,114億円
(yoy + 7.3%)

ローン・クレジット
カード事業

1兆1,517億円
(yoy + 7.3%)

信用保証事業

1兆4,690億円
(yoy + 7.7%)

海外金融事業

2,800億円
(yoy + 5.0%)



連結決算概要(業績)

- 営業収益は、業容拡大に円安の為替影響が加わり、前期比+6.3%の3,377億円
- 営業利益は、利息返還費用が前期比で大幅に減少したことで、同+71.4%の1,003億円
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、同+147.9%の796億円

営業収益

連結	3,377億円 (yoy+6.3%)
ローン・クレジットカード事業	1,818億円 (yoy+7.3%)
信用保証事業	810億円 (yoy+6.2%)
海外金融事業	675億円 (yoy+3.2%)

営業利益

連結	1,003億円 (yoy+71.4%)
ローン・クレジットカード事業	535億円 (yoy+281.9%)
信用保証事業	222億円 (yoy▲5.9%)
海外金融事業	228億円 (yoy+18.1%)

親会社株主に帰属する

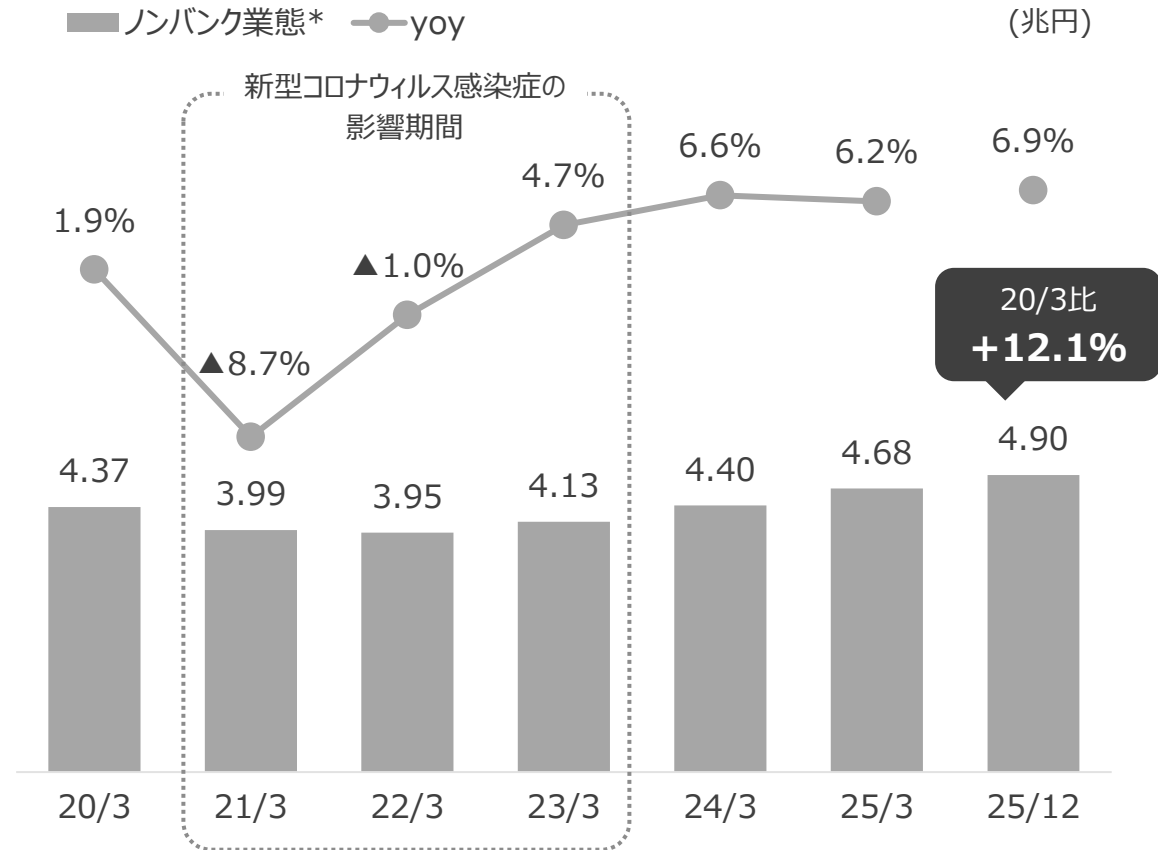
当期純利益

796億円 (yoy+147.9%)

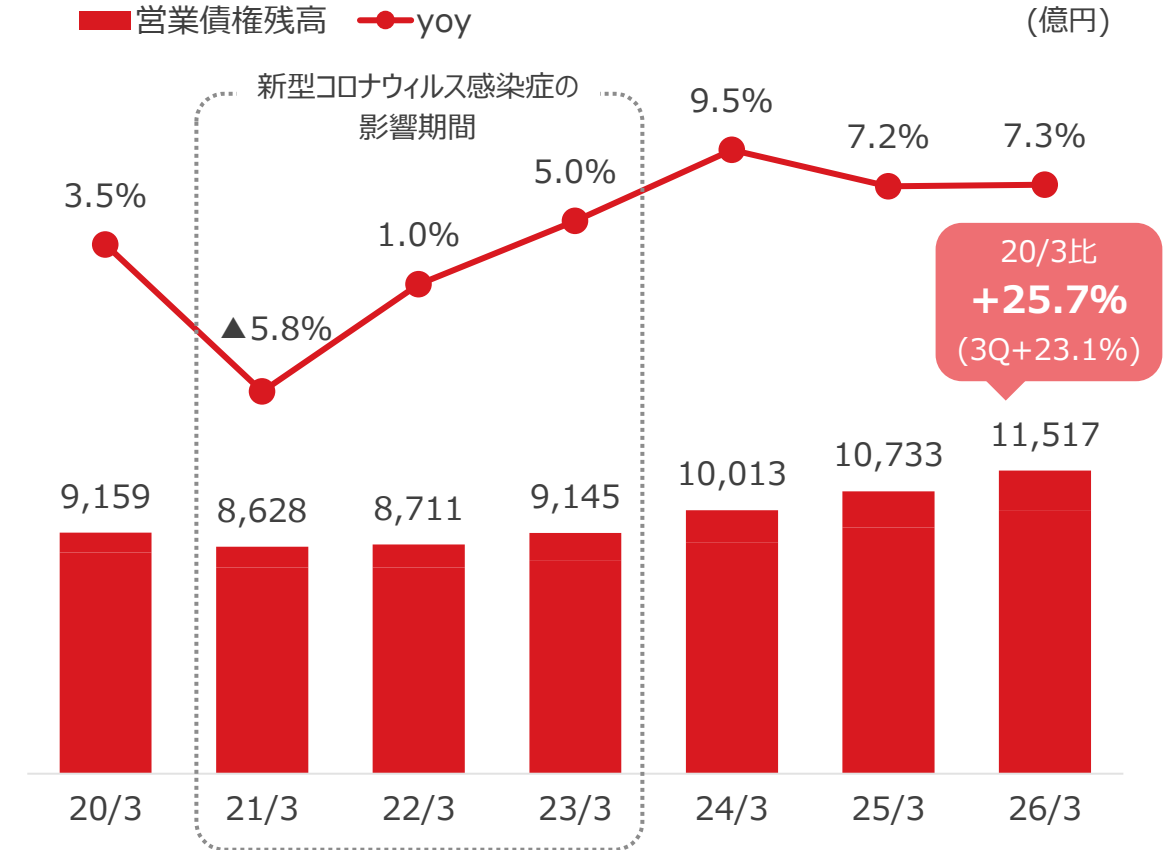
ローン・クレジットカード事業 | 業容(マーケット比較)

- 個人向けローン市場のノンバンク業態は、2020年3月期と比較して+12.1%まで拡大
- アコムがローン・クレジットカード事業においては、市場の拡大を上回り、同+25.7%の業容拡大
- 2026年3月期の営業債権残高は、既存顧客の利用が好調であったことから、前期比+7.3%の1兆1,517億円

■ 個人向けローン市場



■ ローン・クレジットカード事業

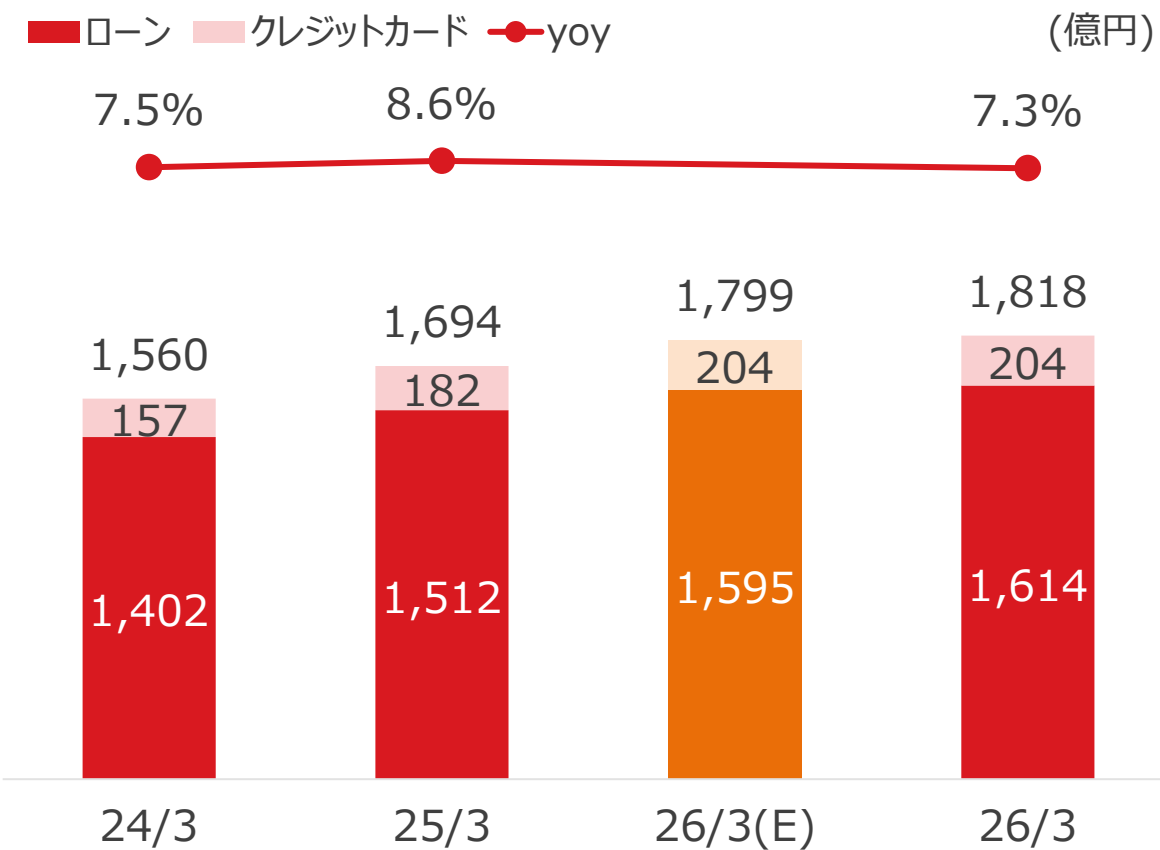


* ノンバンク業態は日本貸金業協会統計の営業貸付金残高（証書貸付を含む）、2025年12月数値は速報値

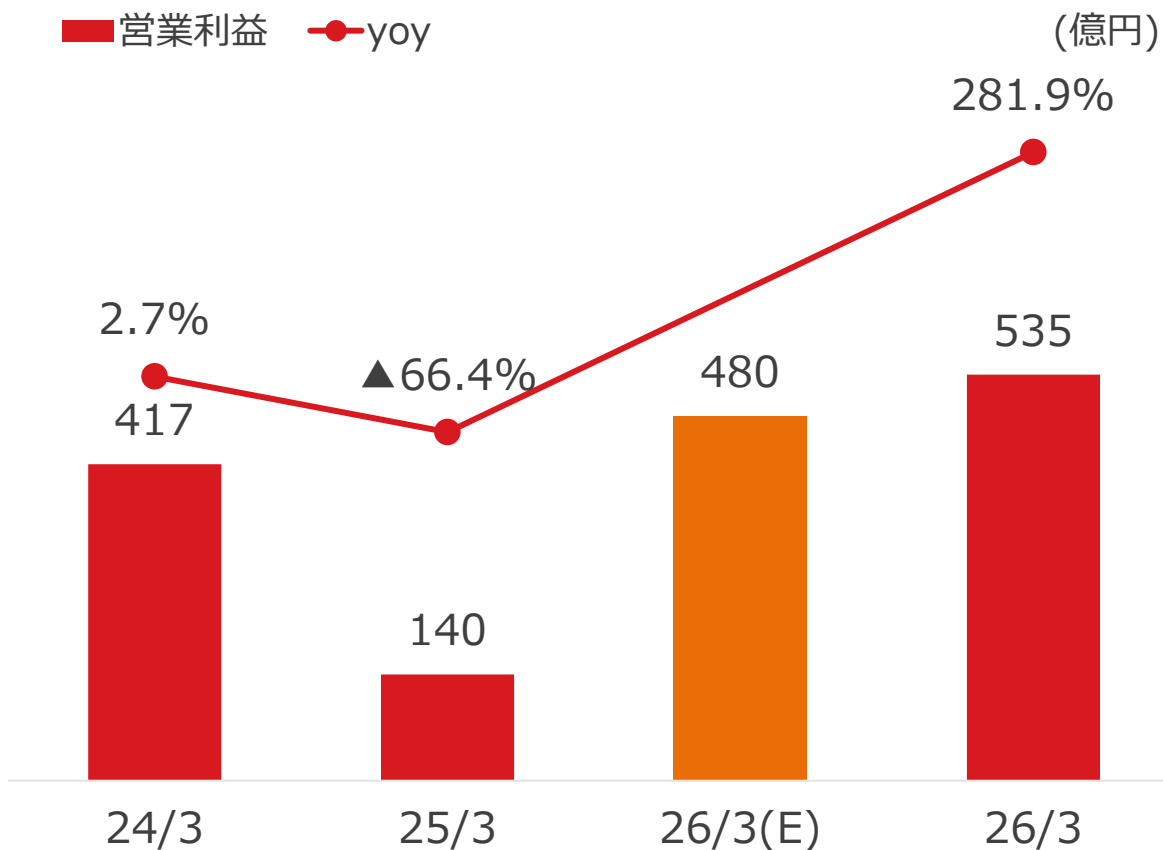
ローン・クレジットカード事業 | 業績

- 営業収益は業容拡大を主因に、前期比+7.3%の1,818億円
- 営業利益は利息返還費用の減少を主因に、同+281.9%の535億円

■ 営業収益



■ 営業利益

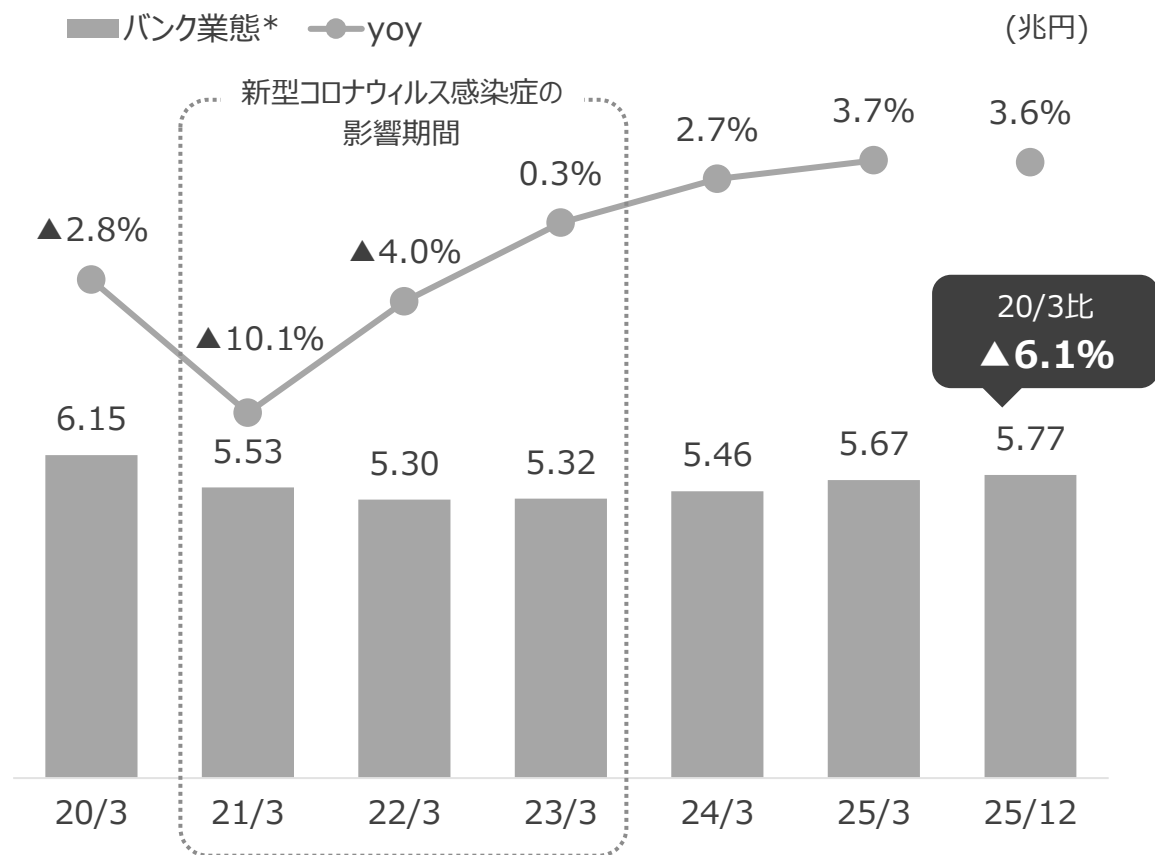




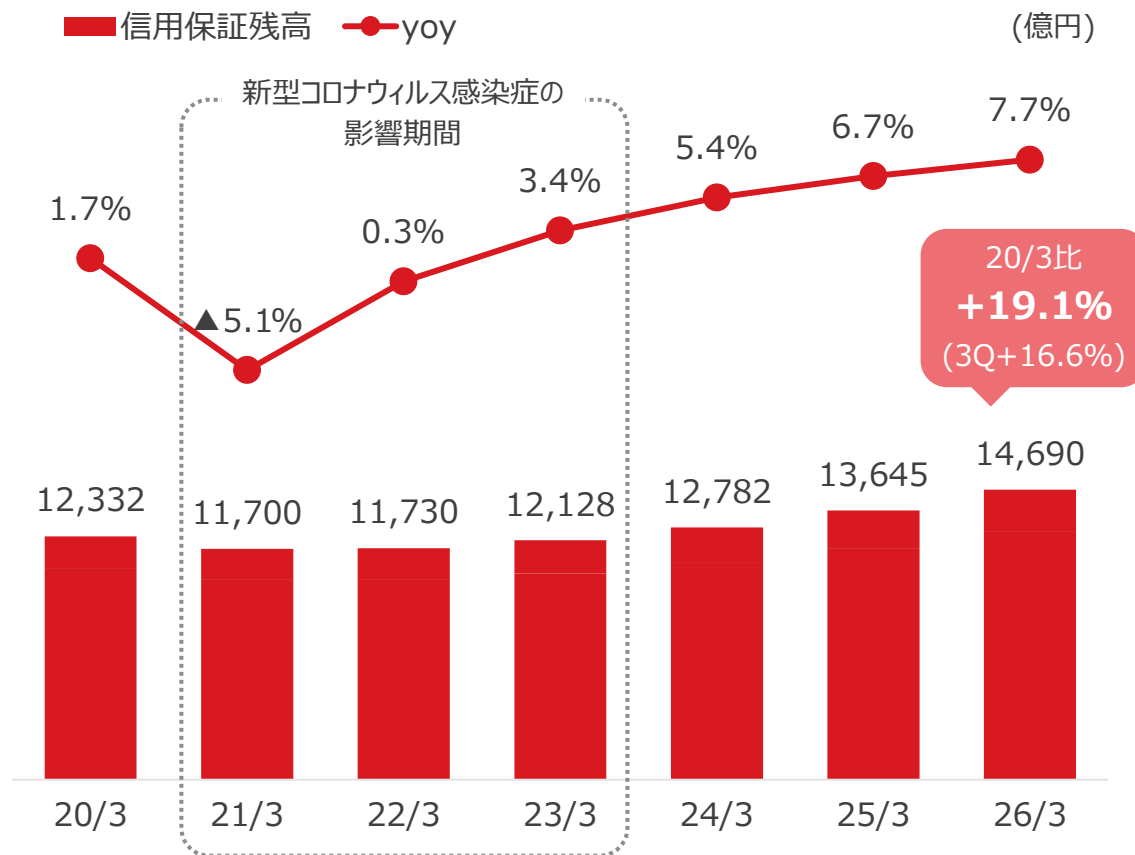
信用保証事業 | 業容(マーケット比較)

- 個人向けローン市場のバンク業態は、2020年3月期と比較して6.1%の減少
- アコム信用保証事業においては、同+19.1%の業容拡大
- 2026年3月期の信用保証残高は、新規及び既存顧客の利用が好調であったことから、前期比+7.7%の1兆4,690億円

■ 個人向けローン市場



■ 信用保証事業



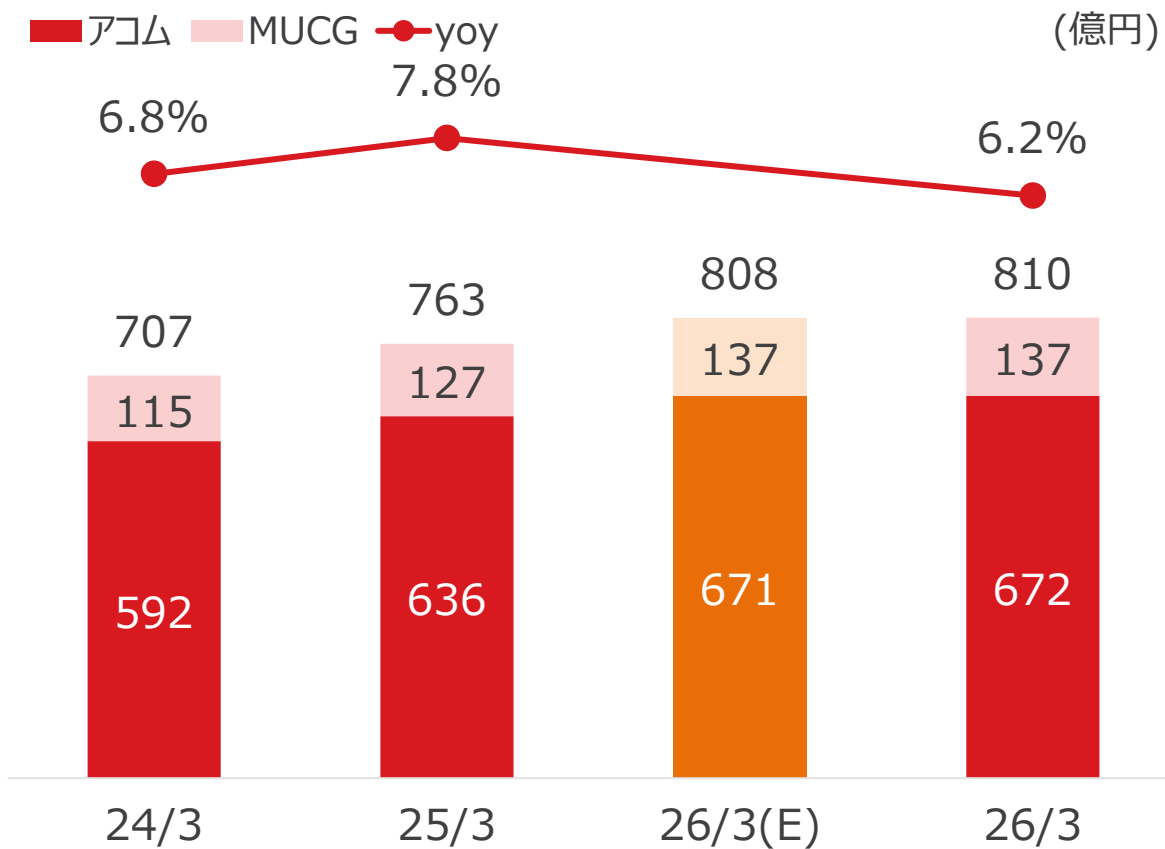
* バンク業態は日本銀行統計の国内銀行及び信用金庫の個人向けカードローン残高、2025年12月数値は速報値



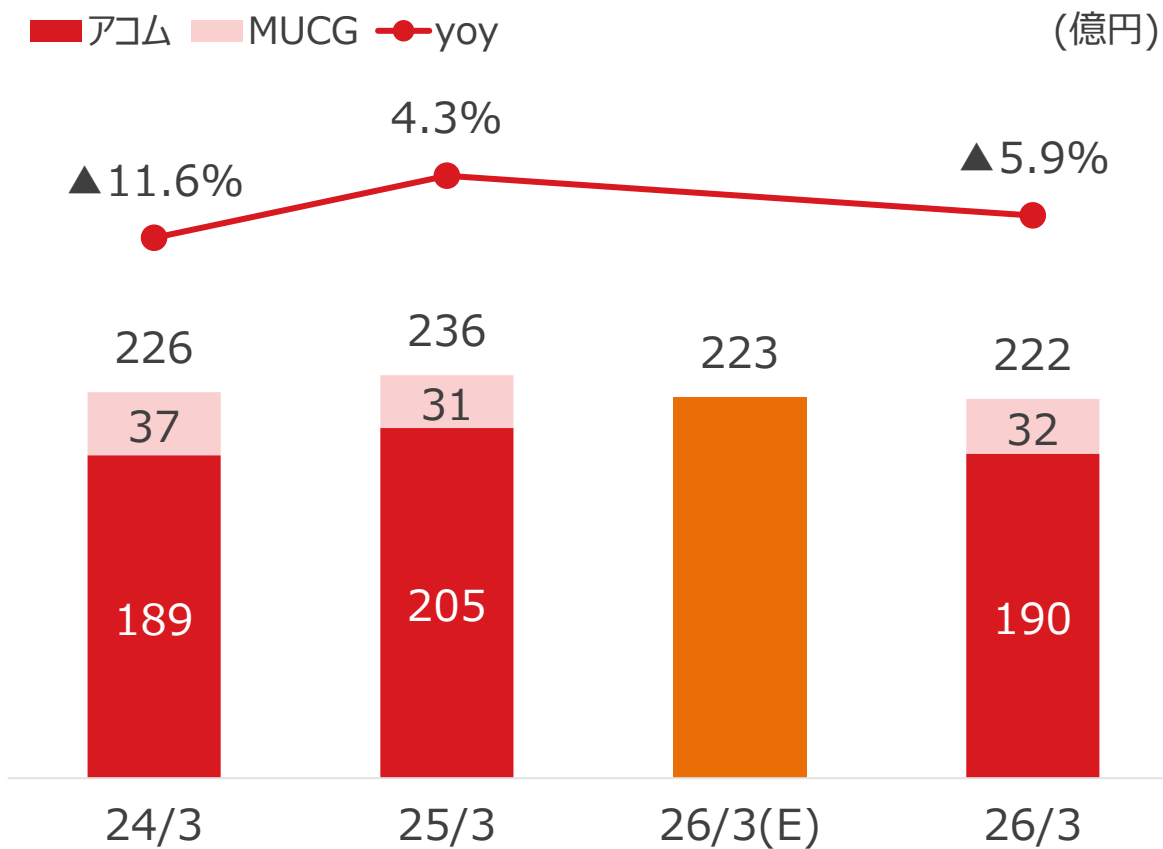
信用保証事業 | 業績

- 営業収益は、業容拡大を主因に、前期比 + 6.2%の810億円
- 営業利益は、貸倒関連費用の増加を主因に、同▲5.9%の222億円

■ 営業収益



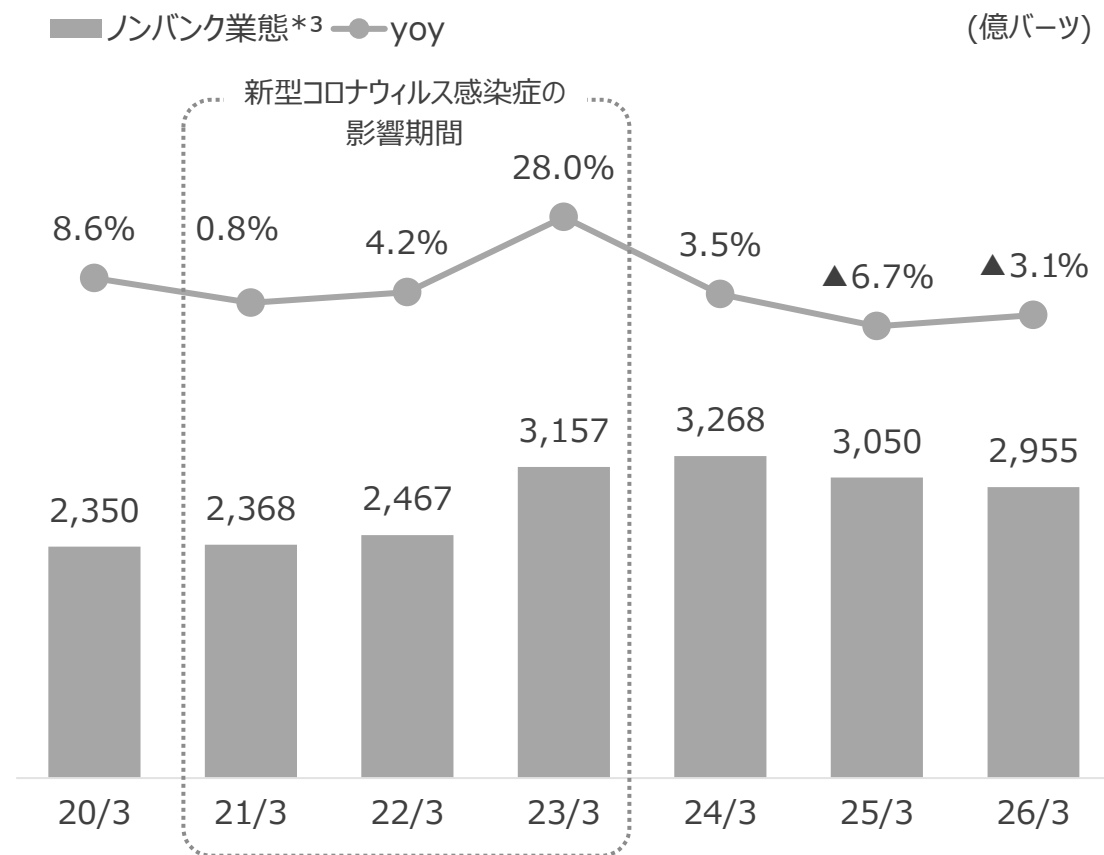
■ 営業利益



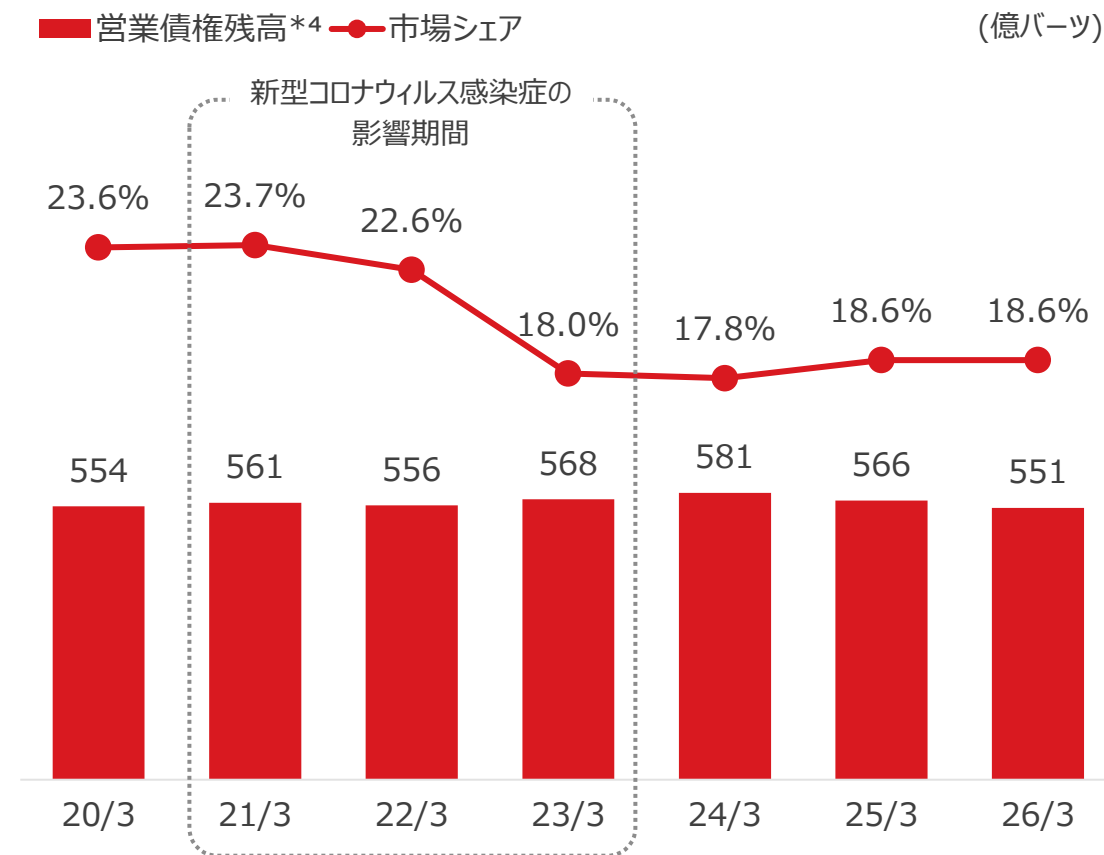
Q 海外金融事業(EASY BUY) | タイ国内における市場シェア

- タイ国内における個人向けローン市場のノンバンク業態は、前期比▲3.1%の減少
- 新型コロナウイルス感染症に対する救済措置*¹の終了や、融資規制*²などの影響を受けている債権の構成比が高まり、EASY BUYの営業債権残高の伸長余地は縮小しているものの、市場シェアは回復傾向

■ 個人向けローン市場(タイ)



■ EASY BUY(タイ)

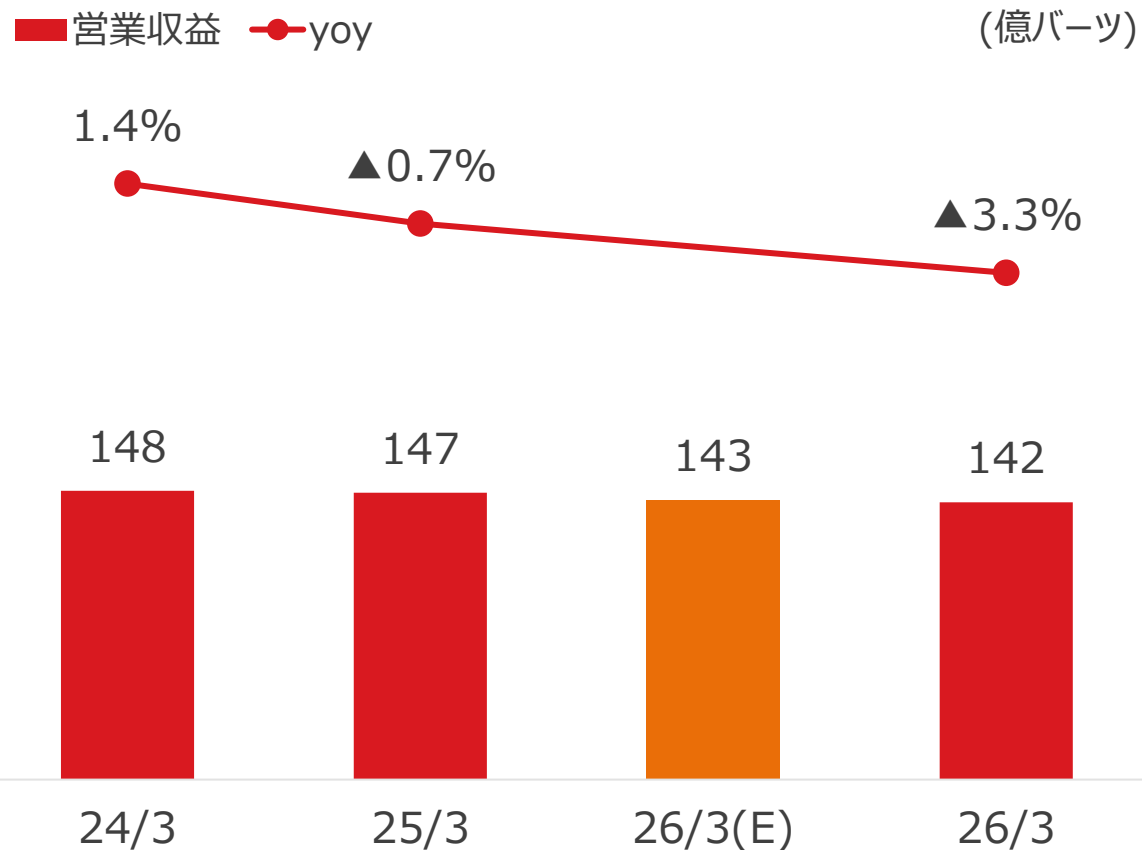


*¹ 与信枠の緩和、借入金融機関数の上限撤廃措置 *² 月収の1.5倍が極度額上限、借入上限3社 *³ ノンバンク業態はタイ中央銀行統計データ *⁴ 営業債権残高は営業貸付金残高と割賦売掛金残高の合計

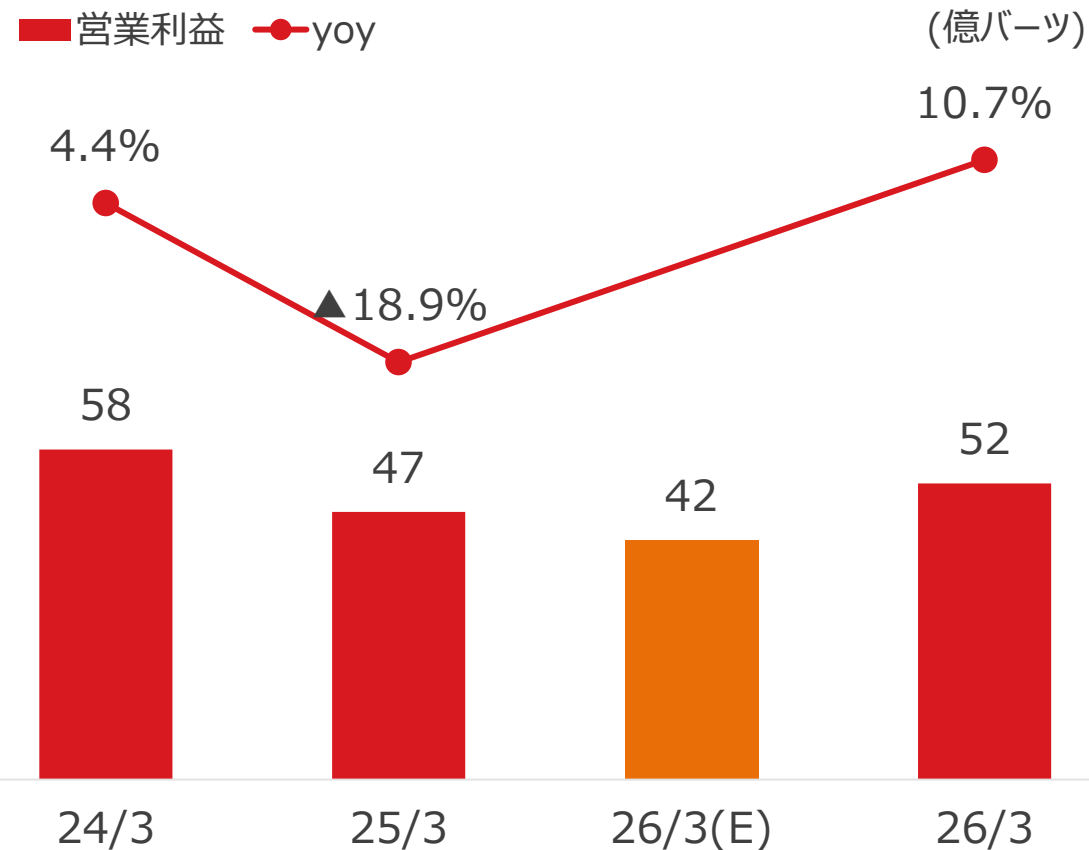
海外金融事業(EASY BUY) | 業績

- 営業収益は、前期比▲3.3%の142億バーツ
- 営業利益は、貸倒関連費用の減少を主因に、同+10.7%の52億バーツ

■ 営業収益



■ 営業利益



資本政策

資本政策の基本的な考え方

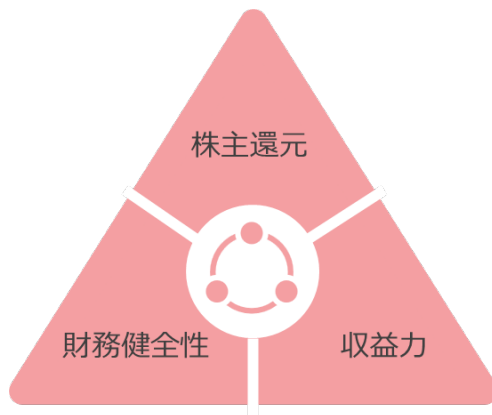
持続的な企業価値向上に向けて、財務健全性維持及び収益力強化を図り、安定的・継続的な株主配当を堅持する

2028年3月期末に目指す姿

自己資本比率*1 **23%** 程度

ROE **10%** 程度

配当性向 **50%** 程度



1株当たり配当額

22円 / 中間10円 期末12円*2

2026年3月期末時点

自己資本比率*1 **23.3%**

目標とする23%を達成

ROE **11.6%**

営業収益：3,377億円
営業利益：1,003億円

配当性向 **43.3%**

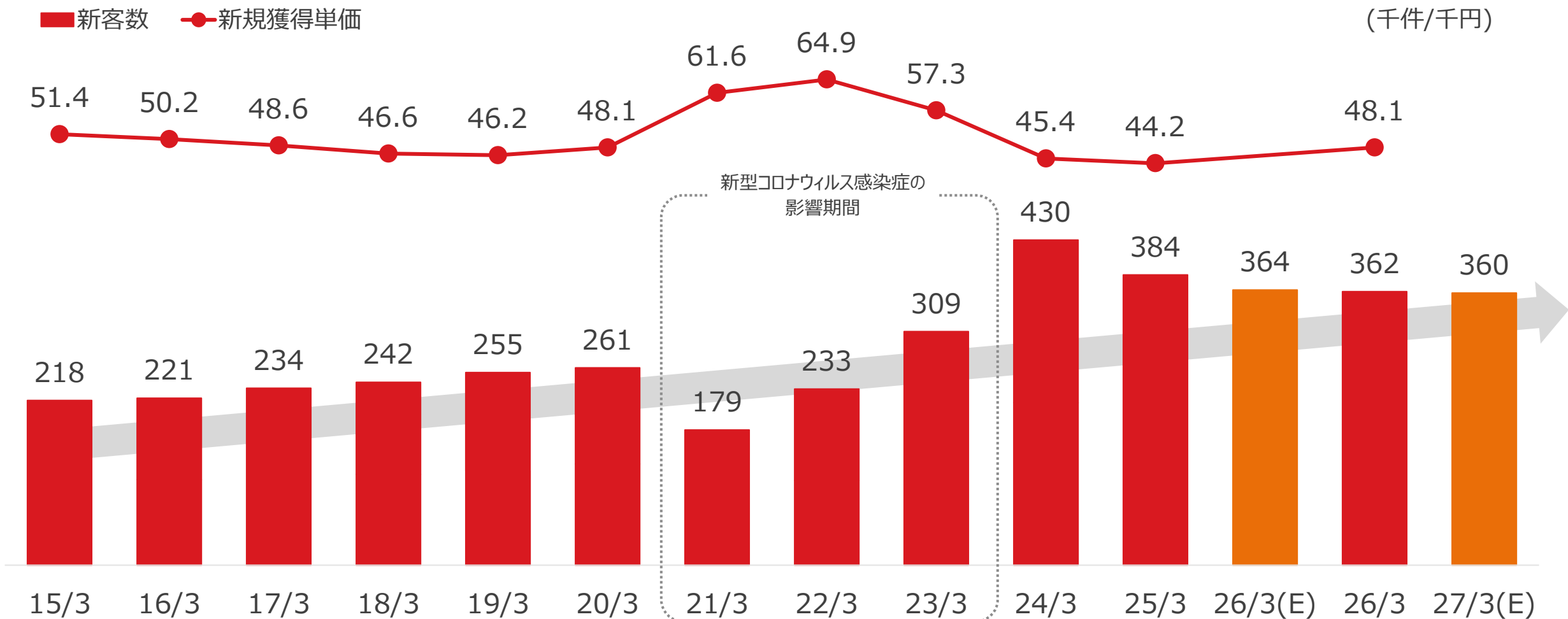
前回期末配当予想から2円増配

*1 連結総資産に信用保証残高を加算して算出した自己資本比率 *2 期末配当は、2026年6月開催予定の定時株主総会において承認されることが前提

2026年3月期 トピックス

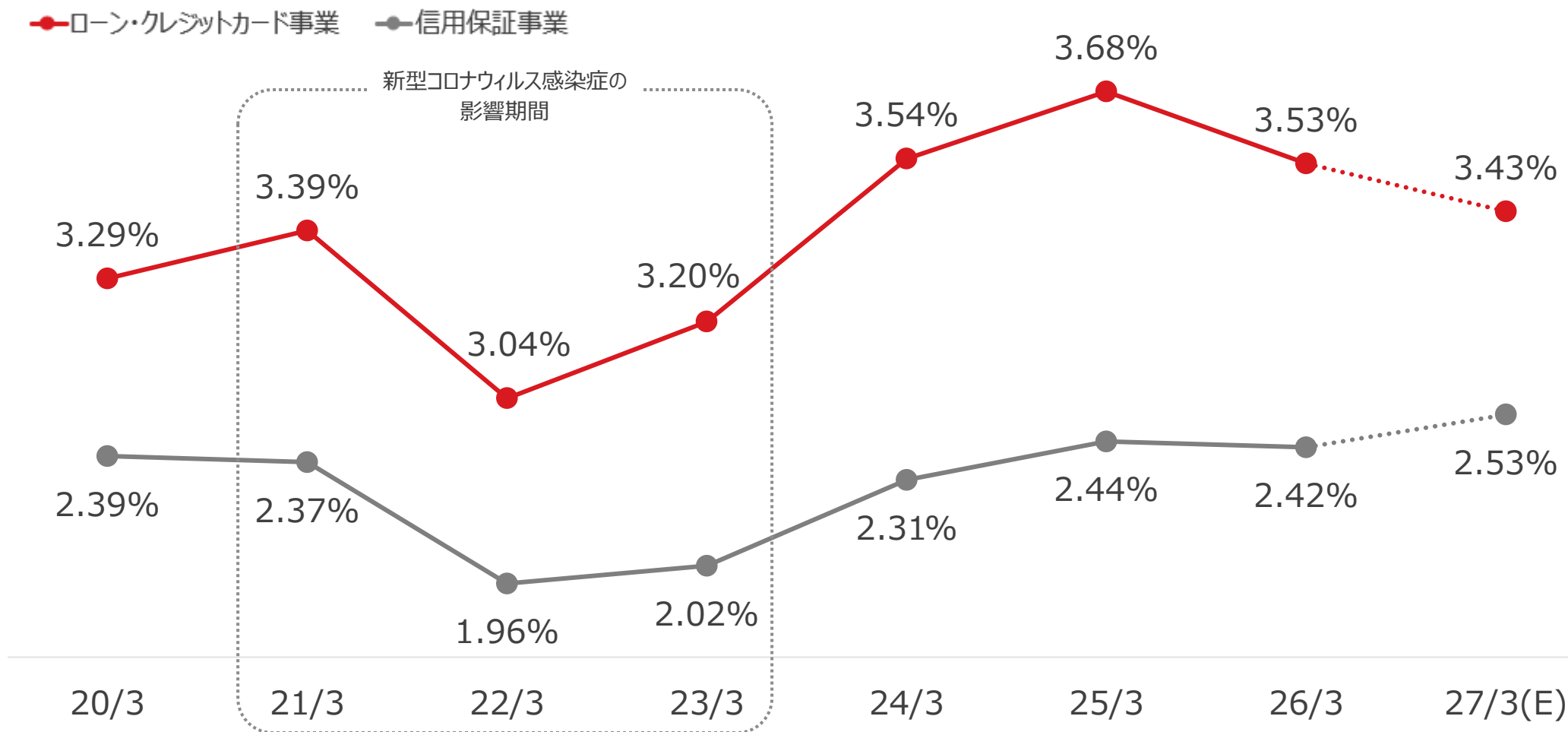
トピックス | 新客数の推移

- 新客数は36.2万件で着地。新規獲得単価は、48.1千円
- 2027年3月期の新客数は、36.0万件を計画



トピックス | 貸倒損失率の推移

- ペントアップ需要による好調な新規集客の影響で、貸倒発生率の高い取引期間の短いお客さまの構成比が上昇
- 2026年3月期の貸倒損失率は、ローン・クレジットカード事業、信用保証事業共に想定範囲内で推移



● PayPayアカウントとの連携

- ✓ PayPayマネーへ借入額をチャージ、
PayPayマネーからの返済サービスを開始



● 業務改革・デジタル推進

- ✓ ローン・クレジットカード事業において、4月より
BPR(Business Process Re-engineering)を開始
- ✓ 業務を抜本的に見直し、ヒトとデジタルのすみ分けを推進



Qトピックス | パーセプション*の再構築・GeNiEの業務提携先の拡大

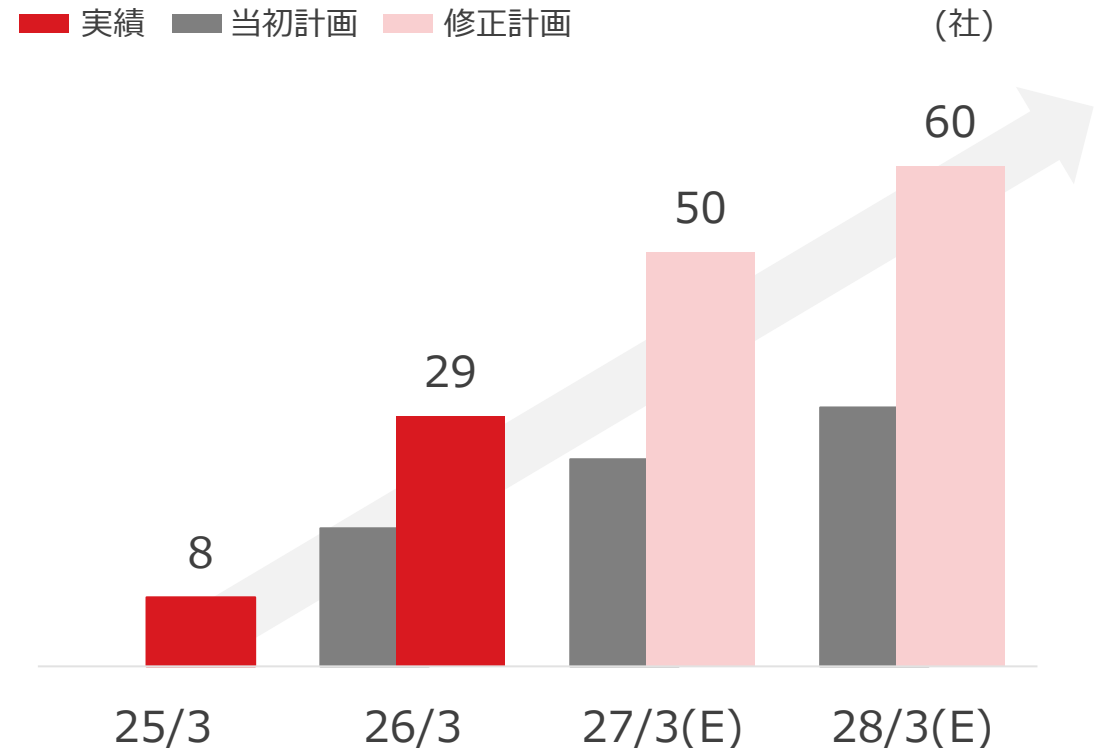
● 新CM放映開始

- ✓ 「安心感・信頼感」の向上をテーマに営業CMを刷新
- ✓ 著名タレントの松平健氏を起用



● 29社まで提携先を拡大、計画を修正

- ✓ 計画を中計3ヶ年で60社程度へ引き上げ（当初30社以上）
- ✓ 2027年3月期においては、50社程度との提携を目指す



* パーセプションとは、消費者のイメージや購買決定要因となる企業やブランドの認識・認知、知覚

トピックス | 新規保証提携先の拡大

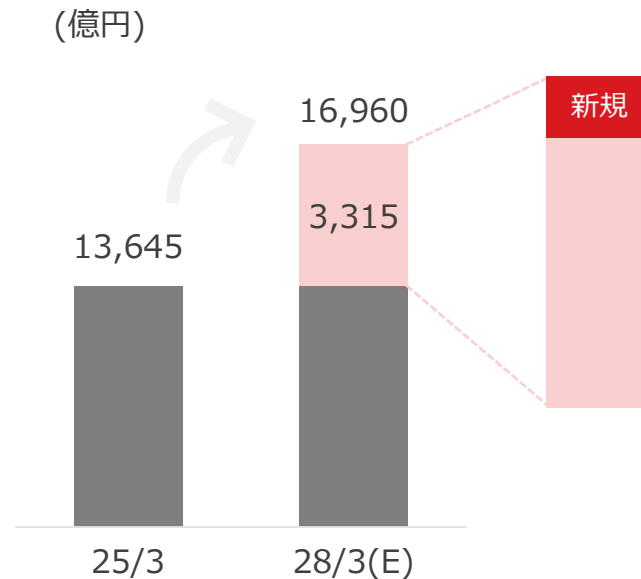
● 新規保証提携先の拡大

- ✓ 昨年4月以降、1社5行との新規提携を実現
- ✓ 2026年4月より、トマト銀行との提携を開始
- ✓ 10月にはオリックス銀行との提携を開始予定



● 新規保証提携の残高伸長

- ✓ 中計3ヶ年で連結信用保証残高3,315億円の伸長のうち、20%を新規保証提携で積み上げる
- ✓ 2026年3月末時点では、計画通り進捗

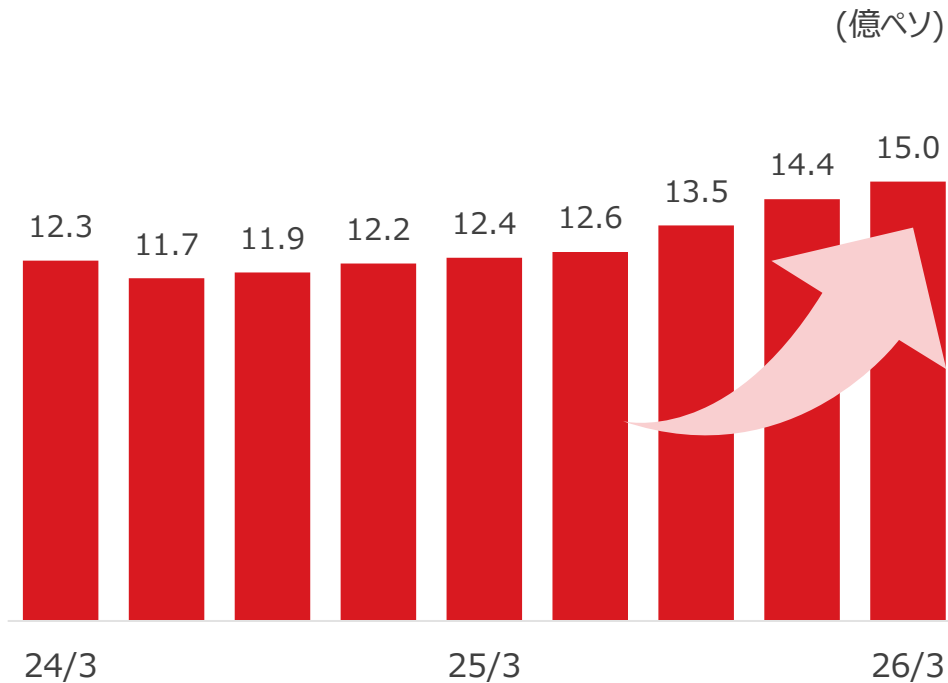




トピックス | ACF(フィリピン)、ACM (マレーシア)の早期収益化

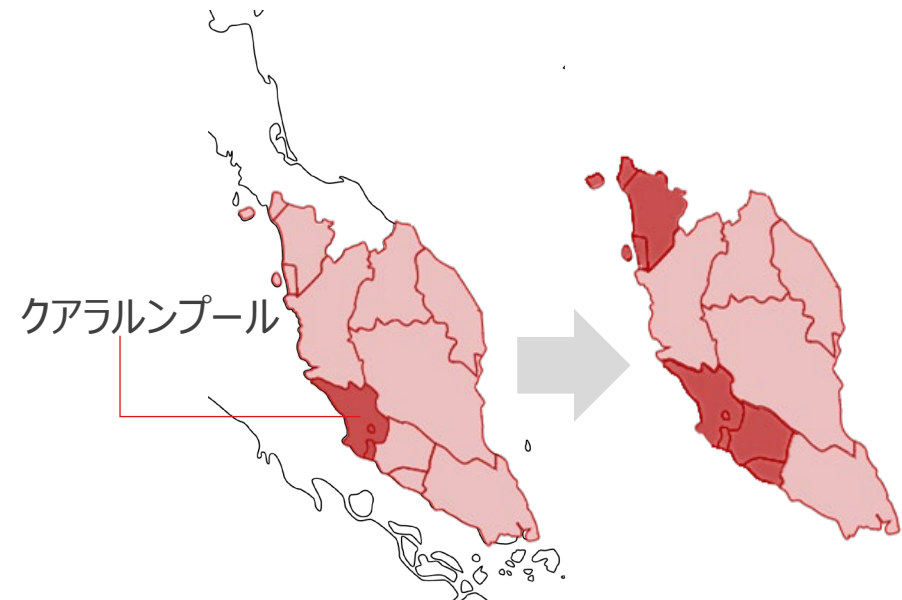
● ACF(フィリピン) | 営業債権残高

- ✓ 残高は現地通貨ベースで順調に拡大
- ✓ 早期収益化に向け、延滞抑制の強化を継続



● ACM(マレーシア) | 集客エリア拡大

- ✓ 集客エリアの拡大に伴い、2026年3月末時点で、申込件数は **約3.7倍に増加**
- ✓ 早期収益化に向け、新規獲得を強化



2027年3月期 通期計画(業容)

- 中計最終年度を見据え、着実に業容拡大を図り、連結営業債権残高は前期比 + 6.5%の3兆997億円を計画
- 新客数は360千件を目指す

営業債権残高

連結	3兆998億円 (yoy + 6.5%)
----	--------------------------------

ローン・クレジットカード事業	1兆2,378億円 (yoy + 7.5%)
----------------	----------------------------------

信用保証事業	1兆5,831億円 (yoy + 7.8%)
--------	----------------------------------

海外金融事業	2,679億円 (yoy ▲4.3%)
--------	-------------------------------

新客数(ローン・クレジットカード事業)

360千件 (yoy ▲0.8%)

広告宣伝費

178億円 (yoy + 1.9%)

2027年3月期 通期計画(業績)

- 営業収益は、業容拡大を主因に前期比 + 5.4% の 3,560 億円を計画
- 営業利益は、同 ▲ 2.4% の 980 億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同 ▲ 19.9% の 638 億円を計画
- 配当は年間 22 円を計画

営業収益

中計比 + 2.2%

連結

3,560 億円
(yoy + 5.4%)

ローン・クレジットカード事業

1,916 億円
(yoy + 5.3%)

信用保証事業

860 億円
(yoy + 6.1%)

海外金融事業

704 億円
(yoy + 4.3%)

営業利益

980 億円
(yoy ▲ 2.4%)

中計比 + 4.7%

親会社株主に帰属する
当期純利益

638 億円
(yoy ▲ 19.9%)

配当金

中間 : **11 円**
期末 : **11 円** } 年間 **22 円**

配当性向

54.0%

EASY BUY(タイ)

新たな収益基盤の確保に向け、
貸金業と親和性のある
新規事業への参入を検討中



新たな国への事業進出

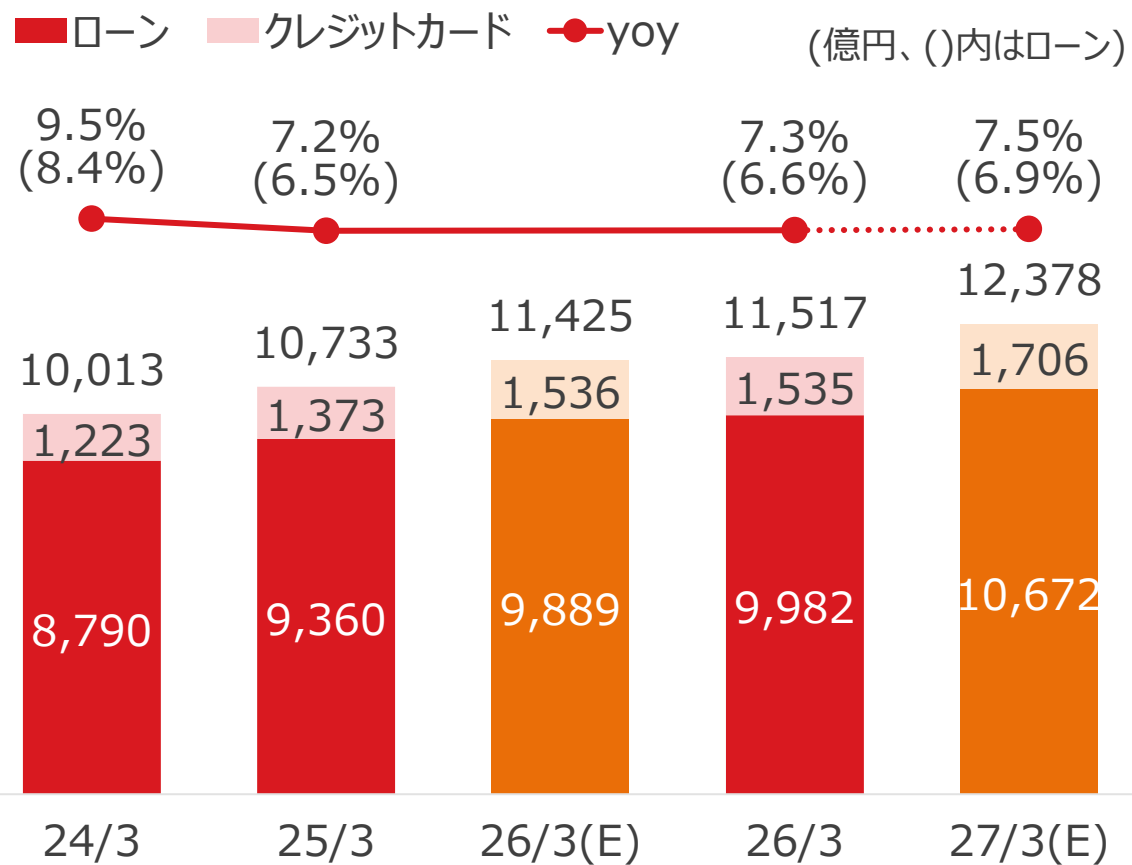
今中計期間中に
1ヶ国以上の進出を目指し、
カンボジアを集中的に調査中

2026年3月期 決算補足

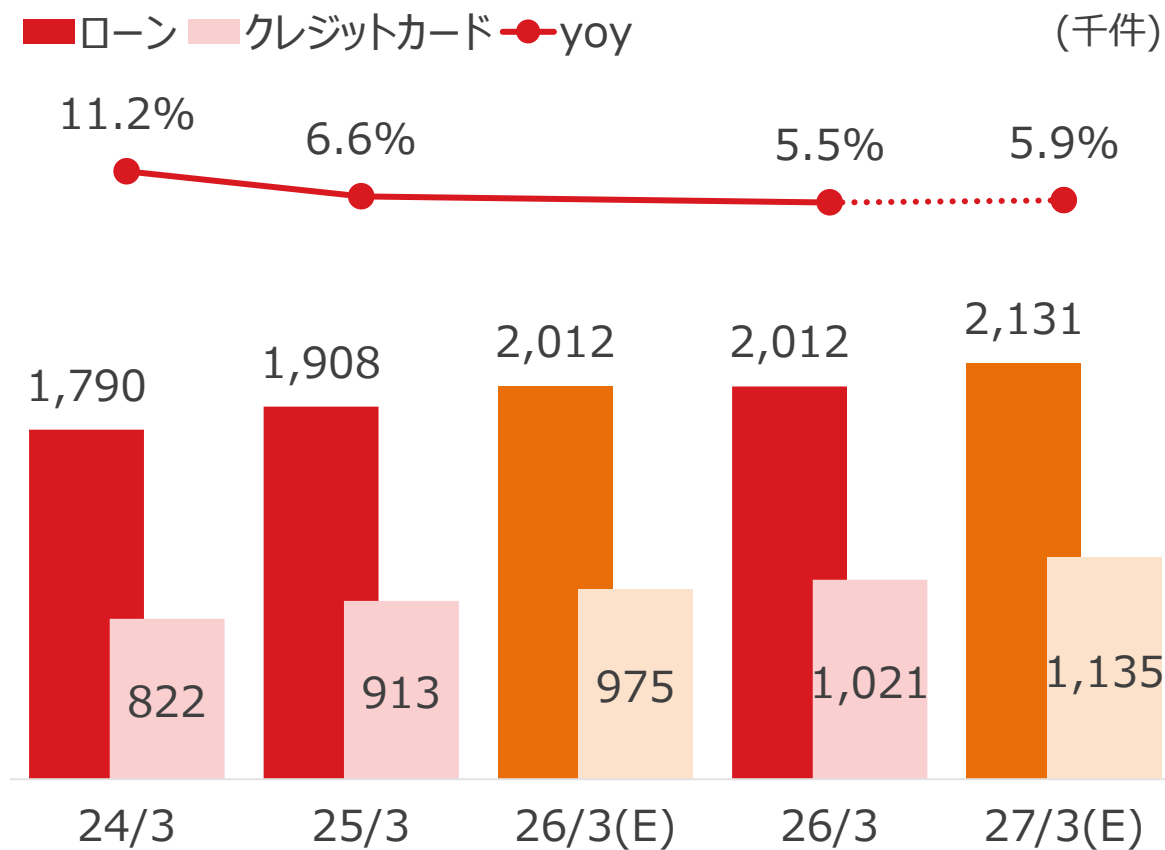
Q ローン・クレジットカード事業 | 業容

- 既存顧客の利用が好調であったことから、営業債権残高は前期比 + 7.3% の 1 兆 1,517 億円
- 利用者数は同 + 5.5% の 2,012 千件

■ 営業債権残高



■ 利用者数*

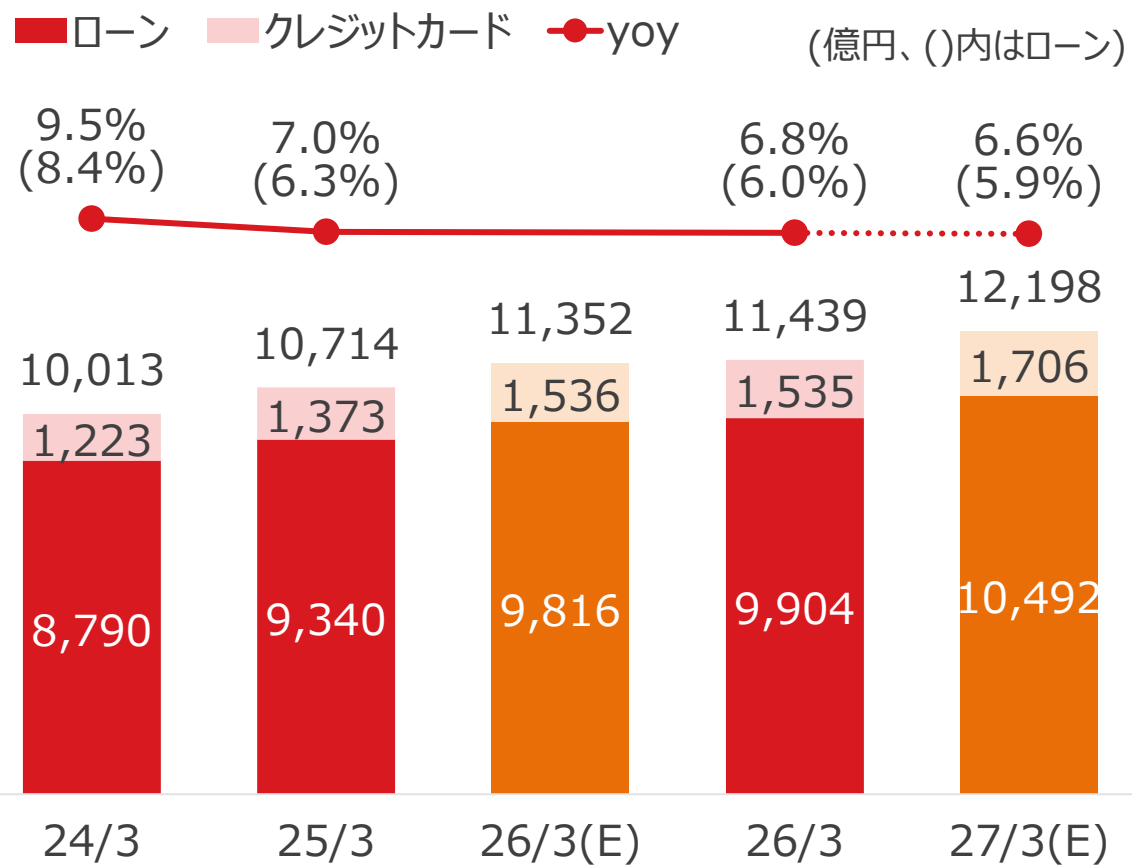


* クレジットカード事業の利用者数は、有効会員数

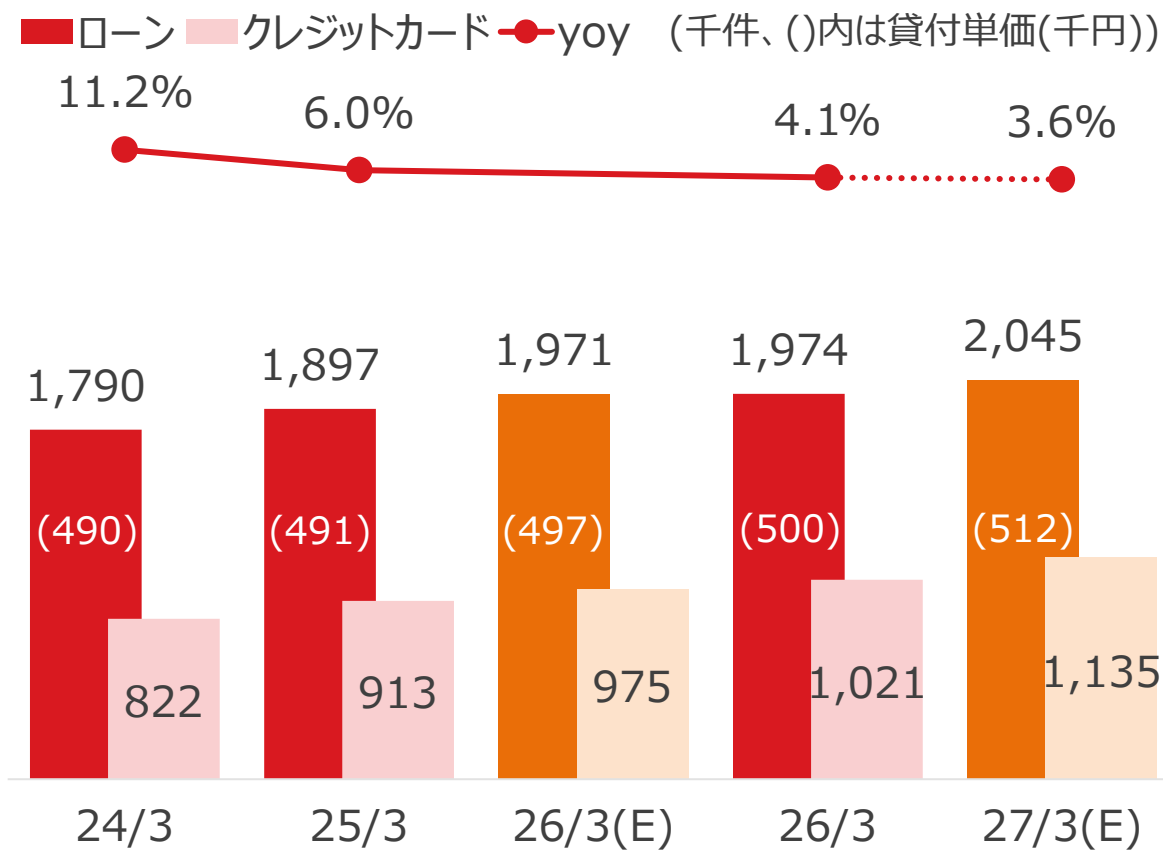
Q ローン・クレジットカード事業 | 業容(アコム)

- 既存顧客の利用が好調であったことから、営業債権残高は前期比 + 6.8%の1兆1,439億円
- 利用者数は同 + 4.1%の1,974千件

■ 営業債権残高



■ 利用者数*

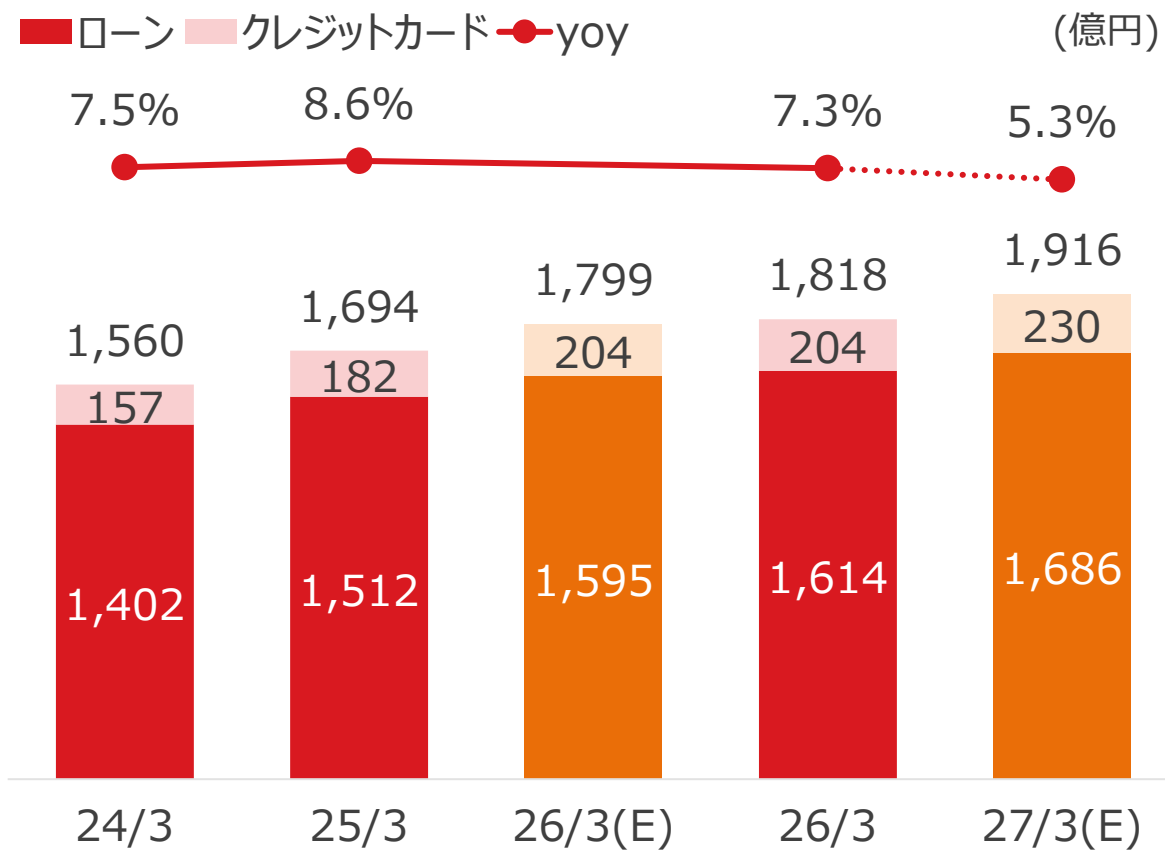


* クレジットカード事業の利用者数は、有効会員数

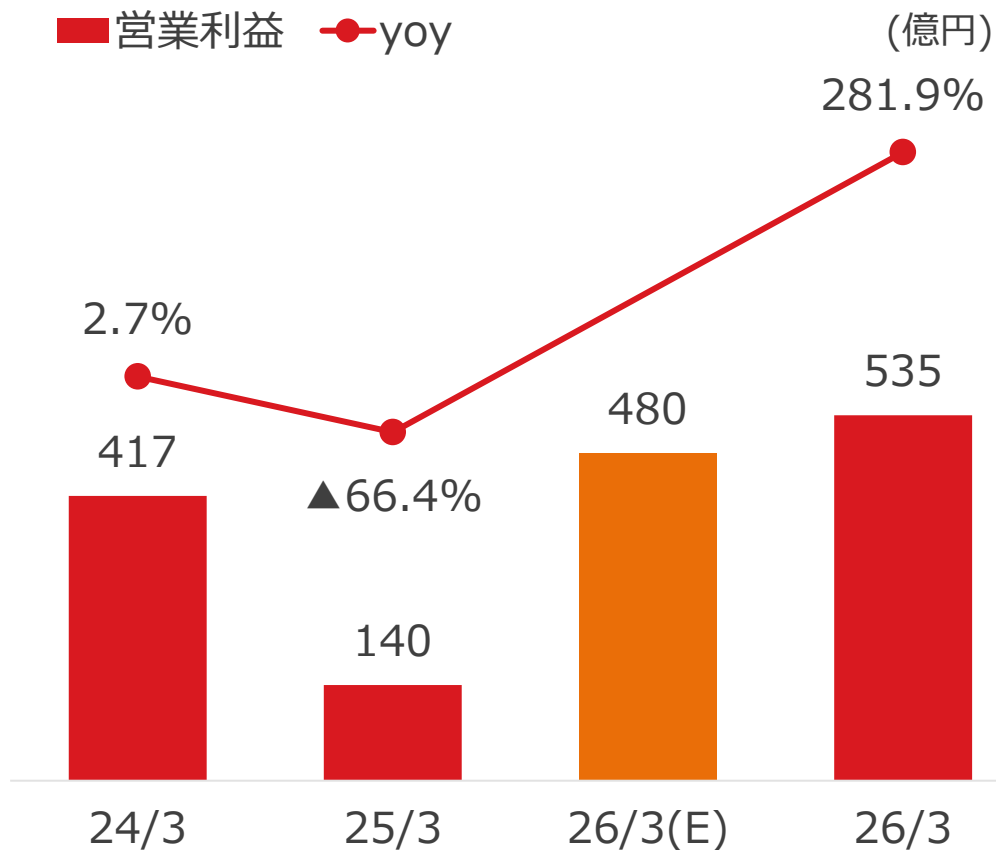
Q ローン・クレジットカード事業 | 業績

- 営業収益は業容拡大を主因に、前期比+7.3%の1,818億円
- 営業利益は利息返還費用の減少を主因に、同+281.9%の535億円

■ 営業収益



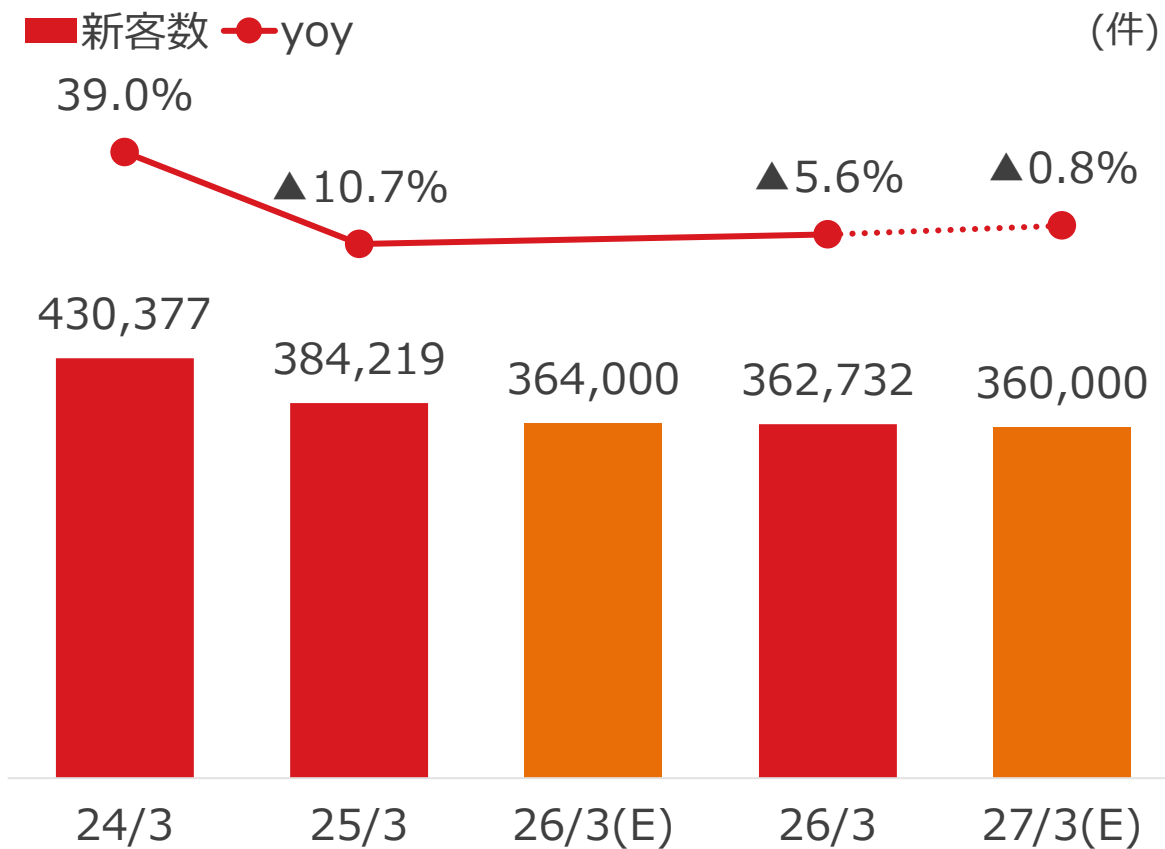
■ 営業利益



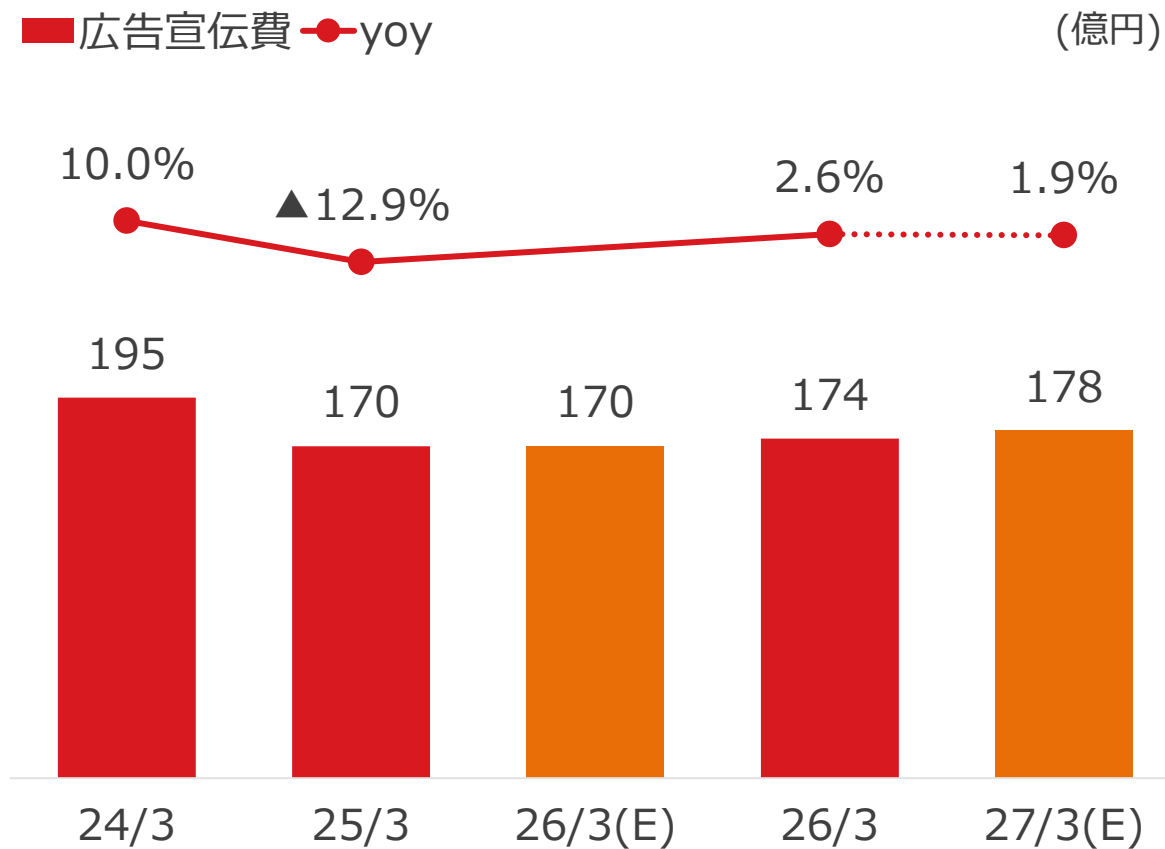
ローン・クレジットカード事業 | 新客数(アコム)

- 新客数は、前期比▲5.6%の362,732件。2027年3月期は、36万件を計画
- 広告宣伝費は、同+2.6%の174億円

■ 新客数(無担保)



■ 広告宣伝費(アコム)

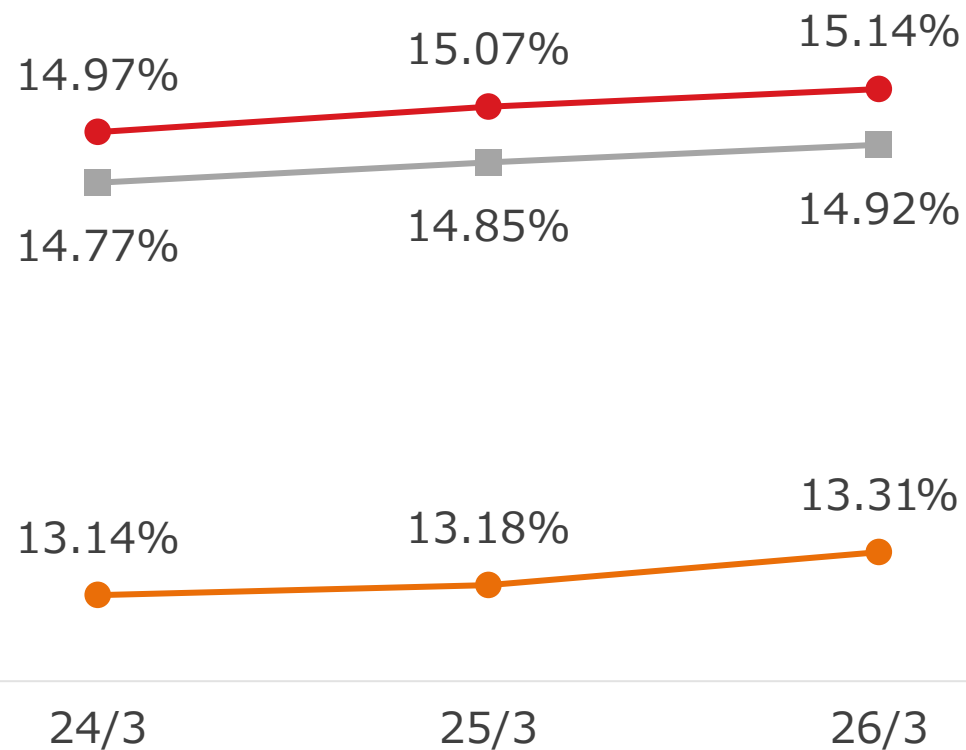


Q ローン・クレジットカード事業 | 利回り・貸倒損失(アコム)

- ローン・クレジットカード事業の期中平均利回りは、前期比 + 7bpsの14.92%
- 貸倒損失率は、同 ▲15bpsの3.53%

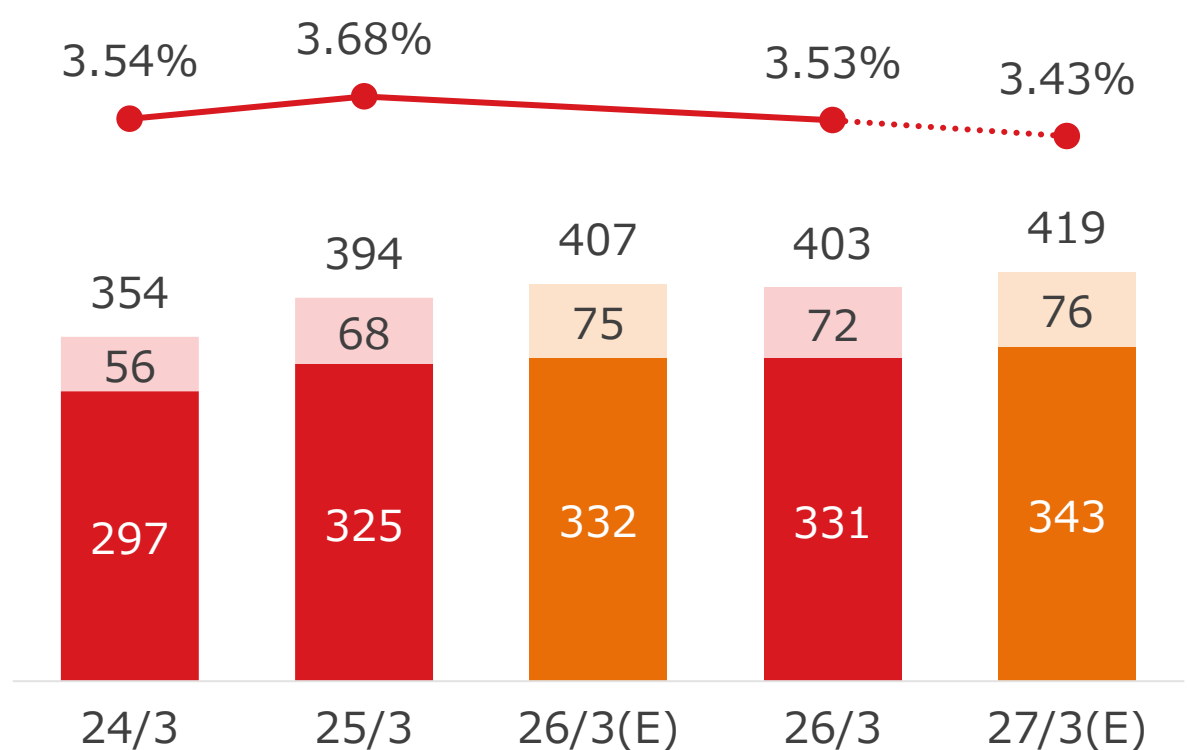
■ 期中平均利回り*1

●ローン ●クレジットカード ■ローン・クレジットカード



■ 貸倒損失額・損失率*2

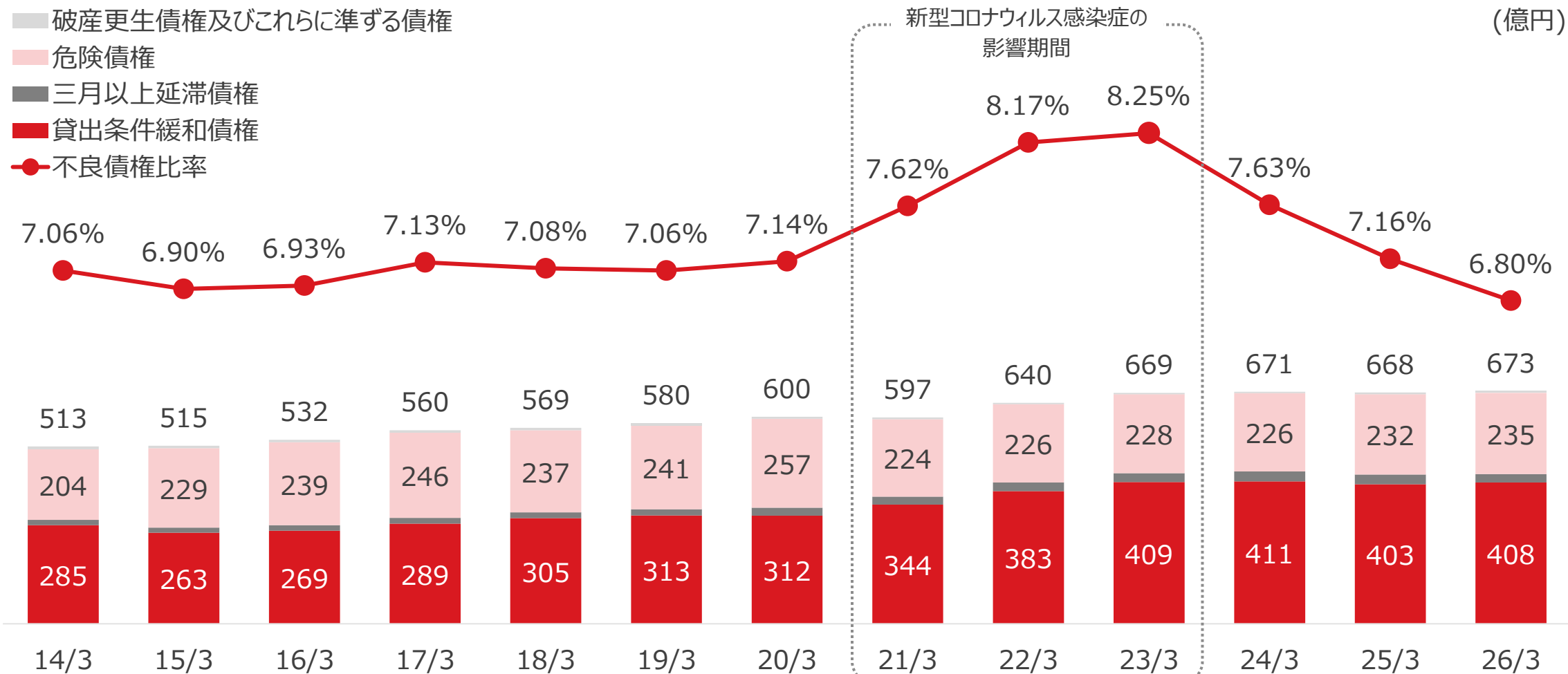
■ローン ■クレジットカード ●貸倒損失率 (億円)



*1 クレジットカードにおける利回りはリボルビング残高と手数料より算出 *2 貸倒損失額及び損失率は利息返還請求に起因する債権放棄分を除く

ローン事業 | 不良債権

- 不良債権残高は、673億円
- 債権の良化に伴い、不良債権比率は6.80%まで低下

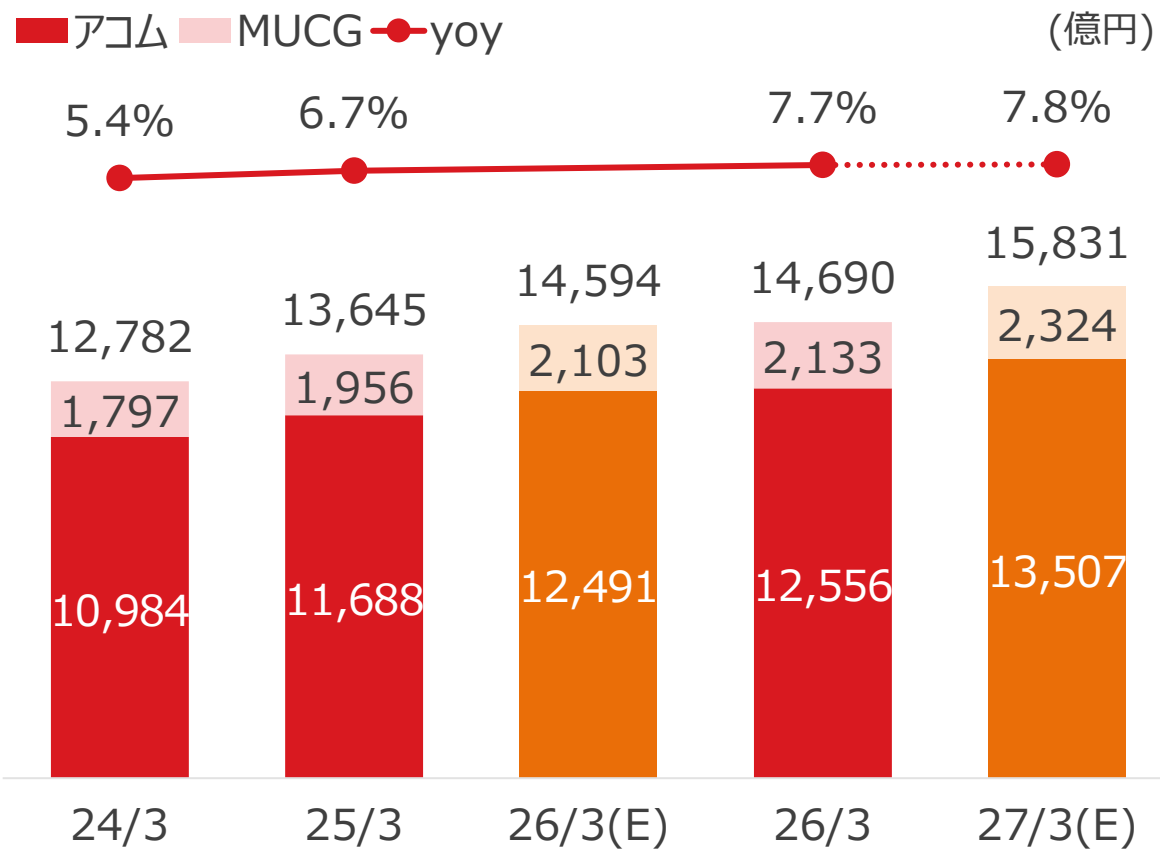




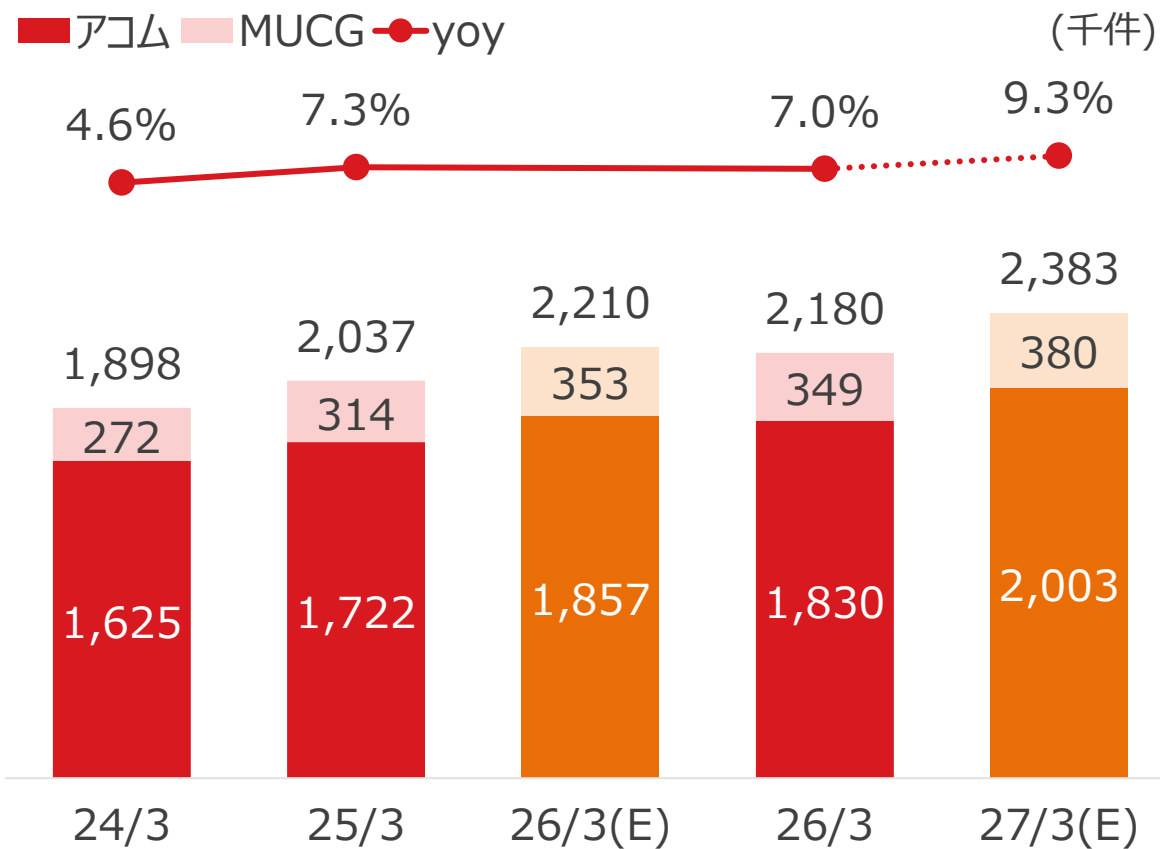
信用保証事業 | 業容

- 新規顧客及び既存顧客の利用が好調であったことから、信用保証残高は前期比 + 7.7% の 1 兆 4,690 億円
- 利用者数は同 + 7.0% の 2,180 千件

■ 信用保証残高



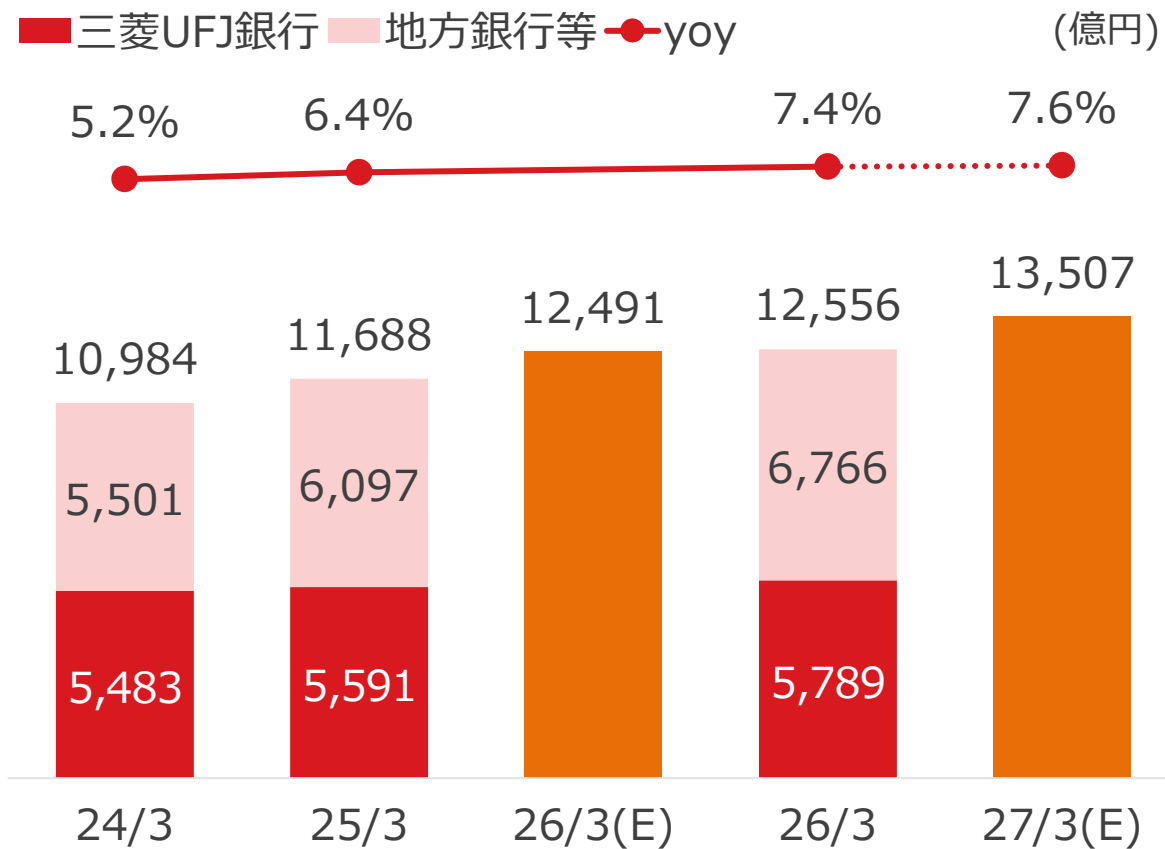
■ 利用者数



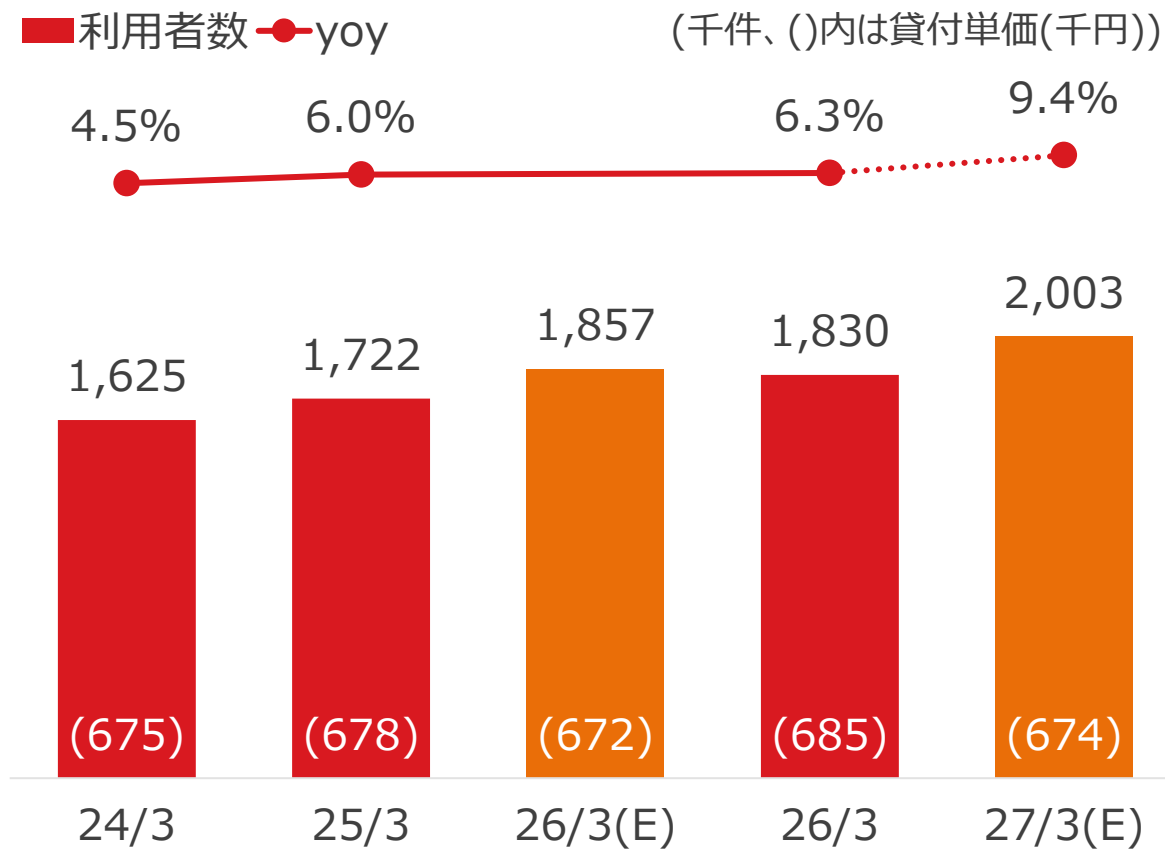
信用保証事業 | 業容(アコム)

- アコム単体の信用保証残高は、前期比 + 7.4%の1兆2,556億円
- 利用者数は同 + 6.3%の1,830千件

■ 信用保証残高



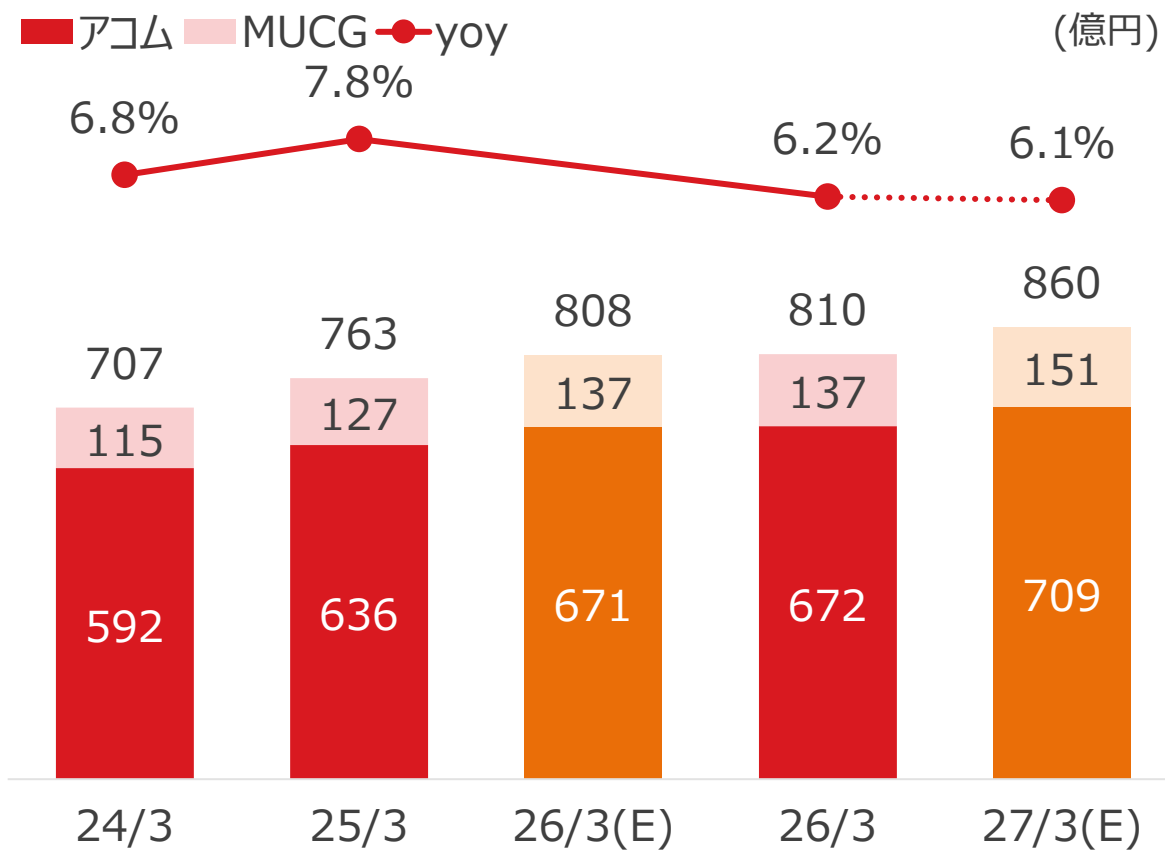
■ 利用者数



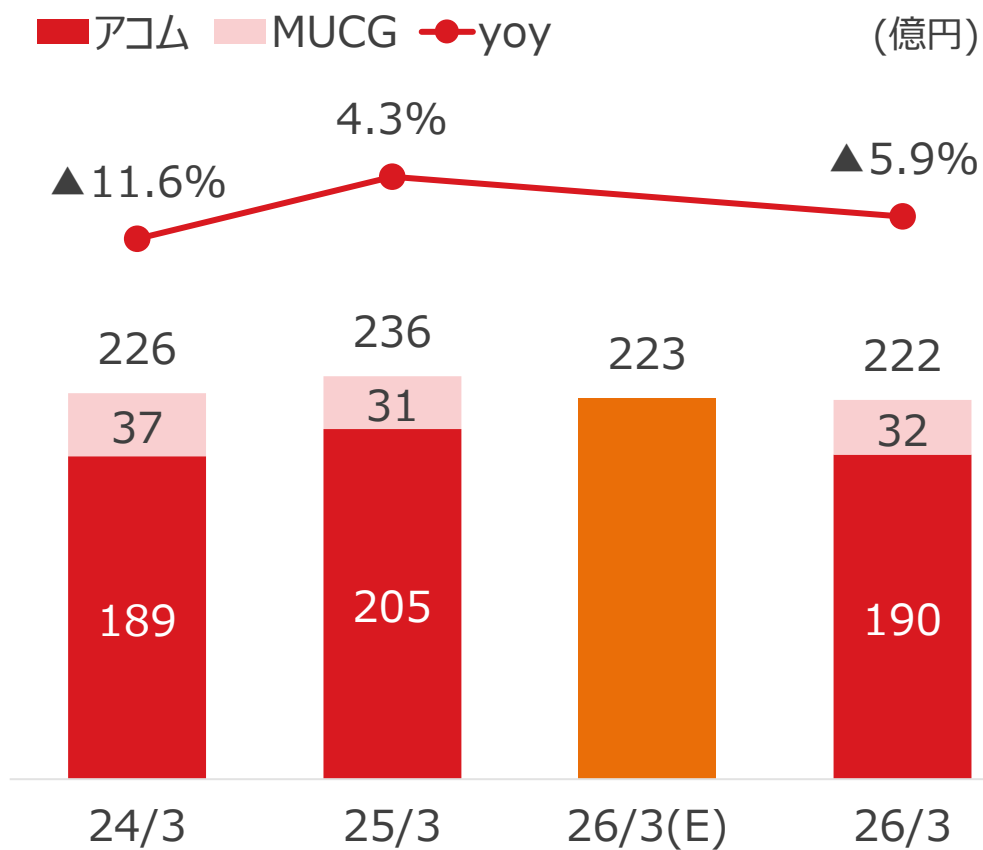
信用保証事業 | 業績

- 営業収益は、業容拡大により、前期比 + 6.2%の810億円
- 営業利益は、貸倒関連費用の増加を主因に、同▲5.9%の222億円

■ 営業収益



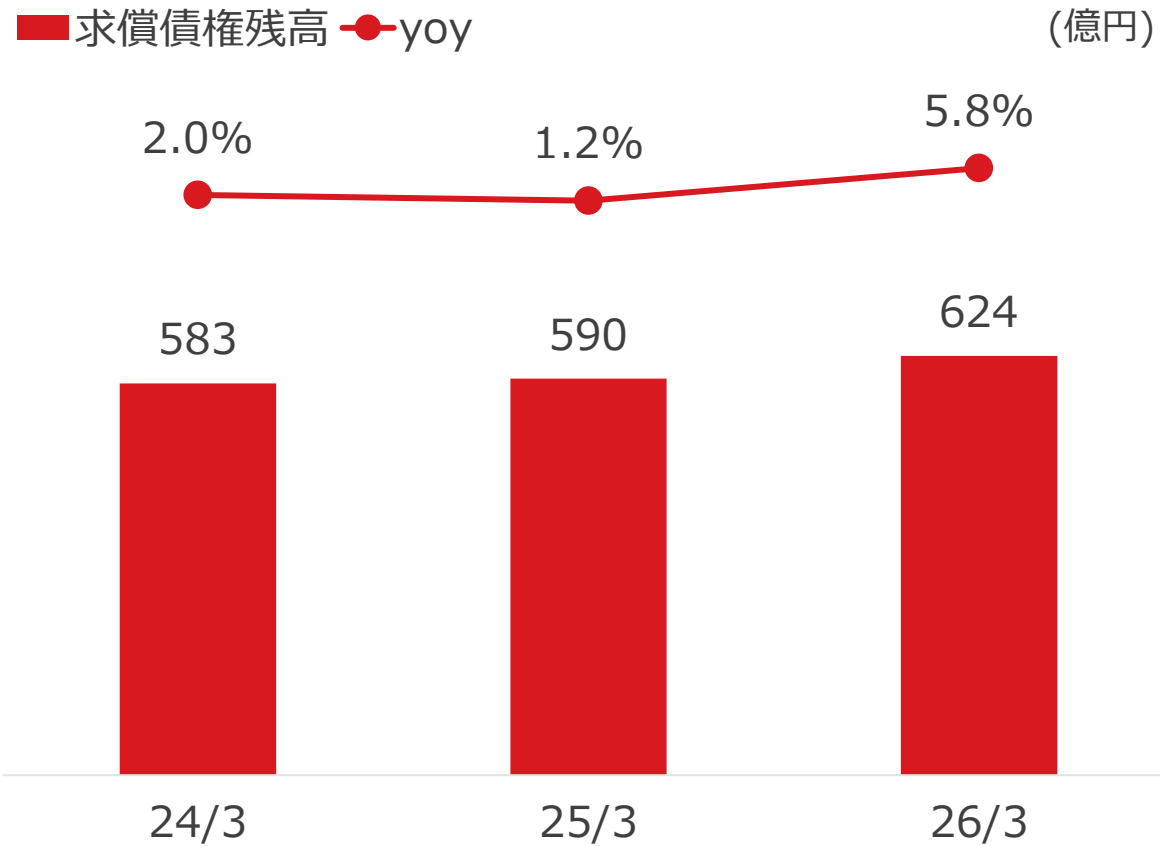
■ 営業利益



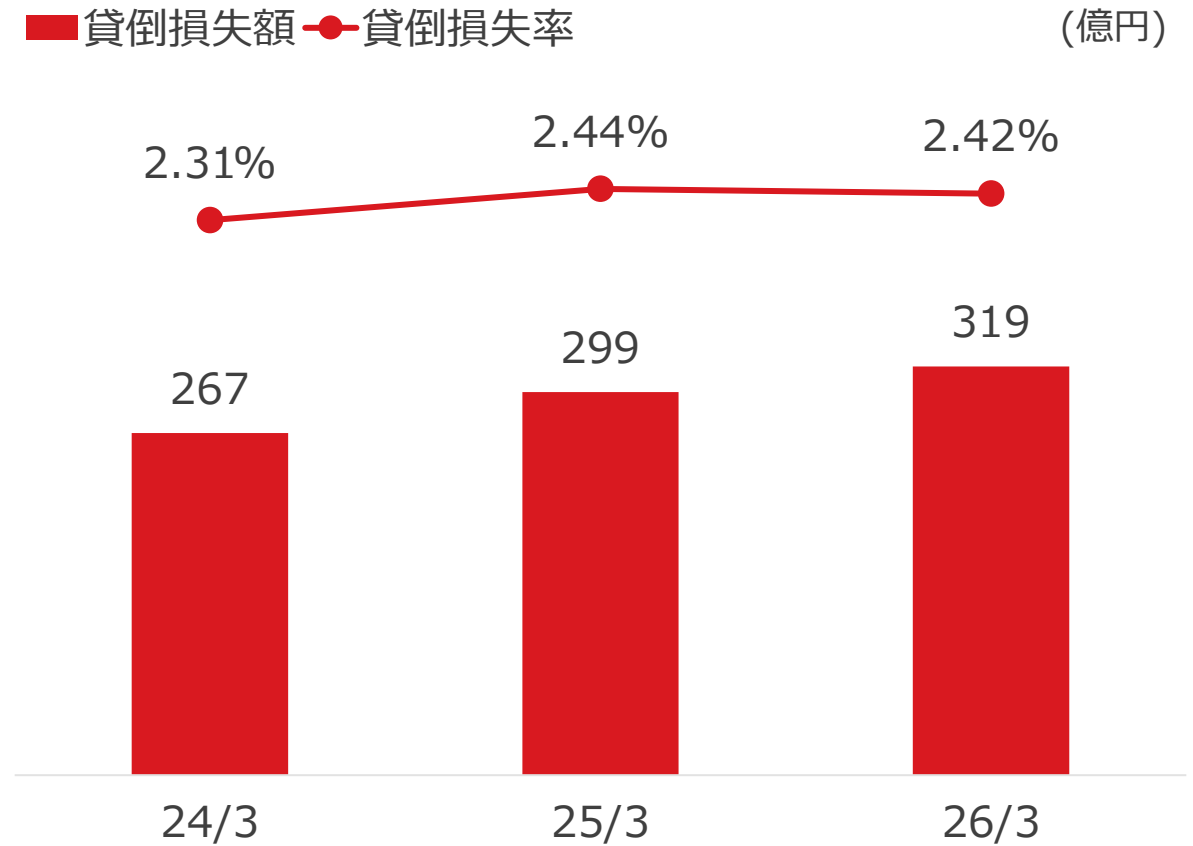
信用保証事業 | 求償債権・貸倒損失(アコム)

- 求償債権は、前期比 + 5.8% の 624 億円
- 貸倒損失率は、同 ▲ 2bps の 2.42%

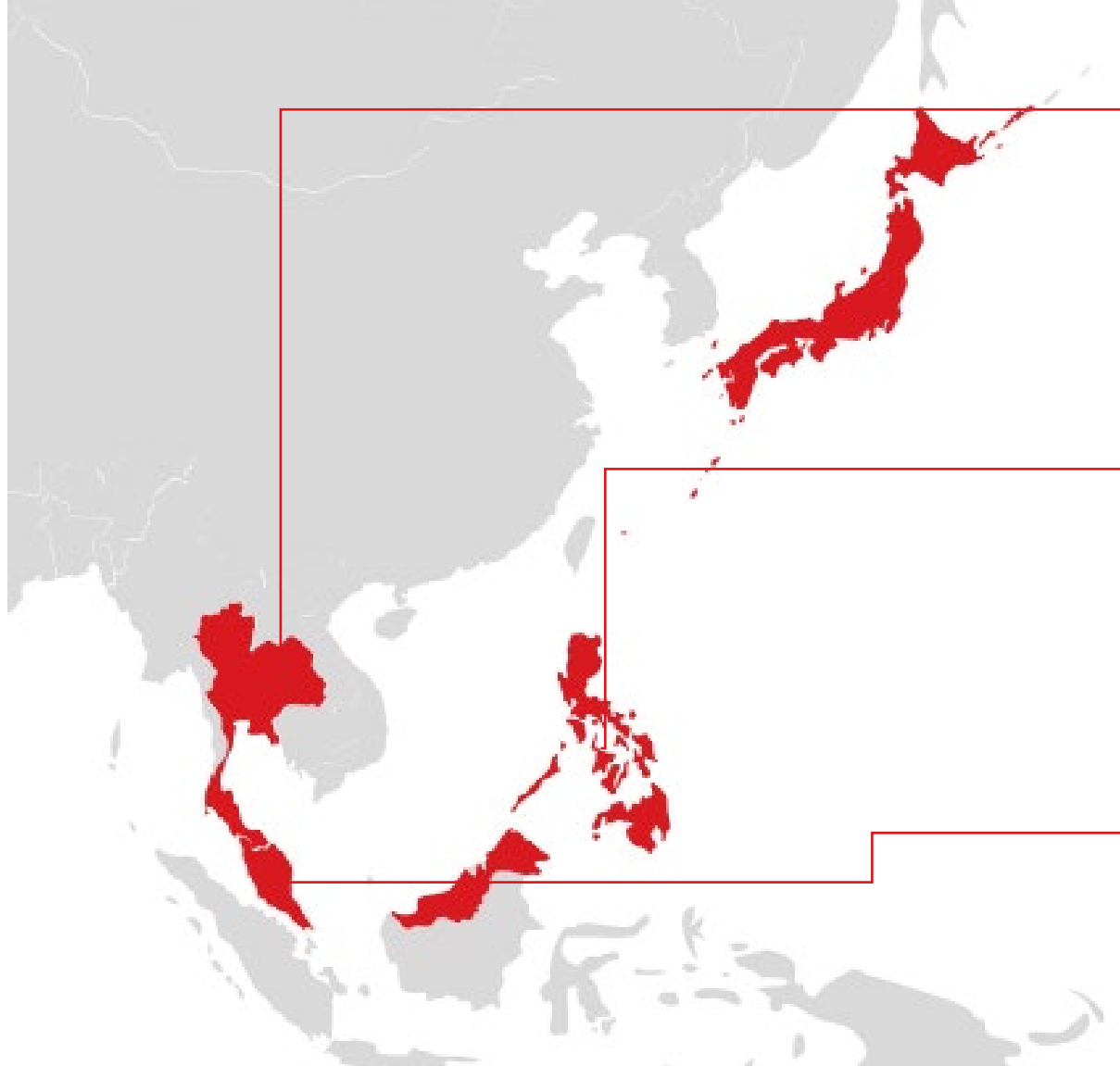
■ 求償債権残高*



■ 貸倒損失額・損失率



* 求償債権残高とは、保証履行未償却債権残高



タイ王国

EASY BUY Public Company Limited

出資比率： 71.00%

設立年月： 1996年9月

事業内容： 無担保ローン事業、インストールメントローン事業

フィリピン共和国

ACOM CONSUMER FINANCE CORPORATION

出資比率： 80.00%

設立年月： 2017年7月

事業内容： 無担保ローン事業

マレーシア

ACOM (M) SDN. BHD.

出資比率： 100.00%

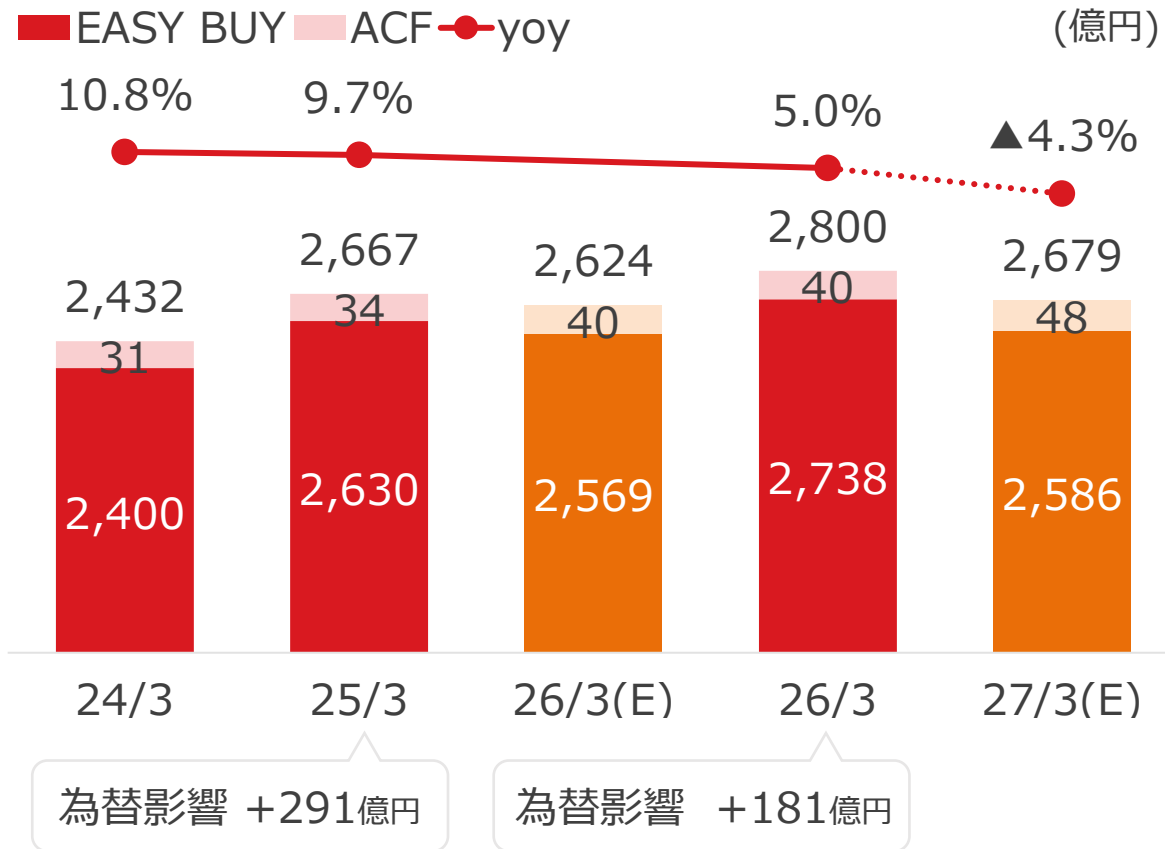
設立年月： 2021年7月

事業内容： 無担保ローン事業

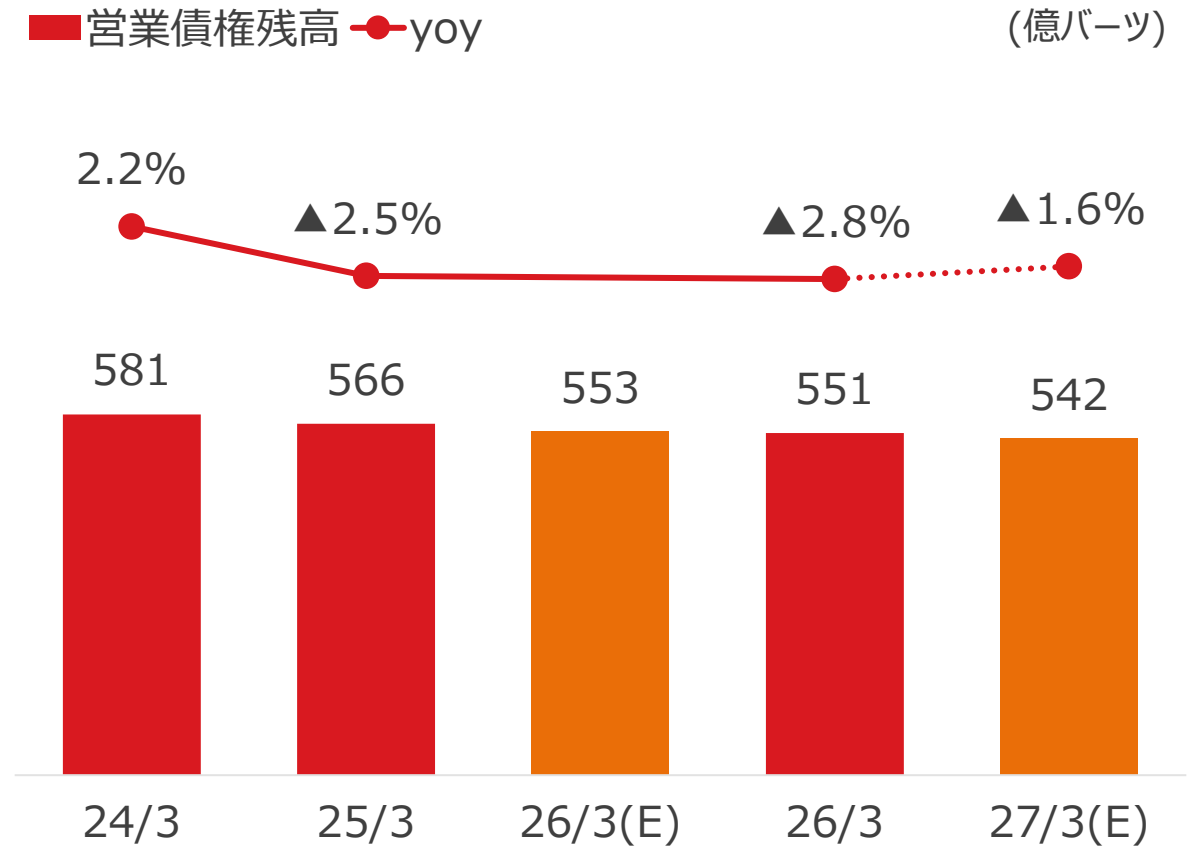
海外金融事業 | 営業債権残高*1

- 営業債権残高(円ベース)は、円安の為替影響により、前期比+5.0%の2,800億円
- タイ王国のEASY BUY(現地通貨ベース)の営業債権残高は、同▲2.8%の551億バーツ

■ 海外金融事業(円ベース)*2



■ EASY BUY(現地通貨ベース)

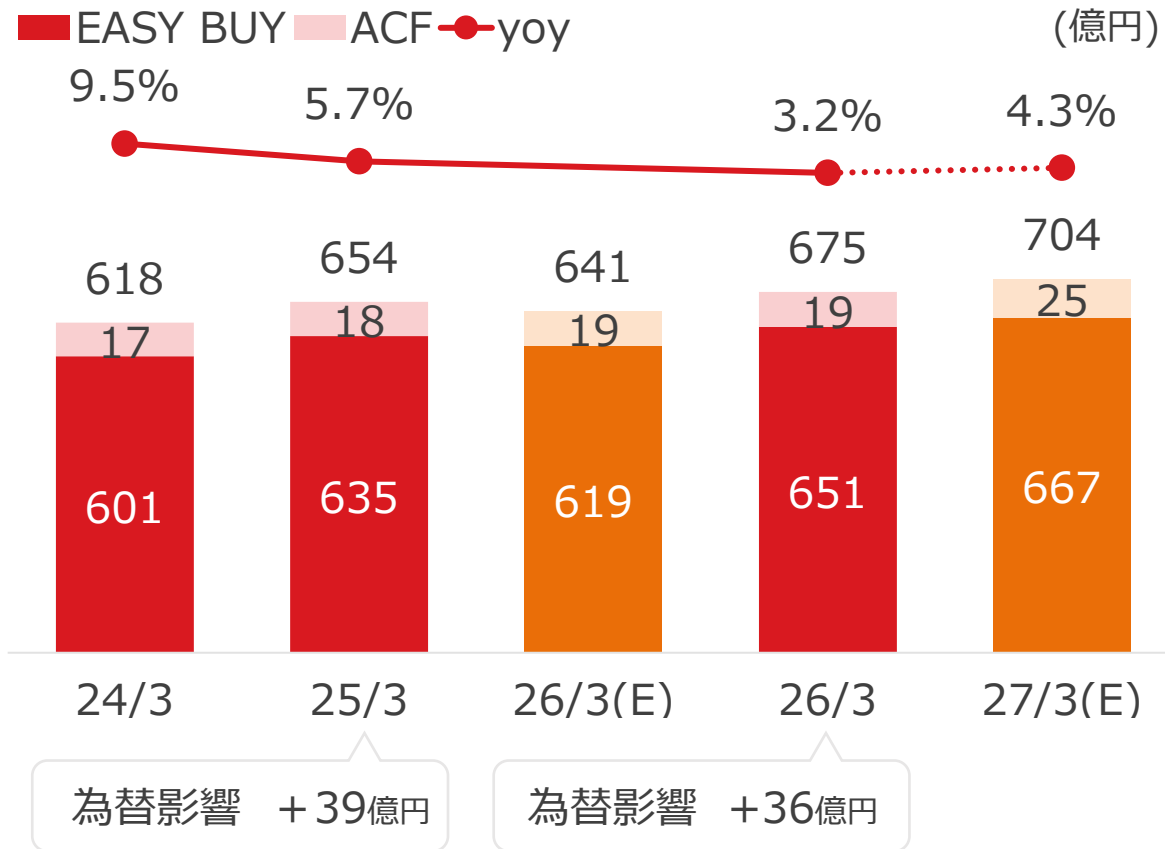


*1 営業債権残高は営業貸付金残高と割賦売掛金残高の合計 *2 為替レート(バーツ)：4.64円(25/3)、4.97円(26/3)、4.77円(計画)、為替変動：+0.33円(26/3)

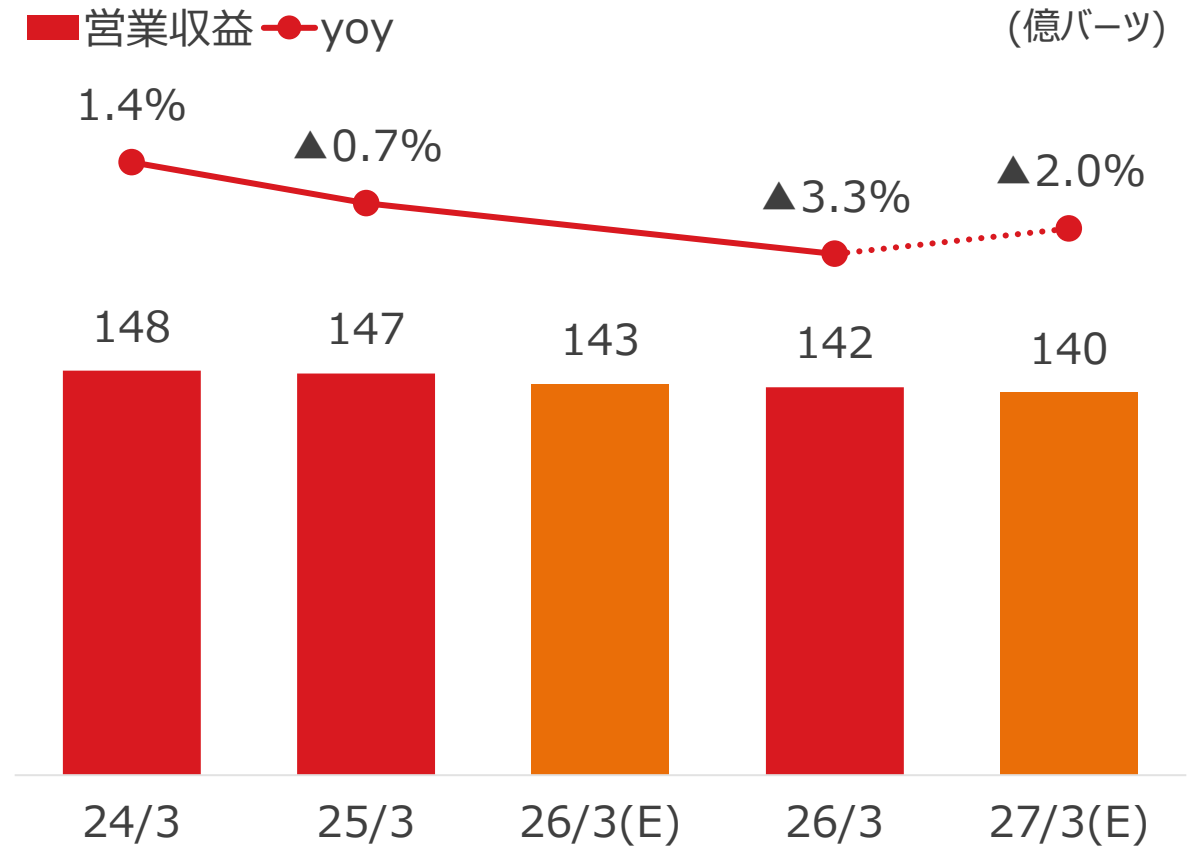
海外金融事業 | 営業収益

- 営業収益(円ベース)は、円安の為替影響により、前期比+3.2%の675億円
- EASY BUY(現地通貨ベース)の営業収益は、同▲3.3%の142億バーツ

■ 海外金融事業(円ベース)*



■ EASY BUY(現地通貨ベース)

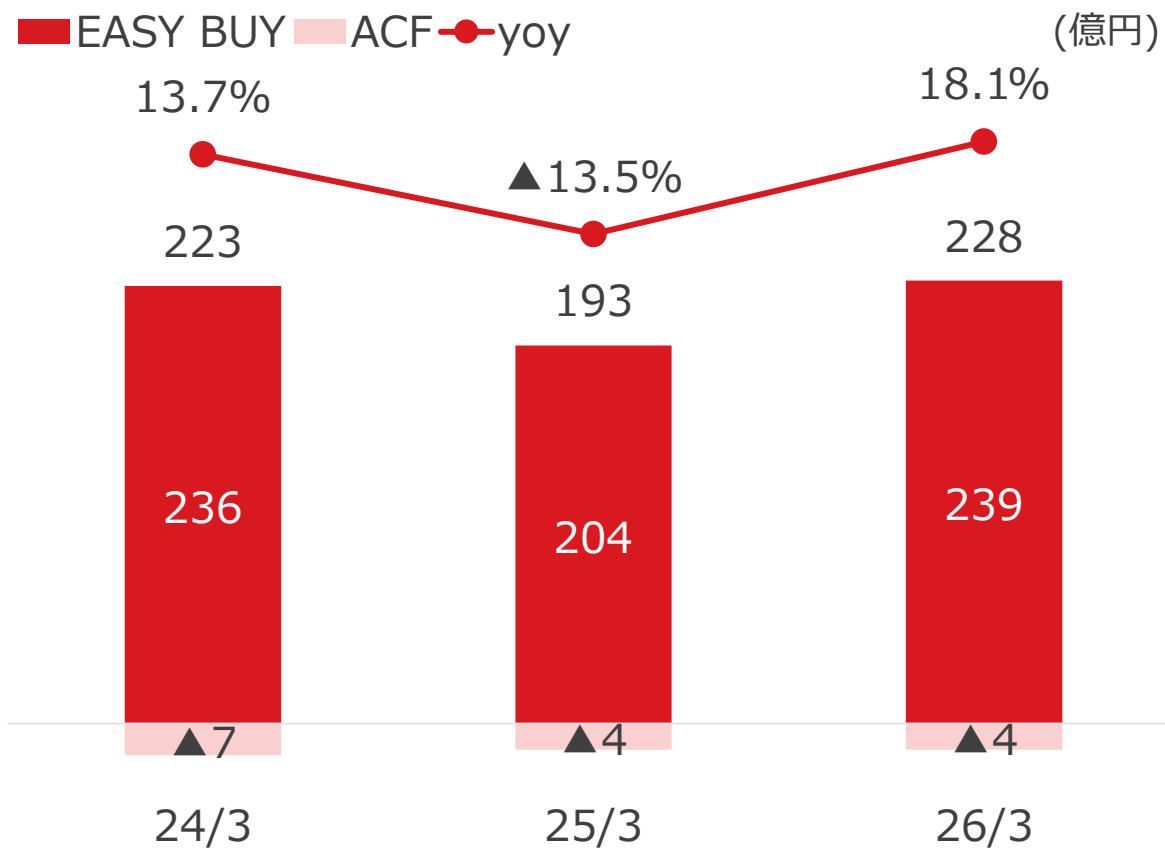


* 為替レート(バーツ)：4.30円(25/3)、4.56円(26/3)、4.77円(計画)、為替変動：+0.26円(26/3)

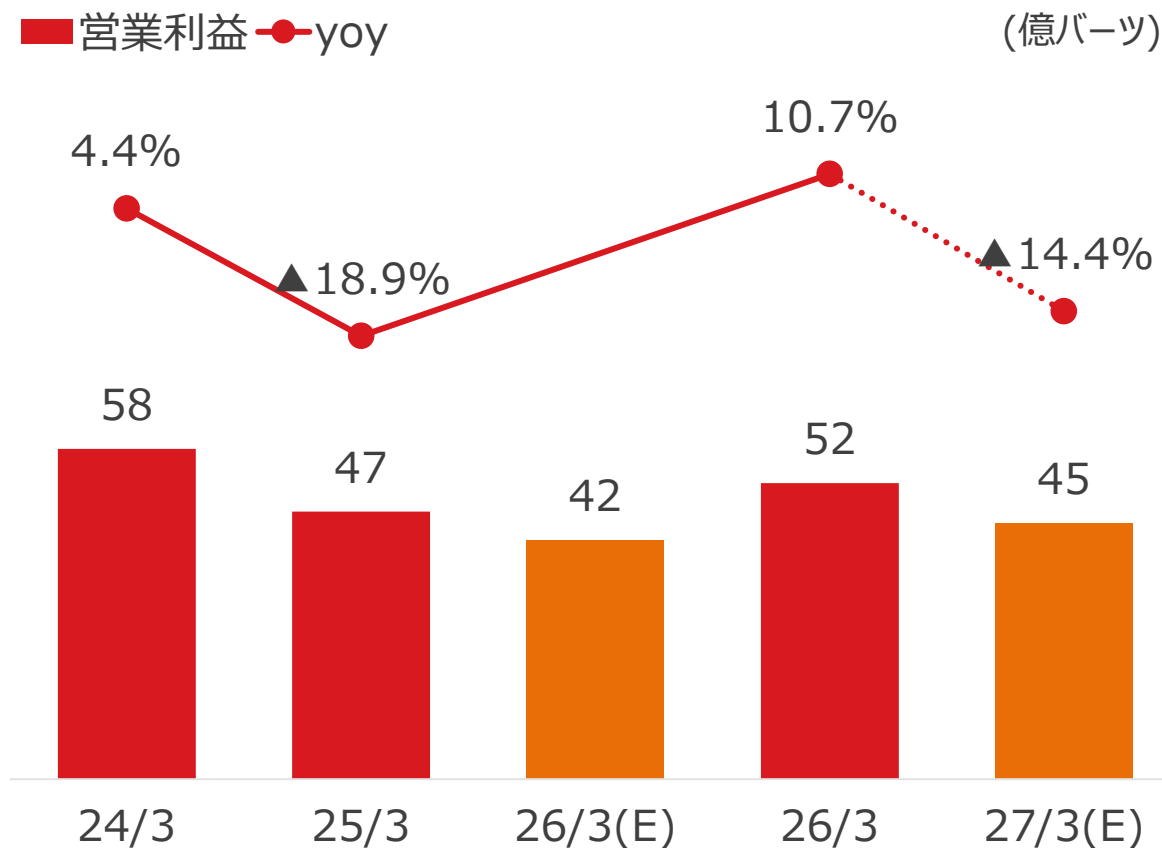
Q 海外金融事業 | 営業利益

- 営業利益(円ベース)は、前期比 +18.1%の228億円
- EASY BUY(現地通貨ベース)の営業利益は、貸倒関連費用の減少を主因に、同 +10.7%の52億バーツ

■ 海外金融事業(円ベース)*



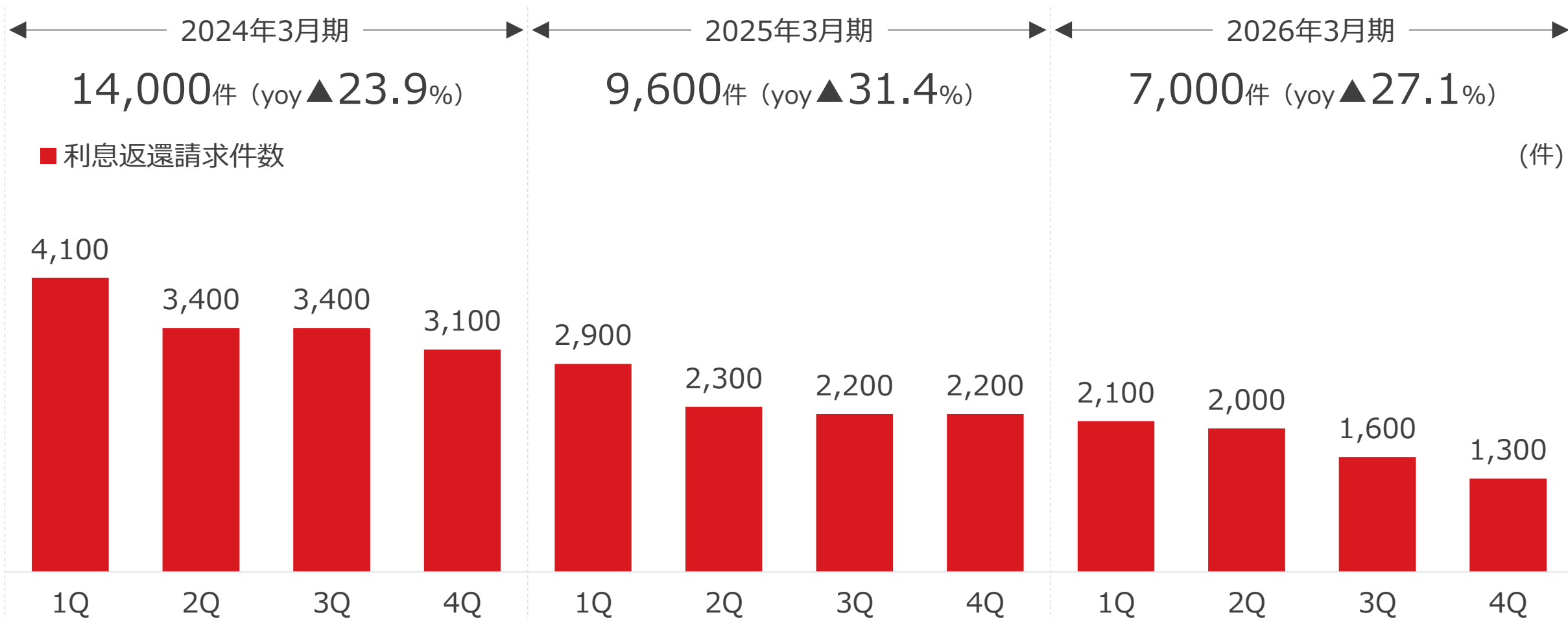
■ EASY BUY(現地通貨ベース)



* セグメント利益

利息返還請求件数*

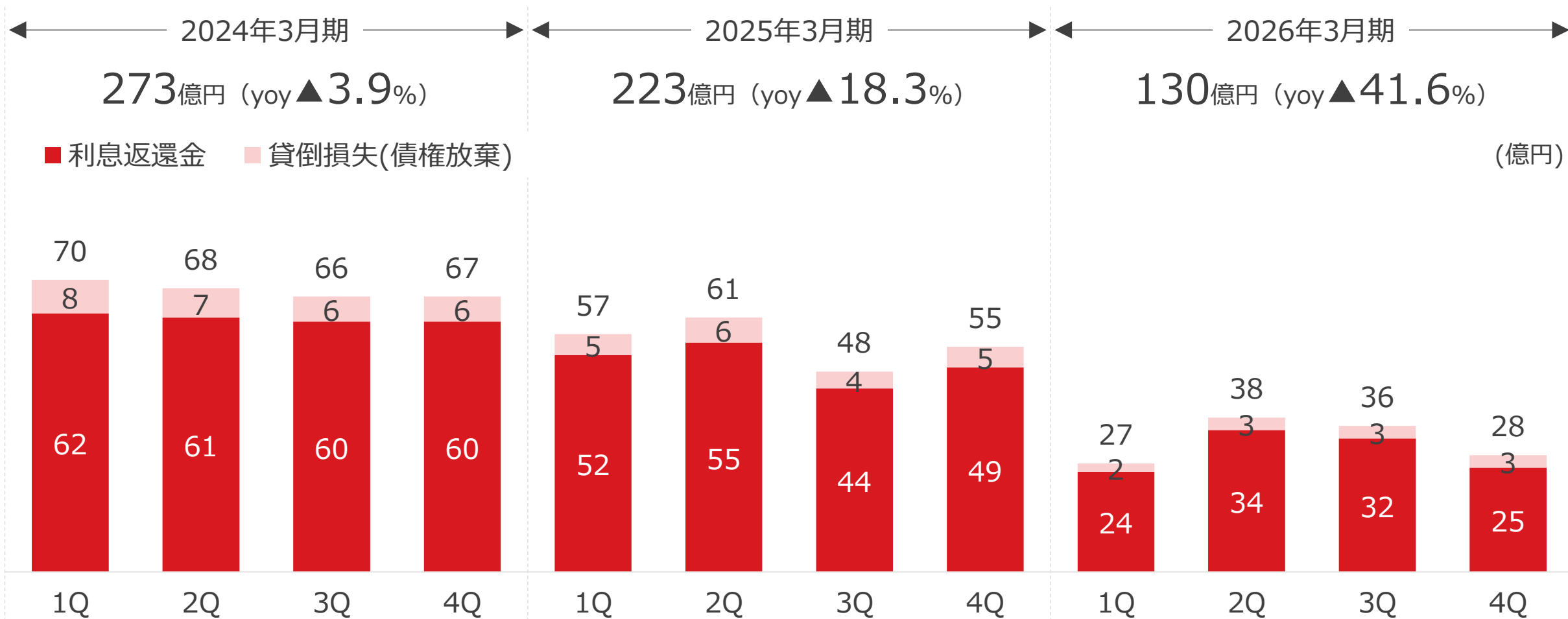
- 2026年3月期の請求件数は、前期比▲20%程度の予想に対して、▲27.1%の7,000件で着地
- 2027年3月期の請求件数は、前期比▲25%程度を予想



* 利息返還請求件数は、弁護士・司法書士受任債権発生件数のうち、当社が利息制限法に基づいて再計算した結果、利息返還金が発生する件数(再受任分を含む)

利息返還損失

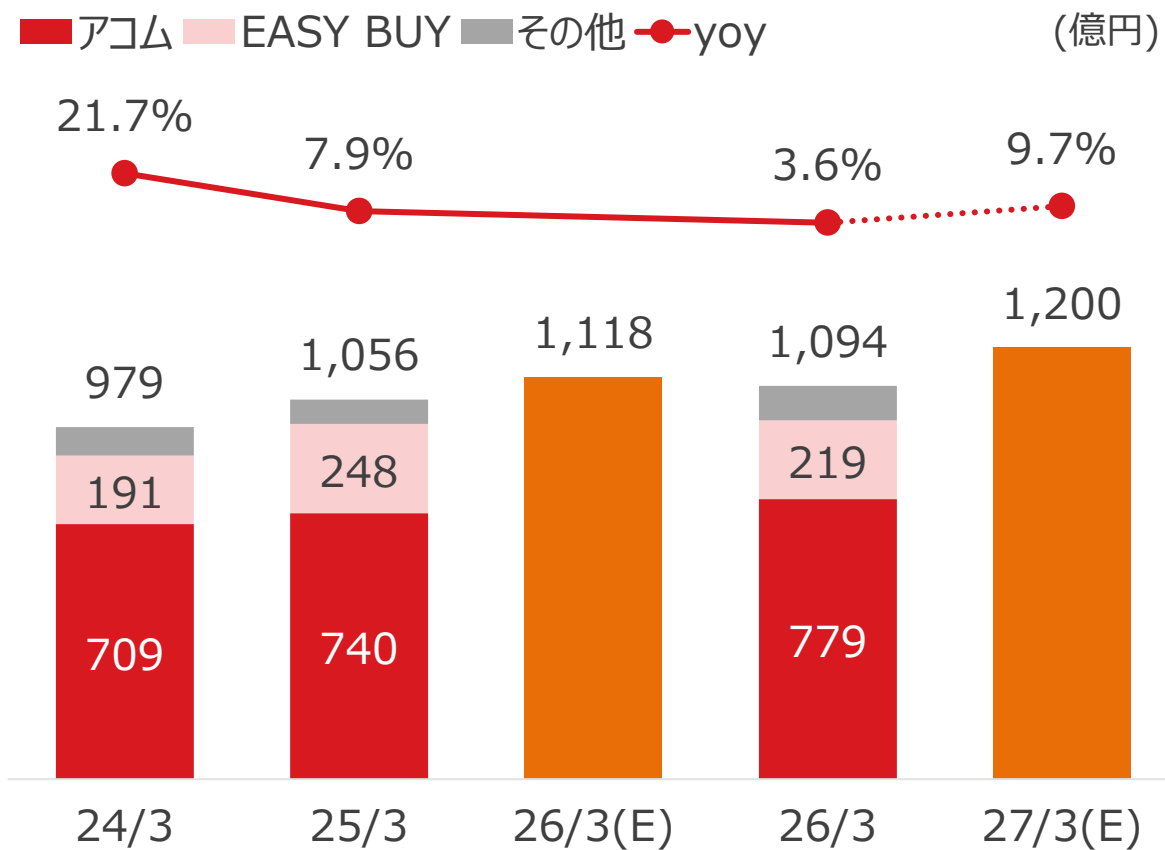
- 第4四半期の取崩しは28億円、2026年3月期累計では前期比▲41.6%の130億円
- 65億円を追加繰入れし、引当金残高は415億円
- 2027年3月期の取崩額は、前期比▲25%程度を予想



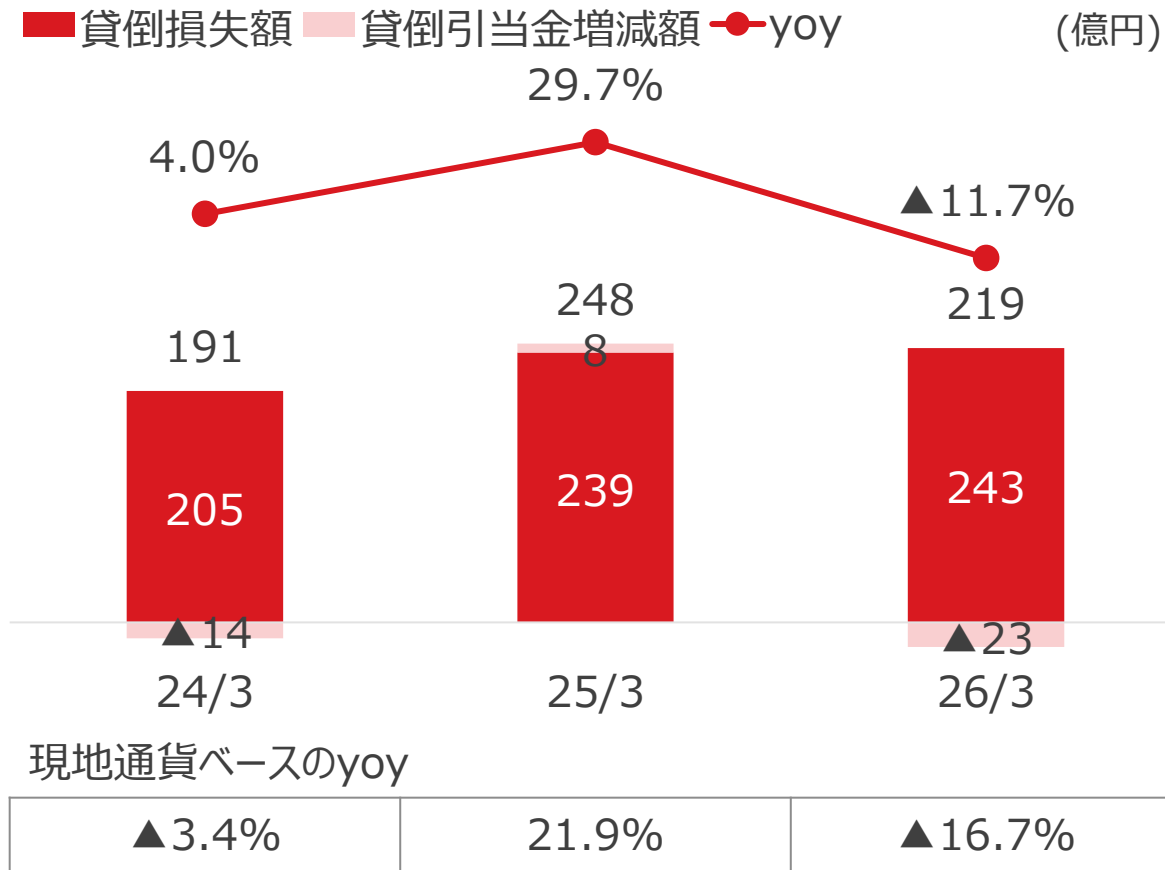
Q 貸倒関連費用

- 貸倒関連費用(連結)は、前期比 + 3.6%の1,094億円
- EASY BUYの貸倒関連費用は、同▲11.7%の219億円

■ 貸倒関連費用(連結)



■ 貸倒関連費用(EASY BUY)



貸倒関連費用(アコム)

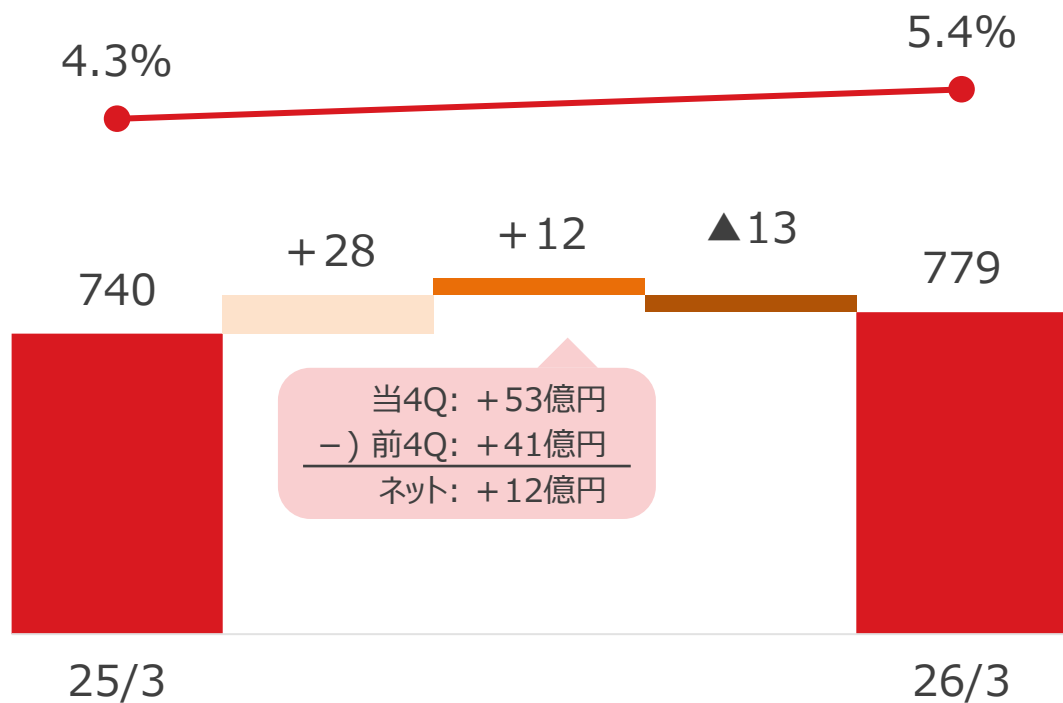
- 貸倒関連費用は、前期比 + 5.4% の 779 億円
- 貸倒引当金は、業容拡大を主因に、前期比 + 53 億円の 777 億円

貸倒関連費用

(億円)

貸倒損失 貸倒引当金増減額 債務保証損失引当金増減額

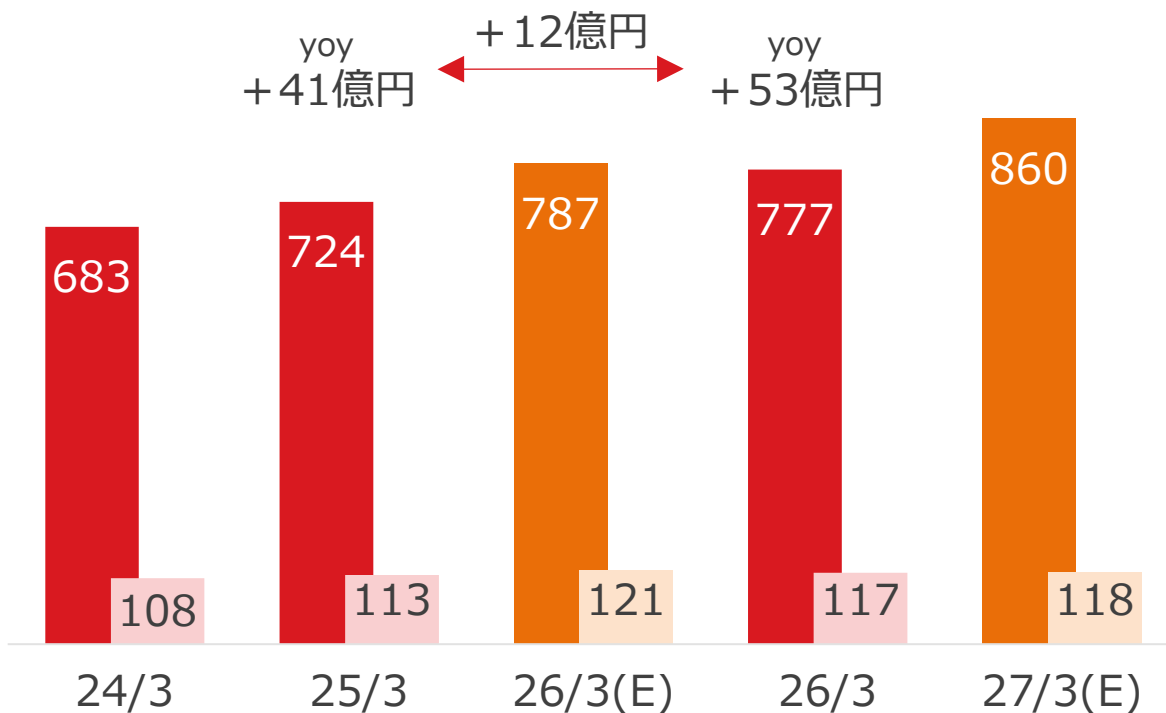
● yoy



貸倒引当金・債務保証損失引当金

(億円)

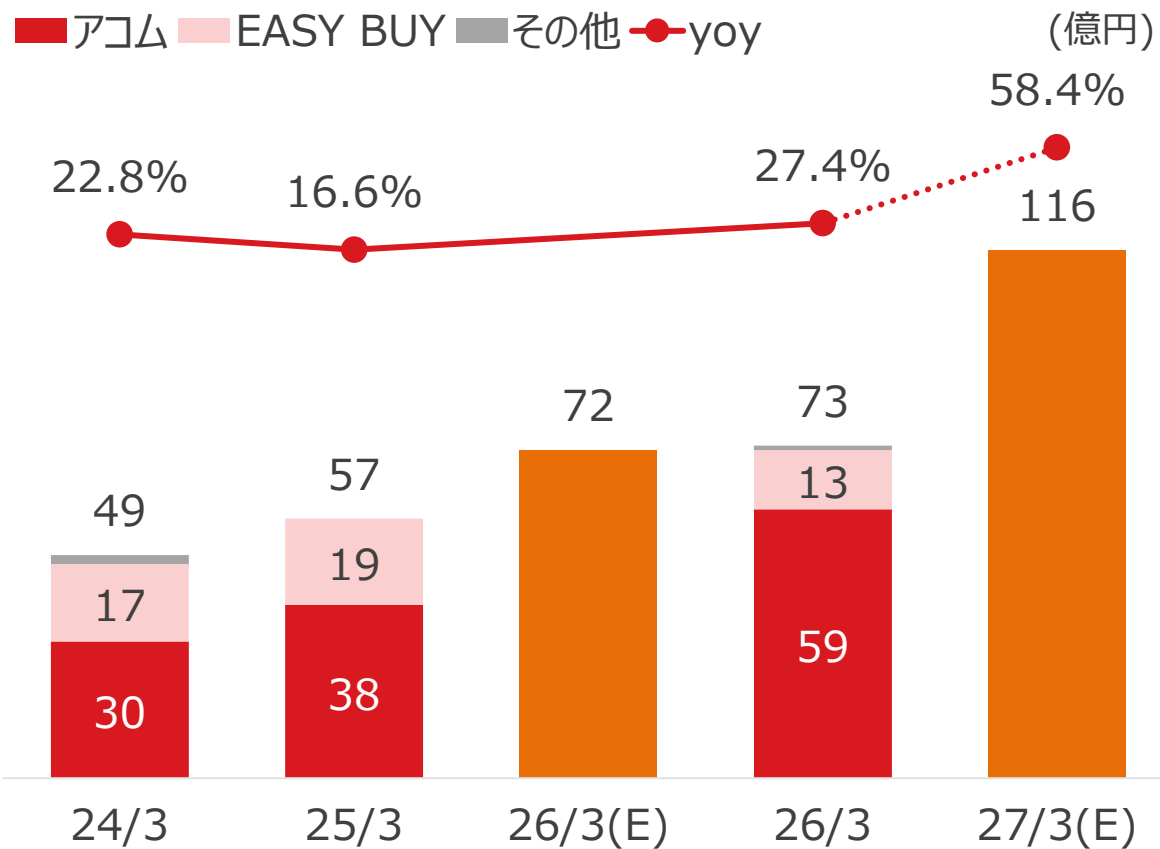
貸倒引当金 債務保証損失引当金



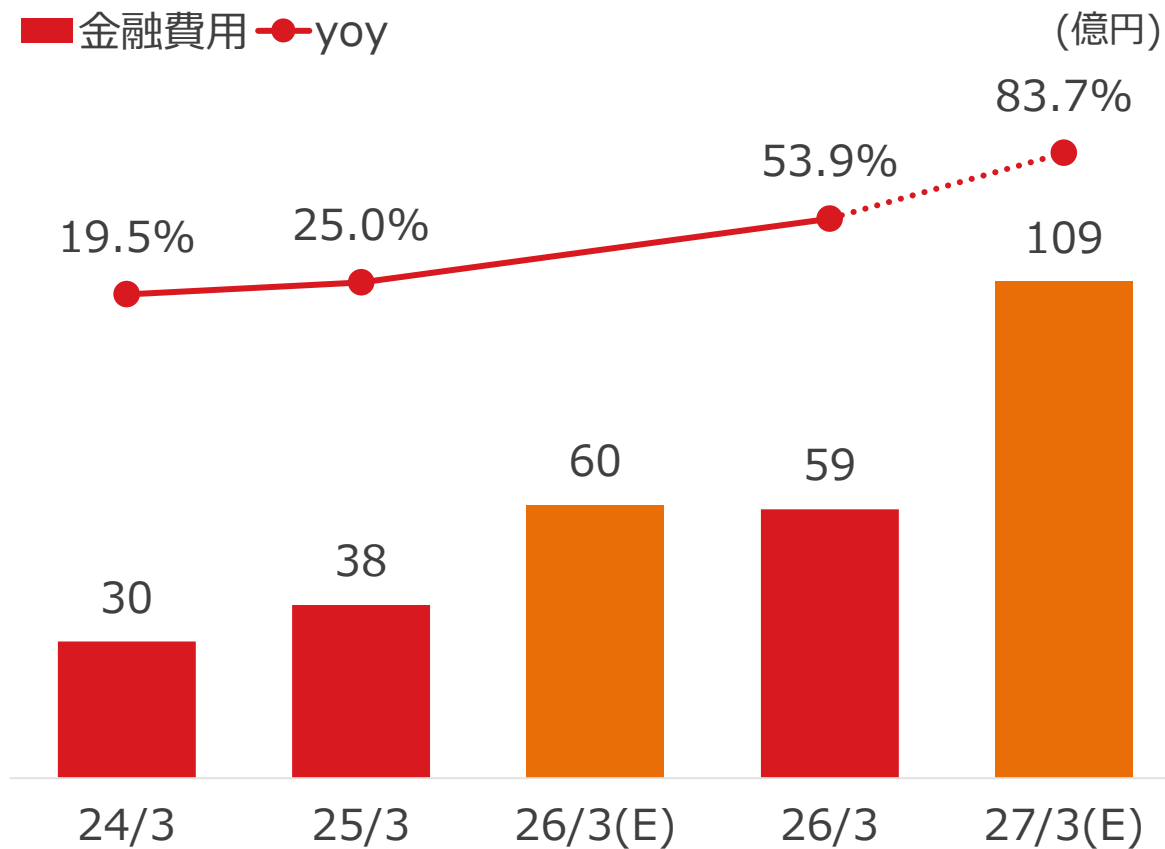
金融費用

- 金融費用(連結)は、前期比 + 27.4% の 73 億円
- 金融費用(アコム)は、同 + 53.9% の 59 億円

金融費用(連結)



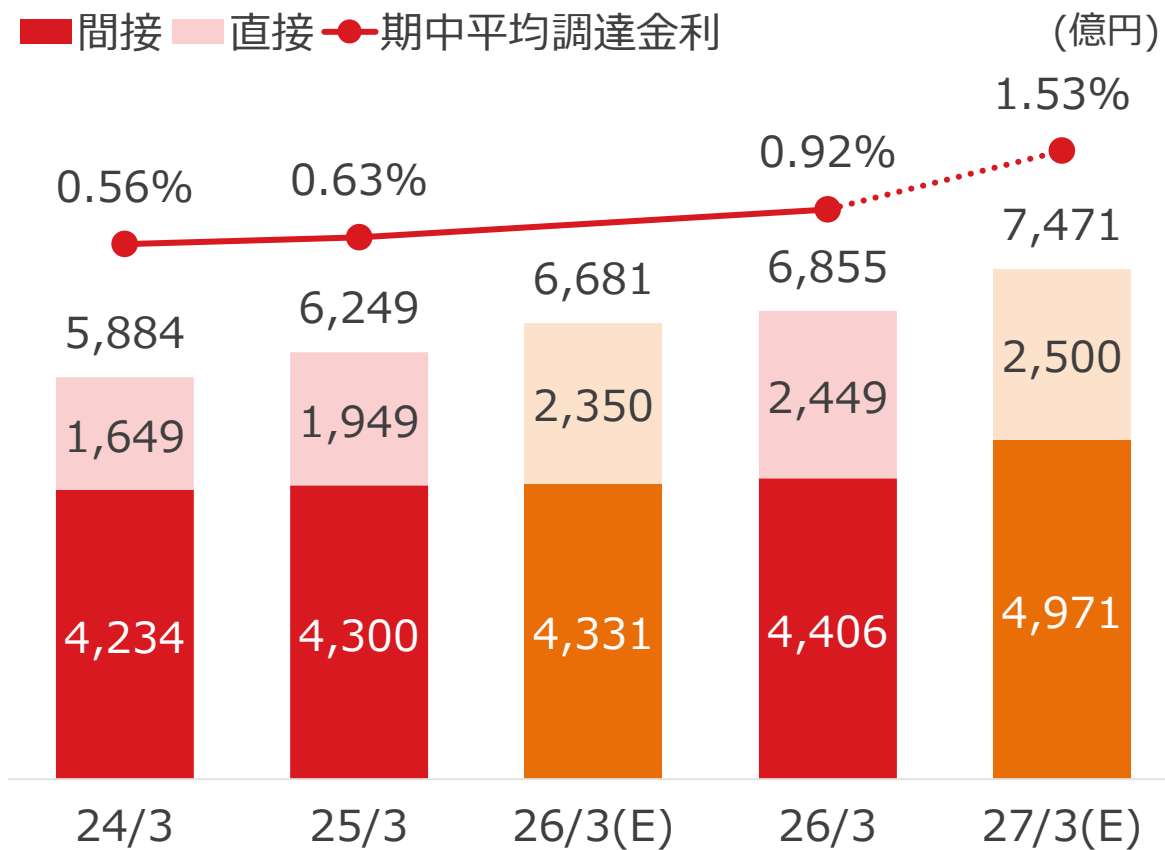
金融費用(アコム)



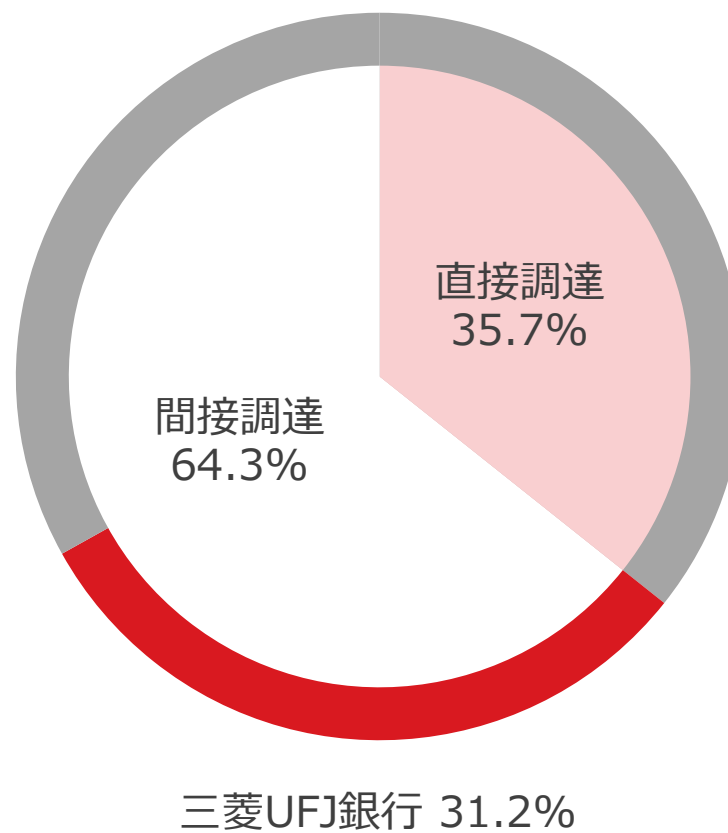
金融費用 | 資金調達残高(アコム)

- 資金調達残高は、前期比 + 605億円の6,855億円
- 期中平均調達金利は、同 + 29bpsの0.92%

■ 資金調達残高



■ 借入先別構成比



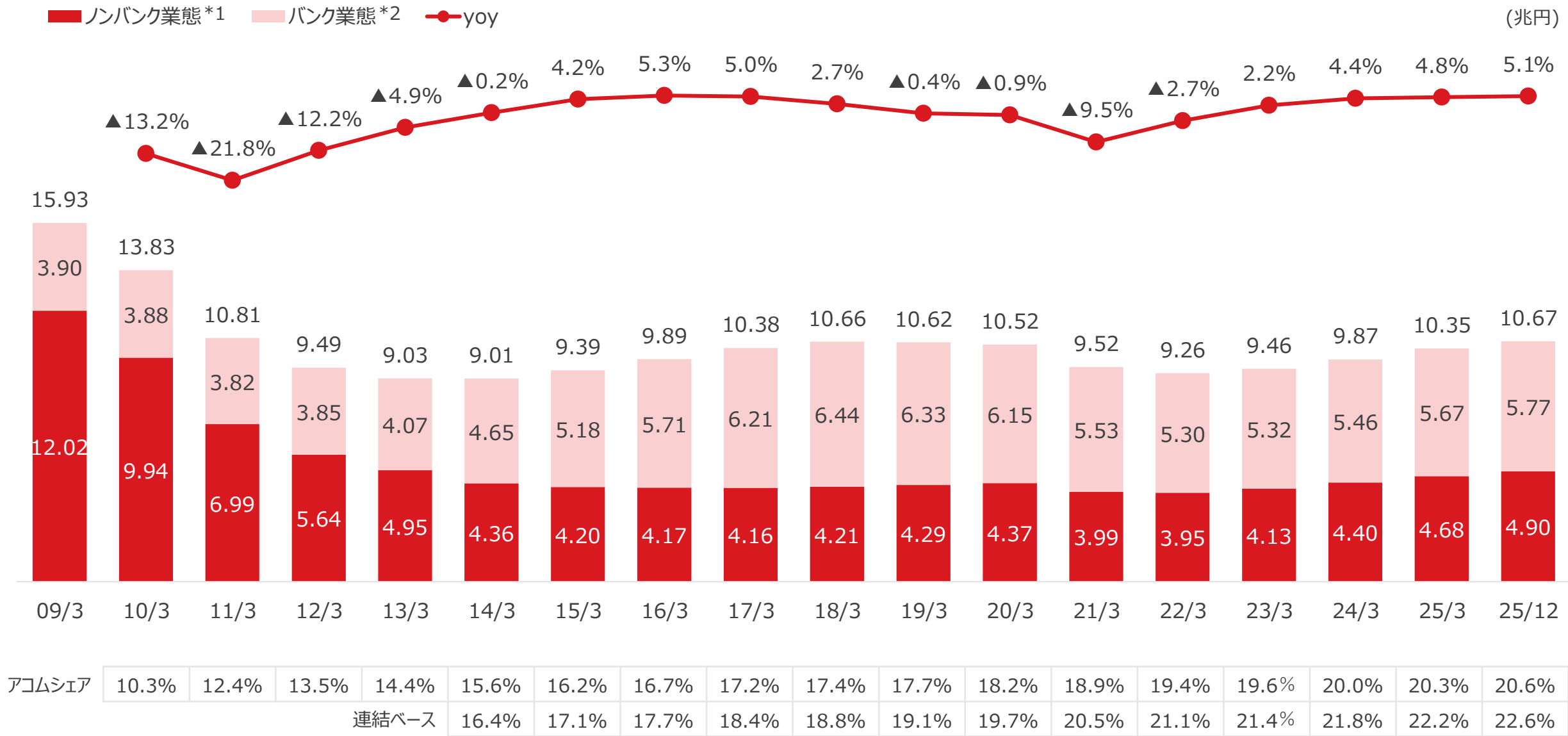
固定金利比率
75.4%

長期借入比率
87.6%

1年以内返済予定額
3,284億円

Appendix

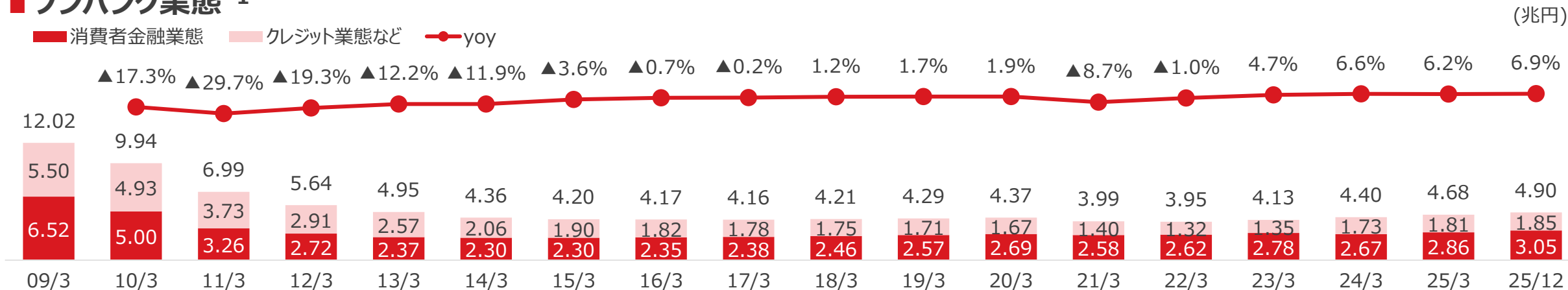
個人向けローン市場の規模推移



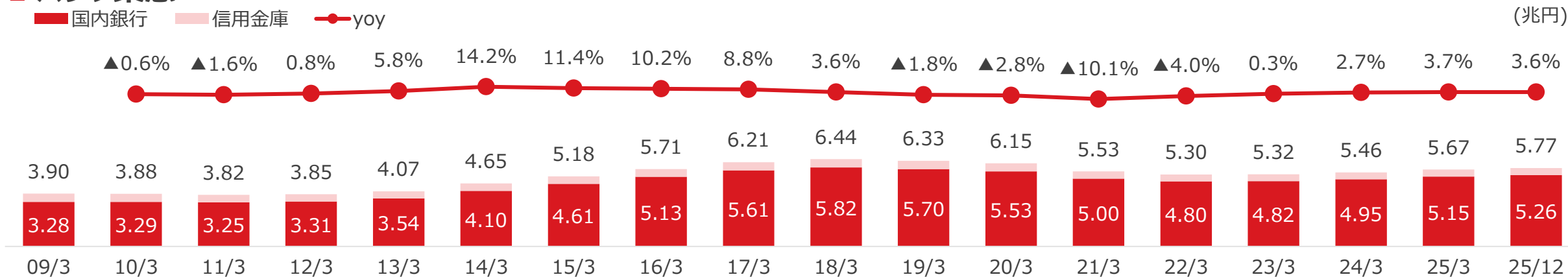
*1 ノンバンク業態は日本貸金業協会統計の営業貸付金残高（証書貸付を含む）、2025年12月数値は速報値 *2 バンク業態は日本銀行統計の国内銀行及び信用金庫の個人向けカードローン残高

業態別個人向けローン市場の規模推移

ノンバンク業態*1



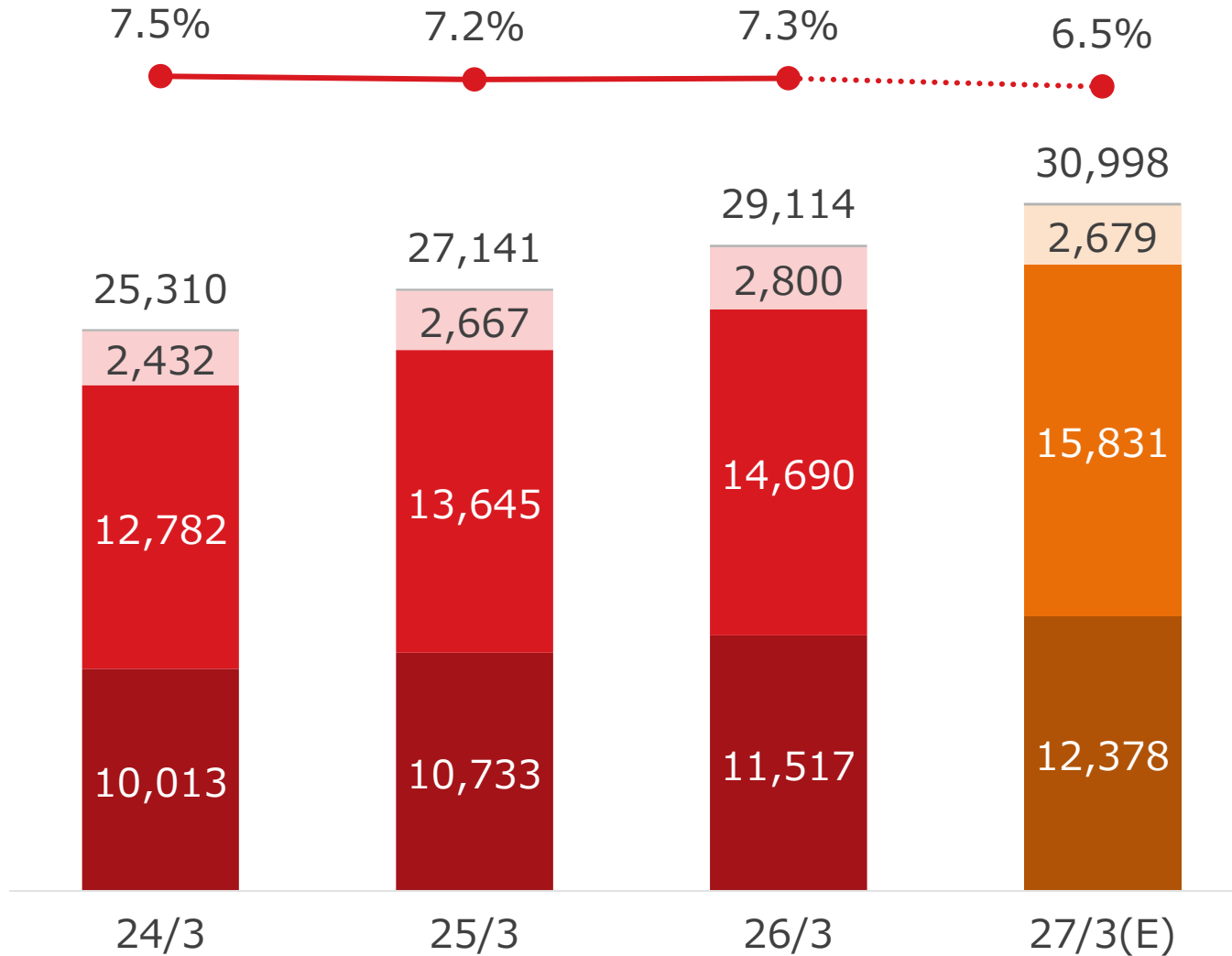
バンク業態*2



*1 ノンバンク業態は日本貸金業協会統計の営業貸付金残高（証書貸付を含む）、2025年12月数値は速報値
 *2 バンク業態は日本銀行統計の国内銀行及び信用金庫の個人向けカードローン残高

2027年3月期 通期計画(業容)

■ L・C事業 ■ 信用保証事業 ■ 海外金融事業 ■ その他 ● yoy (億円)



連結
営業債権残高

3兆998億円
(yoy + 6.5%)

ローン・クレジット
カード事業

1兆2,378億円
(yoy + 7.5%)

信用保証事業

1兆5,831億円
(yoy + 7.8%)

海外金融事業

2,679億円
(yoy ▲4.3%)



2027年3月期 通期計画(業績)

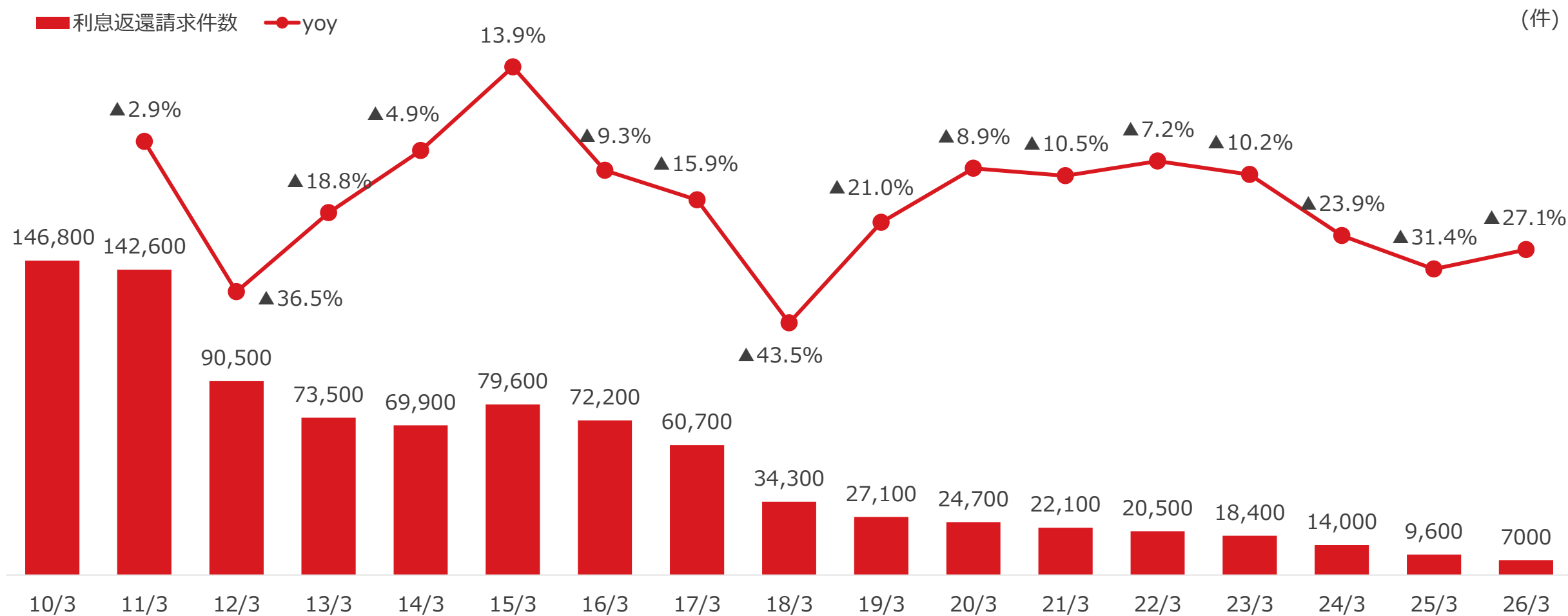
(百万円、%)

		2026/3		2027/3	
		実績	yoy	計画	yoy
1	営業収益	337,709	6.3	356,000	5.4
2	ローン・クレジットカード事業	181,889	7.3	191,600	5.3
3	信用保証事業	81,039	6.2	86,000	6.1
4	海外金融事業	67,526	3.2	70,400	4.3
5	営業費用	237,315	-8.4	258,000	8.7
6	金融費用	7,323	27.4	11,600	58.4
7	貸倒関連費用	109,434	3.6	120,000	9.7
8	利息返還費用	6,573	-83.6	5,200	-20.9
9	その他の営業費用	113,982	5.8	121,200	6.3
10	営業利益	100,394	71.4	98,000	-2.4
11	経常利益	100,513	70.6	98,500	-2.0
12	税金等調整前当期純利益	100,746	71.8	98,300	-2.4
13	当期純利益	84,888	132.1	68,600	-19.2
14	親会社株主に帰属する当期純利益	79,635	147.9	63,800	-19.9



利息返還請求件数の推移

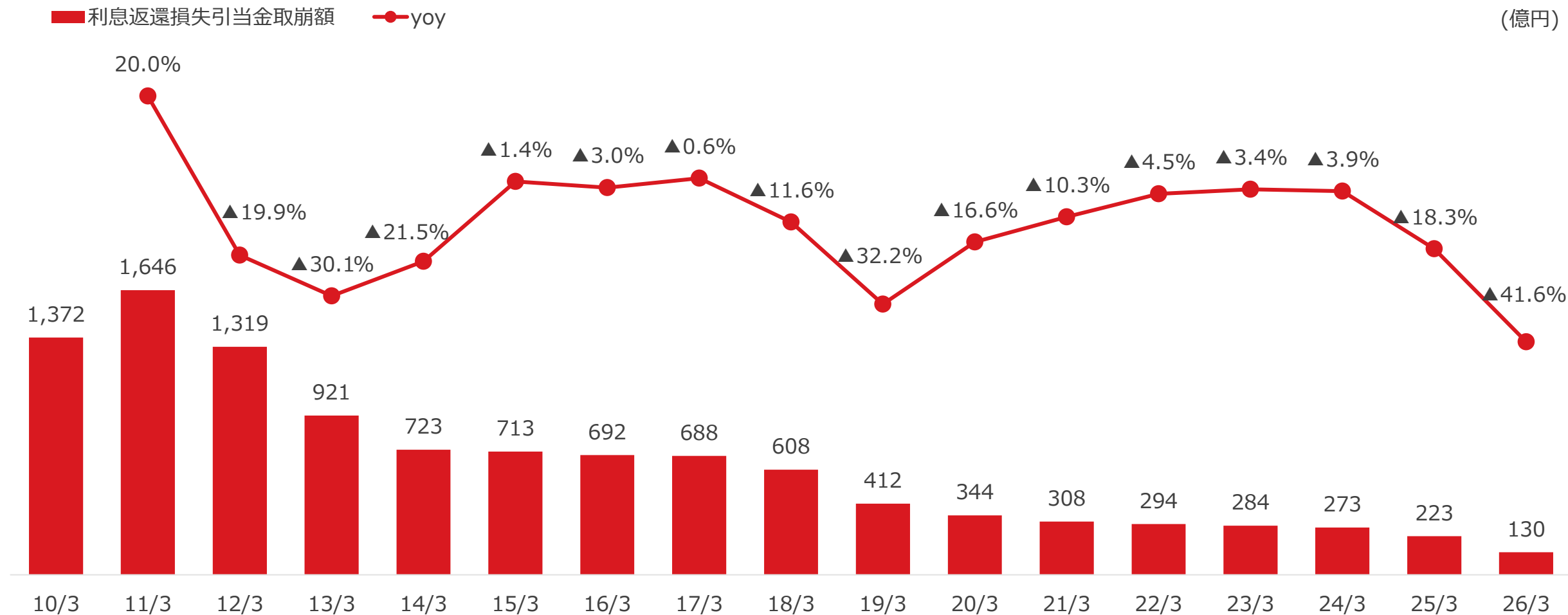
- 2026年3月期の請求件数は、前期比▲20%程度の予想に対して、▲27.1%の7,000件で着地
- 2027年3月期の請求件数は、前期比▲25%程度を予想



* 利息返還請求件数は、弁護士・司法書士受任債権発生件数のうち、当社が利息制限法に基づいて再計算した結果、利息返還金が発生する件数（再受任分を含む）

Q 利息返還損失の推移

- 2026年3月期の取崩額は、前期比▲25%程度の予想に対して、▲41.6%の130億円で着地
- 2027年3月期の取崩額は前期比▲25%程度を予想

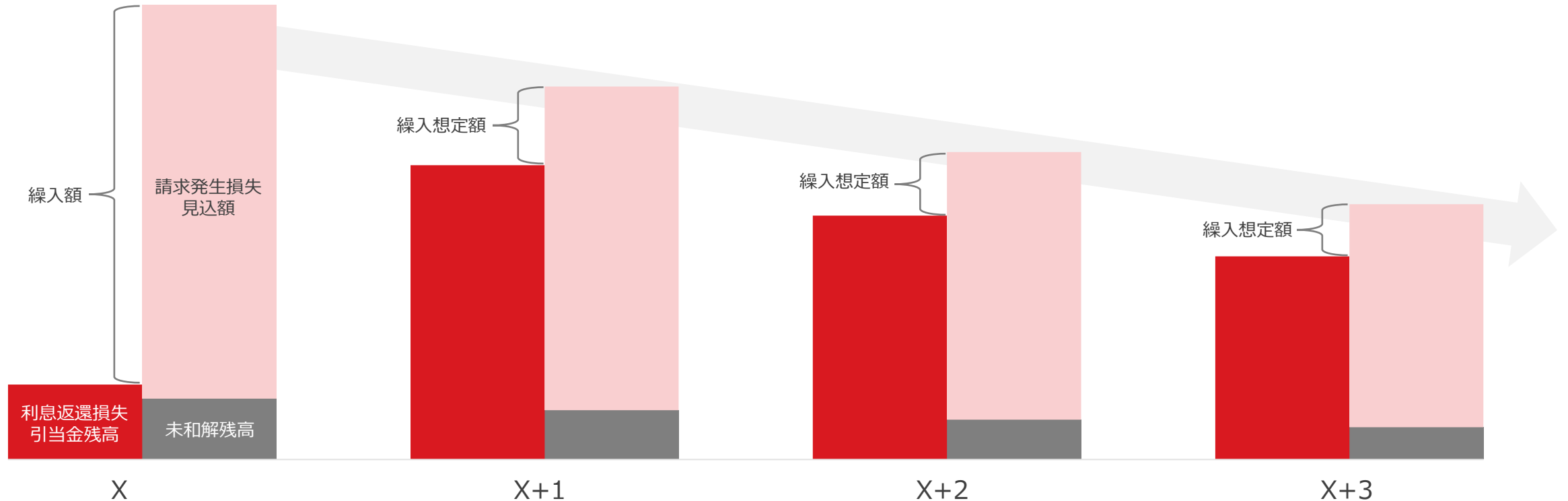




利息返還損失引当金の評価方法

利息返還損失引当金の評価方法

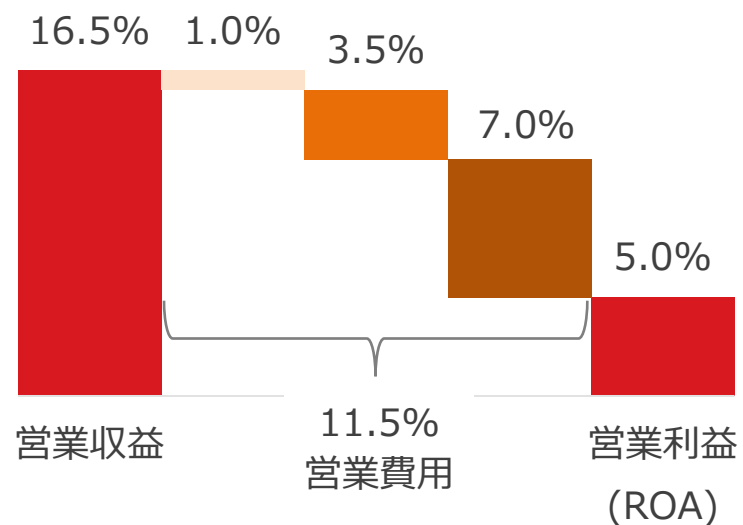
- 請求発生損失見込額の再評価は、**毎期末**に実施する
- 繰入想定額は、業績予想及び中期経営計画に**織り込んで公表**する



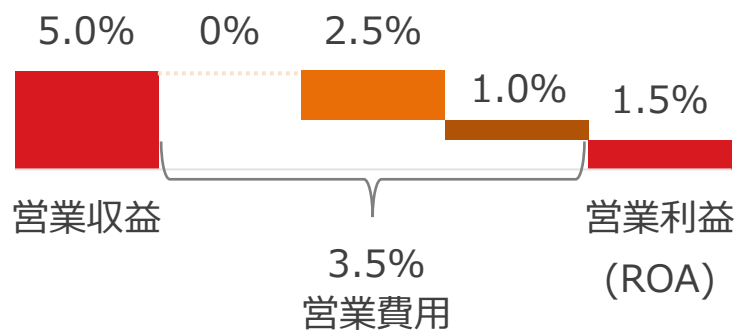
事業別営業債権残高営業利益率（ROA）の目安

■ ローン・クレジットカード事業

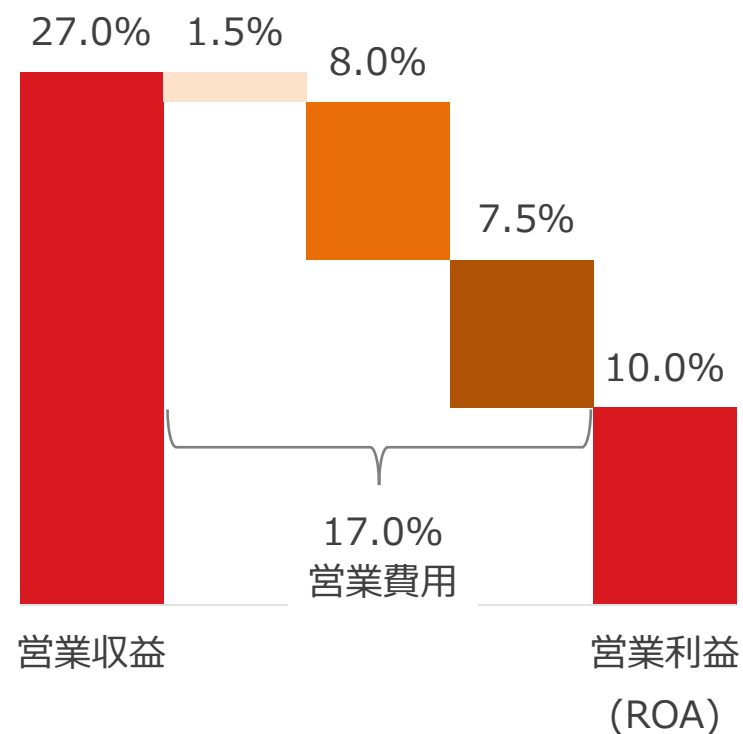
■ 金融費用 ■ 貸倒関連費用 ■ その他の営業費用



■ 信用保証事業

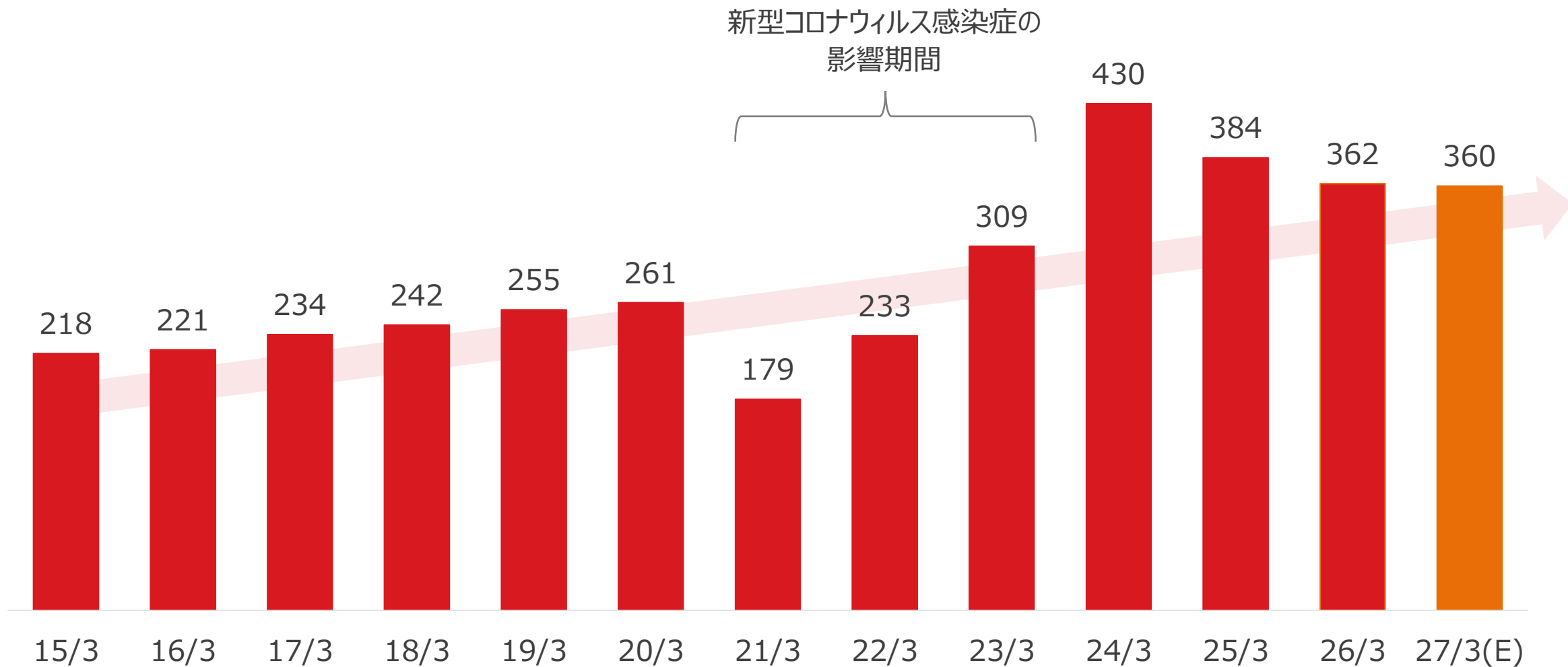


■ 海外金融事業

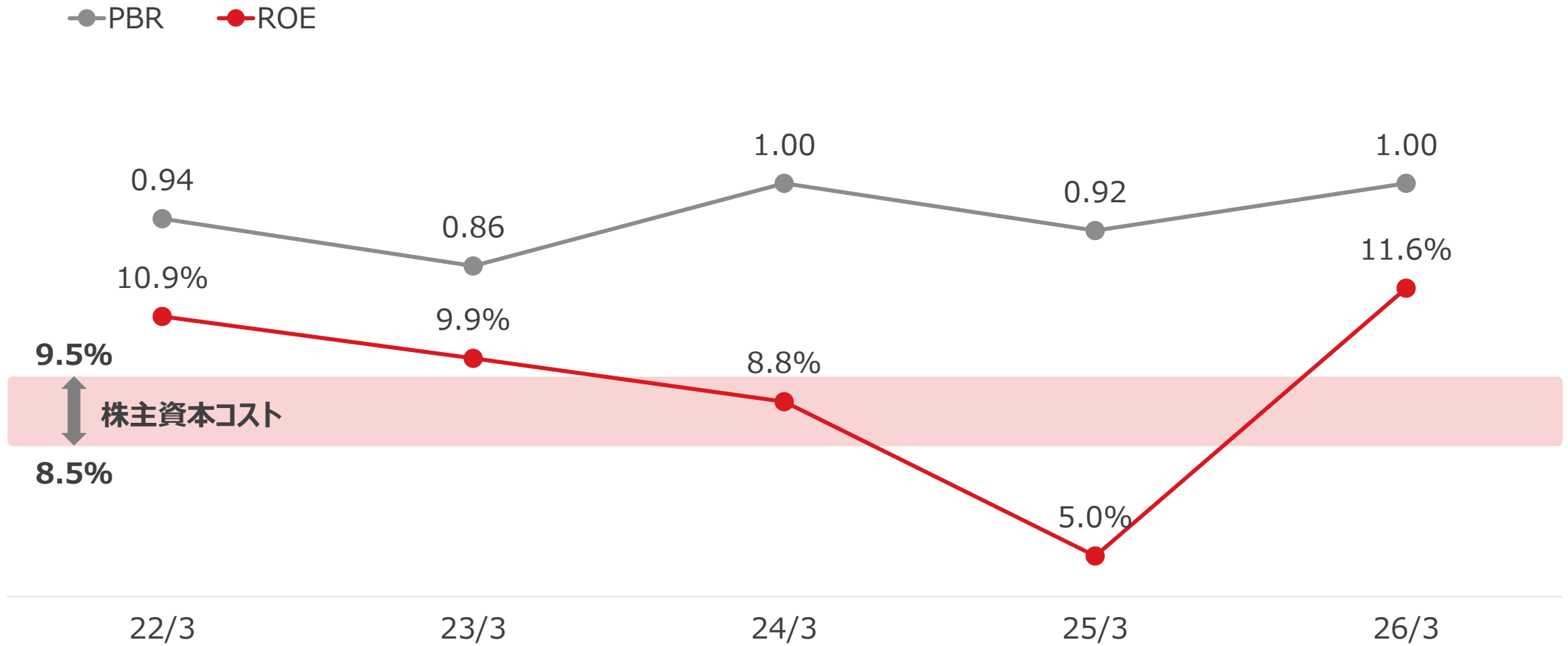


新客数の推移

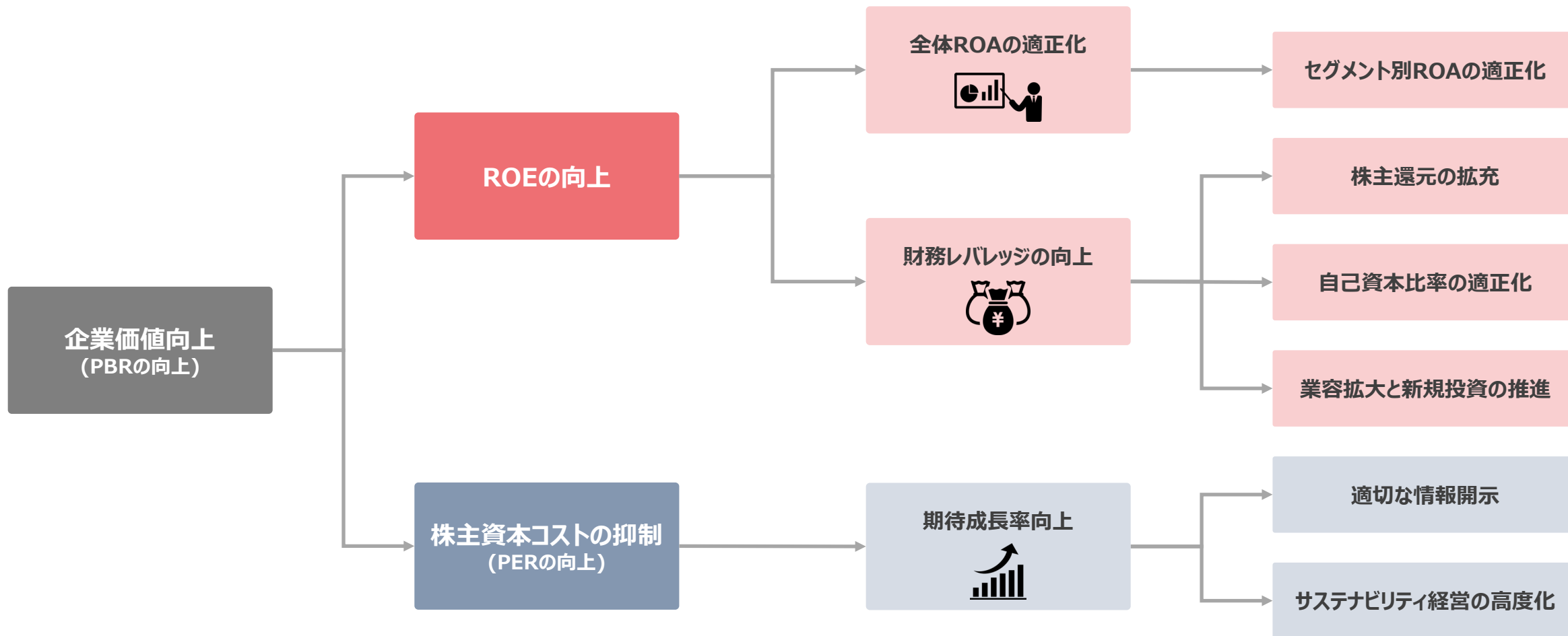
(千件)



PBR・ROEの推移



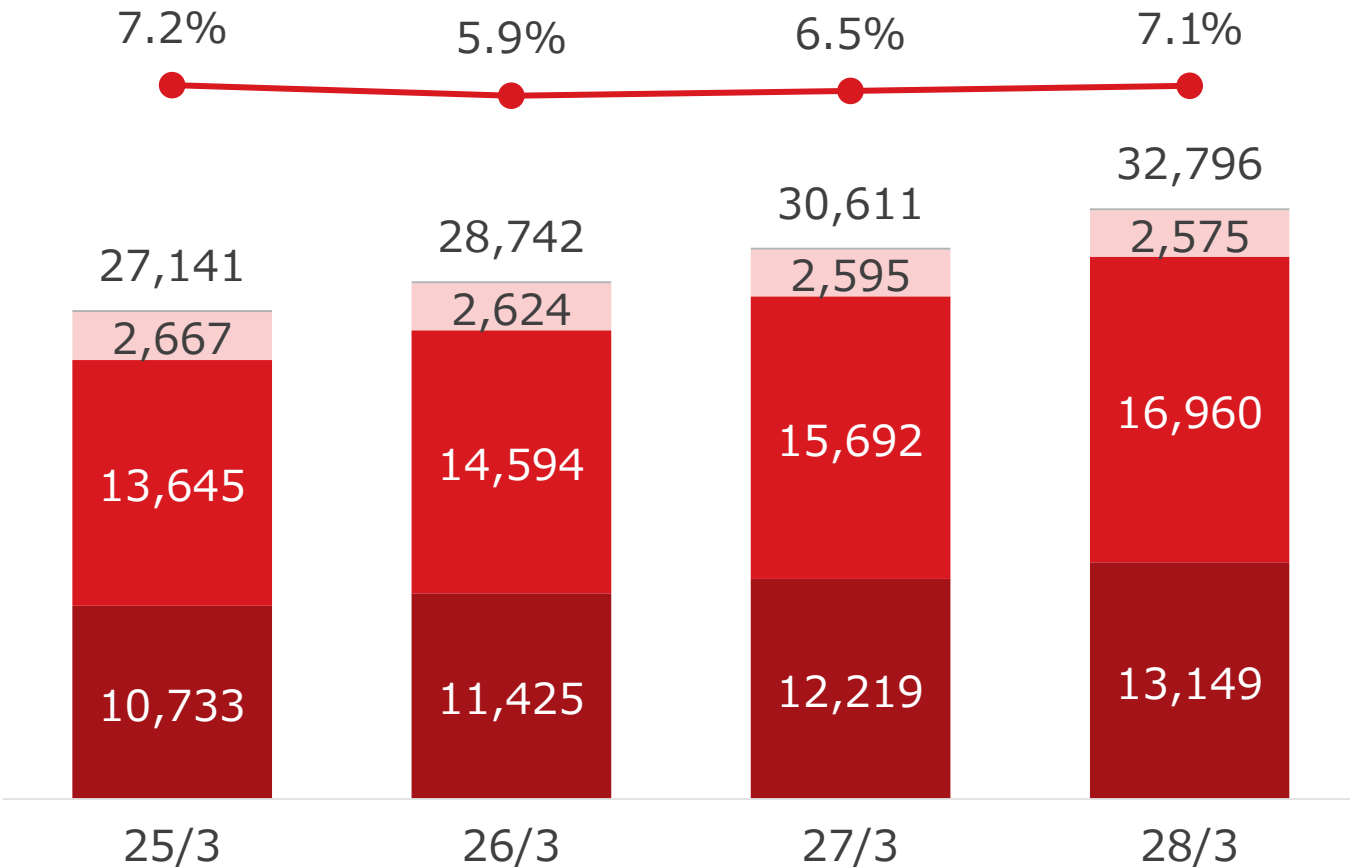
企業価値向上ロジックツリー



中期経営計画 | 業容

- ペントアップ需要が縮小する中、ブランド力の向上や、新規保証提携の推進などにより、ローン・クレジットカード事業及び信用保証事業の業容を着実に拡大させ、中計3ヶ年で1.2倍の3.2兆円を目指す

■ L・C事業 ■ 信用保証事業 ■ 海外金融事業 ■ その他 ● yoy (億円)



連結
営業債権残高

3兆2,796億円
(CAGR 5.9%)

ローン・クレジット
カード事業

1兆3,149億円
(CAGR 7.0%)

信用保証事業

1兆6,960億円
(CAGR 7.5%)

海外金融事業

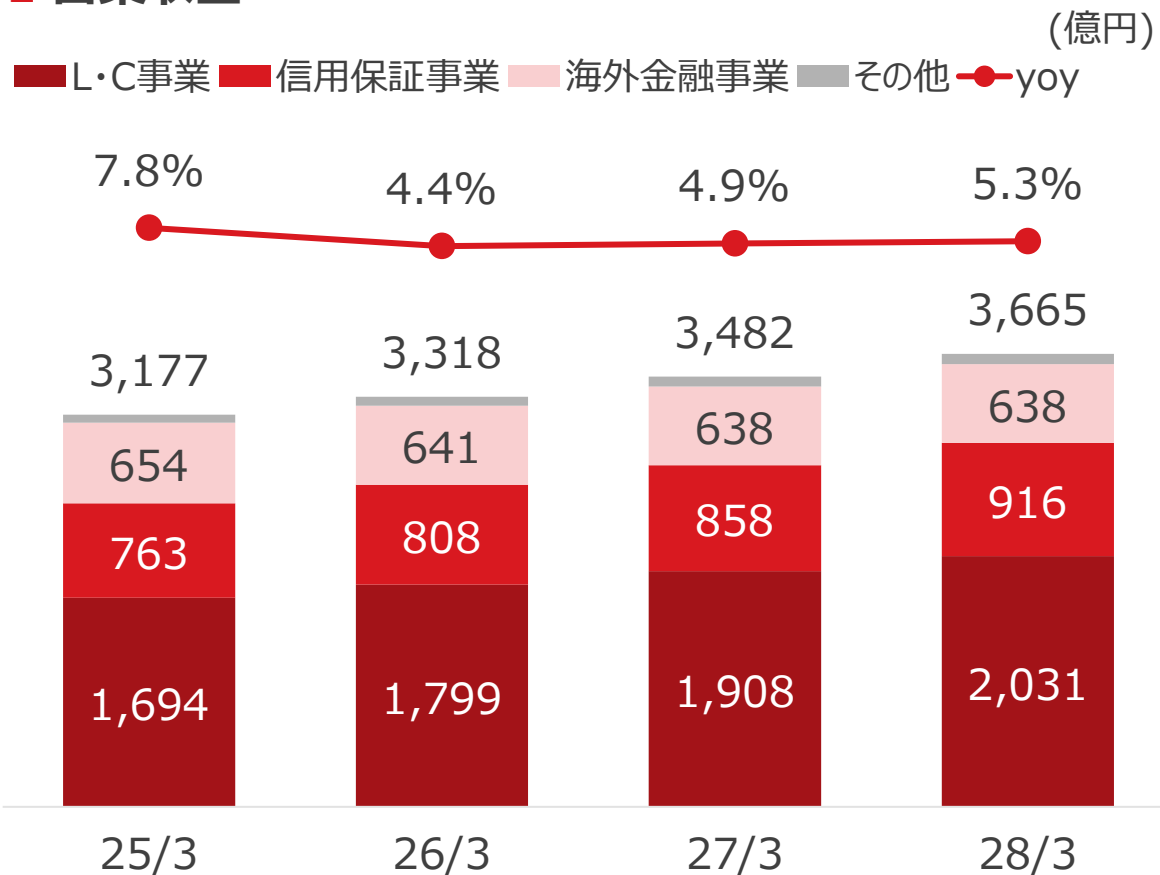
2,575億円
(CAGR ▲1.2%)



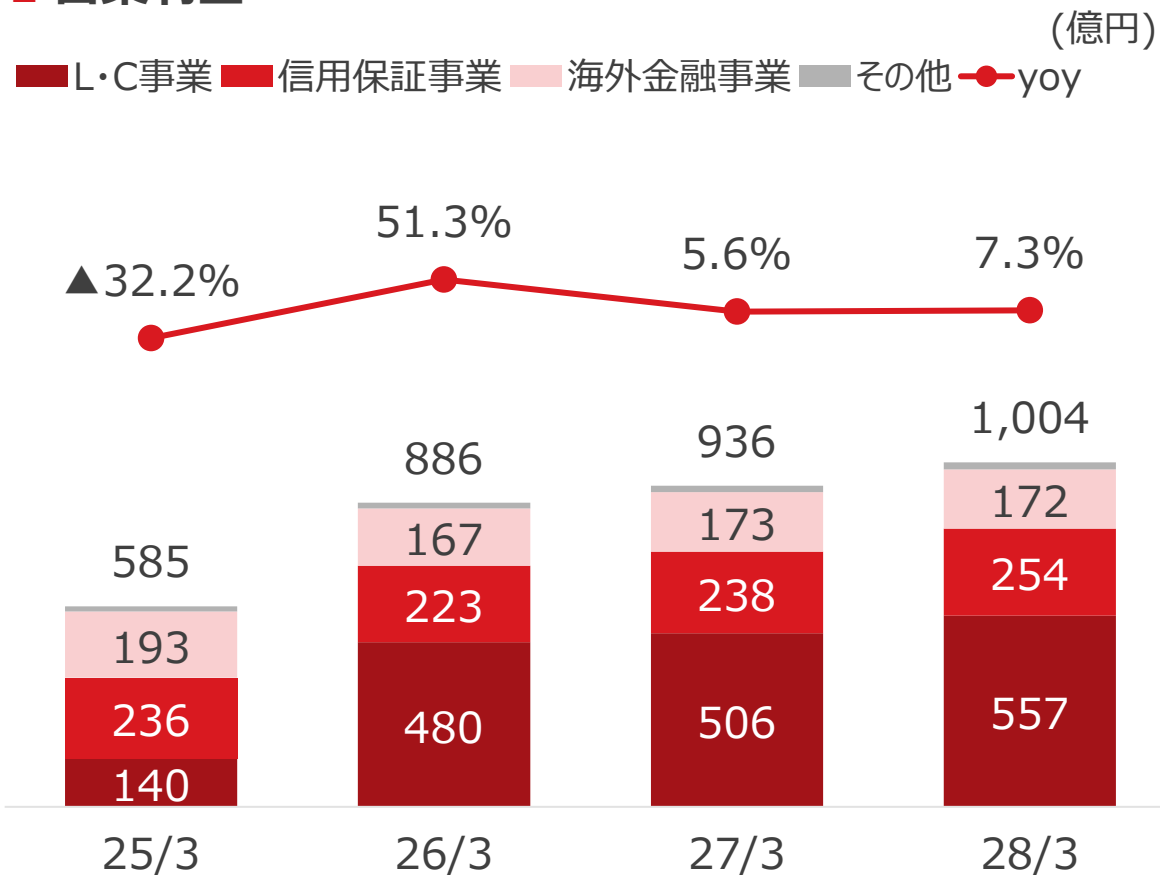
中期経営計画 | 業績

- 業容拡大にともない、営業収益は順調に増加する見込み
- 営業利益は、3期連続の増益を目指す

■ 営業収益



■ 営業利益

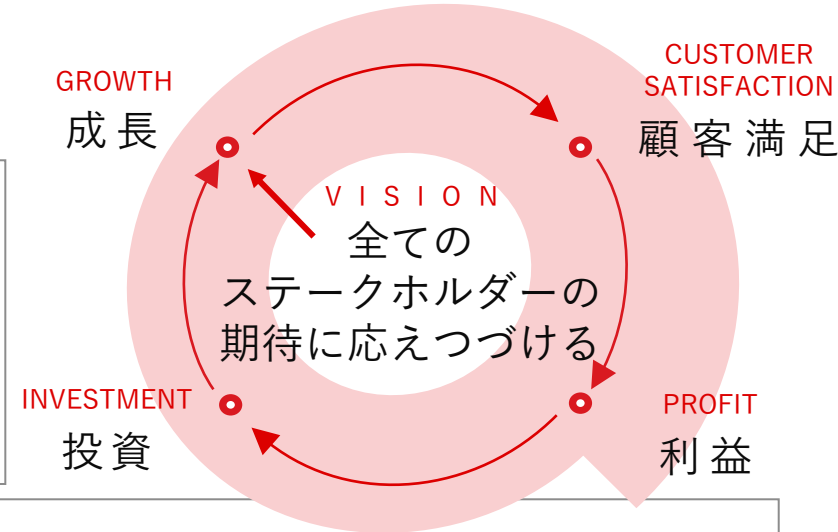




中期重点テーマ(2026年3月期～2028年3月期)

中期方針

ビジョン達成に向け、成長サイクルのスピードを上げる



全ての土台

- コンプライアンス・カルチャーの醸成

事業戦略

- パーセプション*の再構築によるブランド力向上
- 応対力と審査スピードの向上による良質な顧客体験の提供
- GeNiEの業務提携先の拡大
- 既存保証提携先との連携強化および新規保証提携先の拡大
- アイ・アール債権回収とのグループ連携強化
- EASY BUY（タイ）における法規制への適切な対応と良質なポートフォリオの維持
- ACF(フィリピン)、ACM(マレーシア)の早期収益化
- 新たな国への事業進出
- 新規事業創出への挑戦

機能戦略

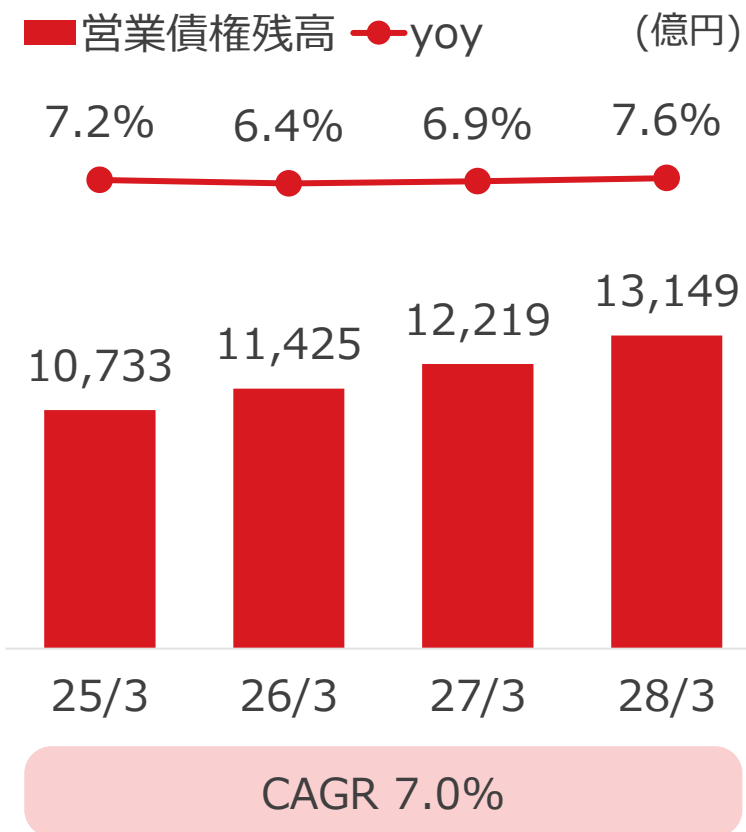
- 環境変化に柔軟かつ迅速に対応できるシステム基盤の構築とサイバーセキュリティの強化
- 採用・育成・定着の強化による人材基盤の確立
- 最適与信の提供と債権保全体制の再構築
- サステナビリティ経営の確立に向けた社内浸透の強化
- リスク管理の高度化とガバナンスの強化
- 業務効率化による生産性の高い業務環境の構築
- 最適な資金調達による安定性維持とコスト効率向上
- データ利活用による意思決定スピードと精度の向上
- 新たな行動指針の実践

* パーセプションとは、消費者のイメージや購買決定要因となる企業やブランドの認識・認知、知覚

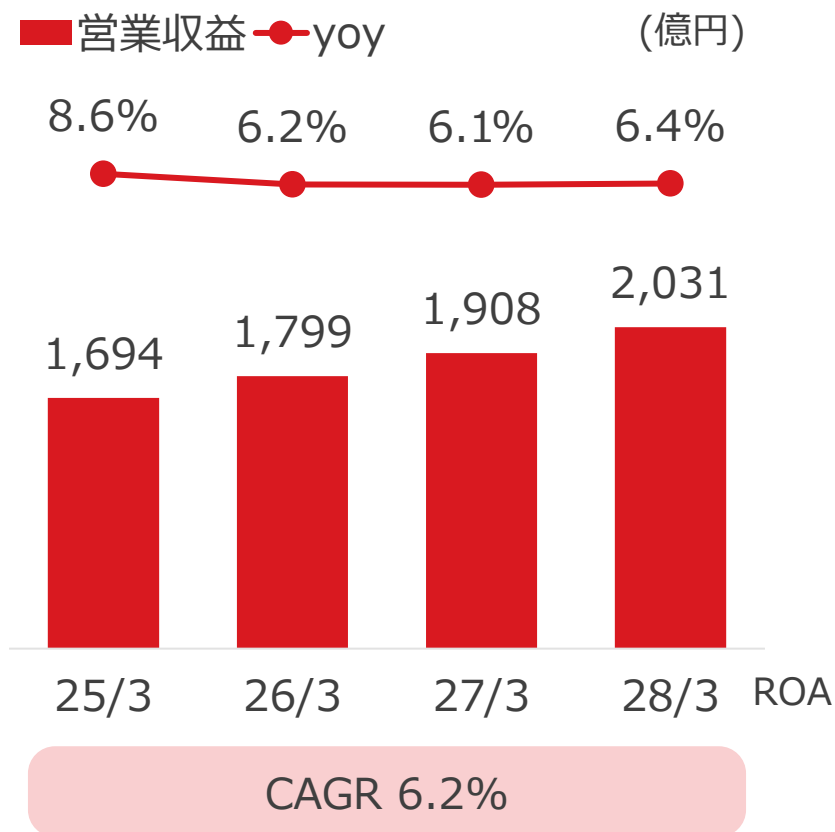
Q 中期経営計画 | 事業別業容・業績(L・C事業)

- アコム : 各種営業施策の推進や、ブランド力の向上、良質な顧客体験の提供に注力
- GeNiE : 業務提携先の拡大に注力し、エンベデッド・ファイナンス市場におけるリーダーポジションを目指す
- エンベデッド・ファイナンスを含めた営業債権残高は1.3兆円を目指す

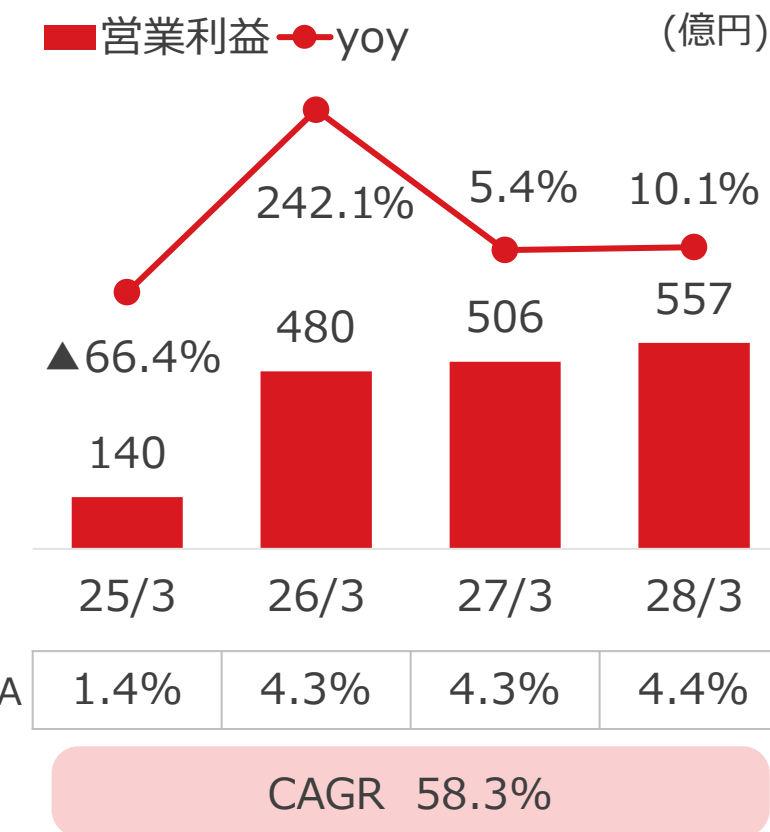
■ 営業債権残高



■ 営業収益



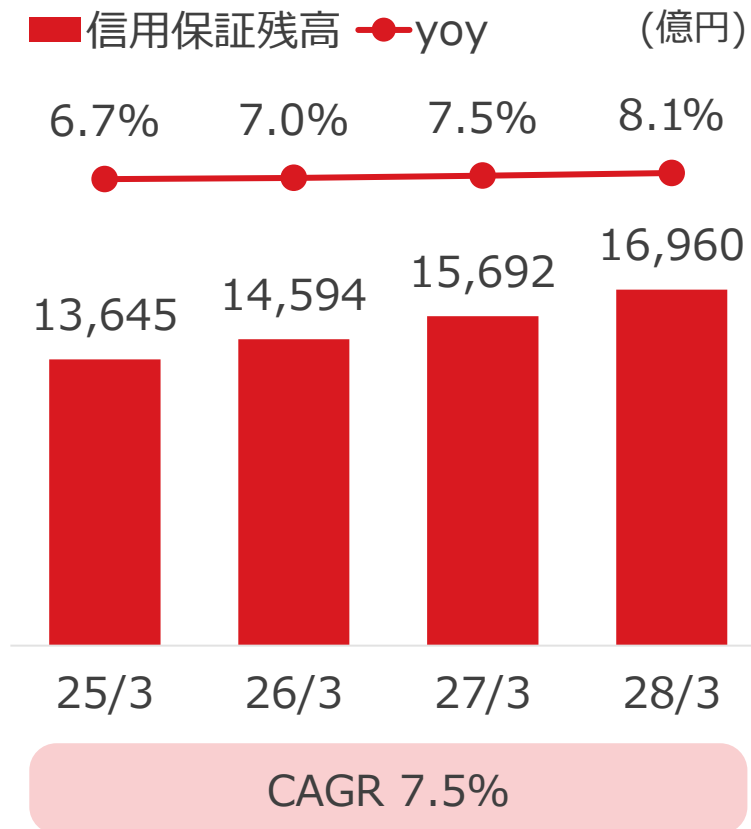
■ 営業利益



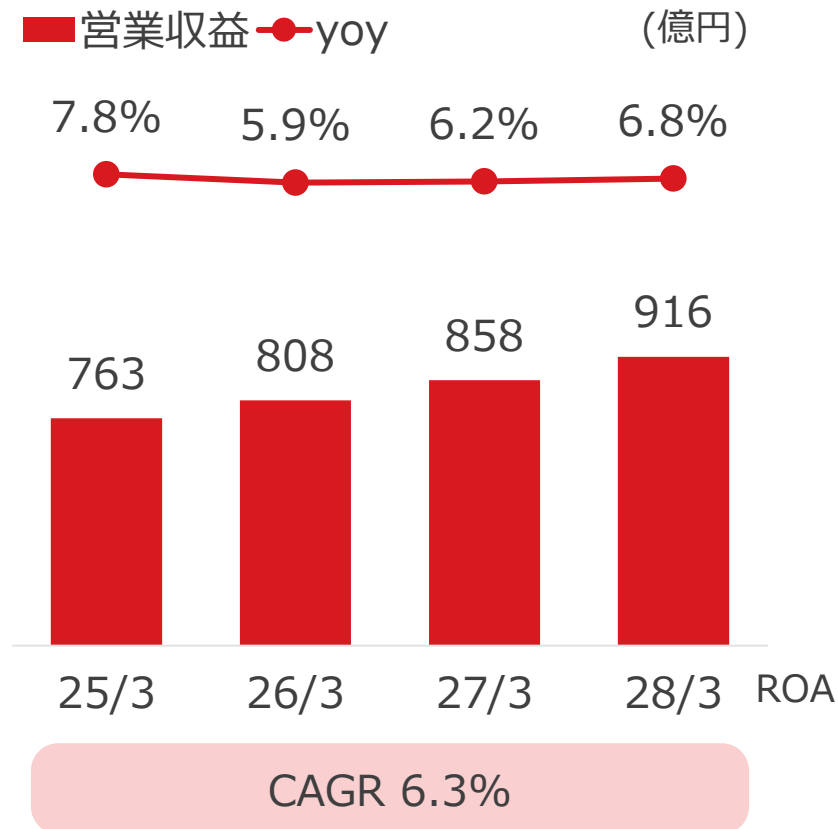
Q 中期経営計画 | 事業別業容・業績(信用保証事業)

- 新規保証提携先の拡大による業容拡大、既存提携先との関係性強化に注力
- 連結信用保証残高は1.6兆円を目指す

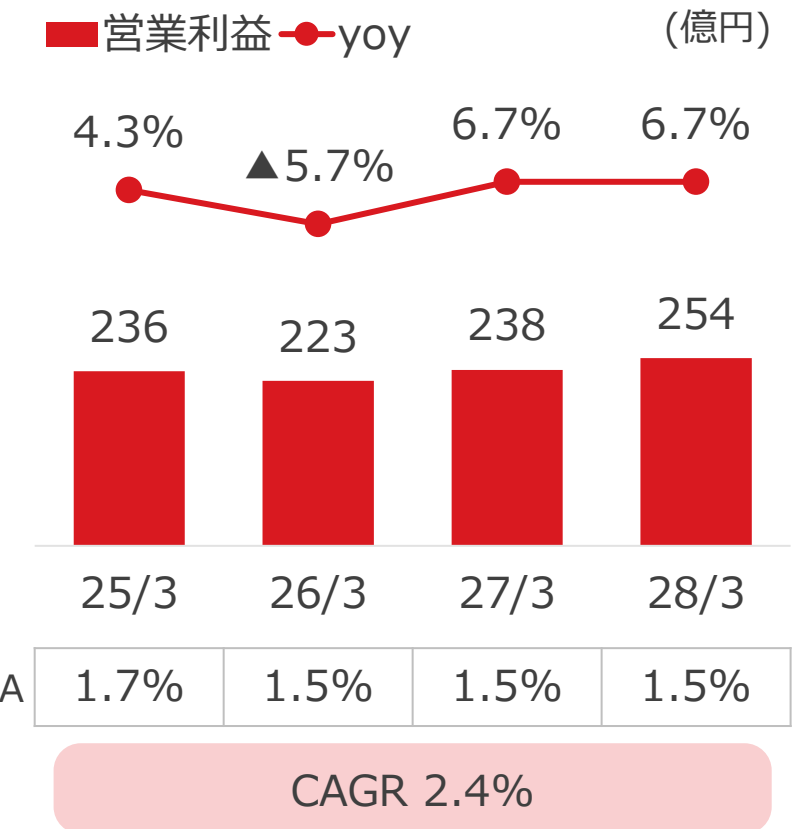
■ 信用保証残高



■ 営業収益



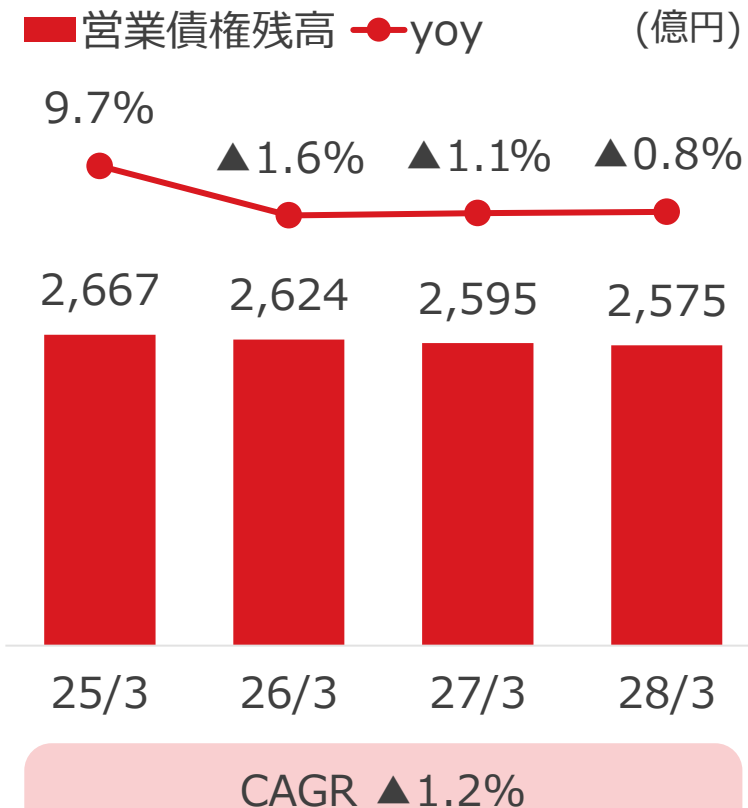
■ 営業利益



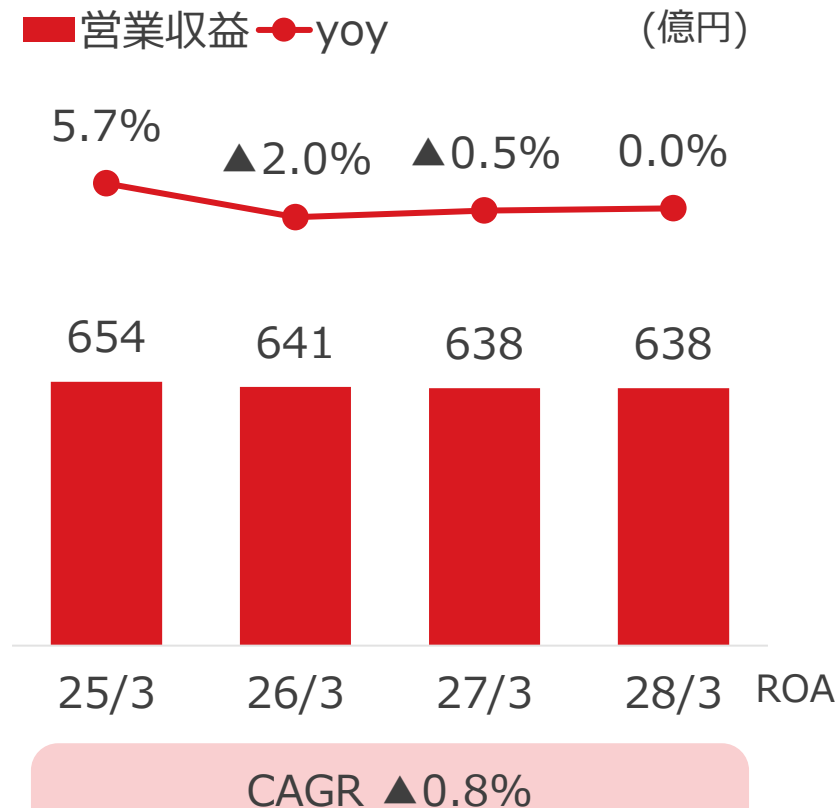
Q 中期経営計画 | 事業別業容・業績(海外金融事業)

- ACF (フィリピン共和国) : 新規獲得の強化や、追加融資に注力し、中計最終年度での収益化を目指す
- ACM (マレーシア) : 集客エリアの拡大と、与信モデルの高度化により、中計最終年度での収益化を目指す

■ 営業債権残高



■ 営業収益



■ 営業利益

